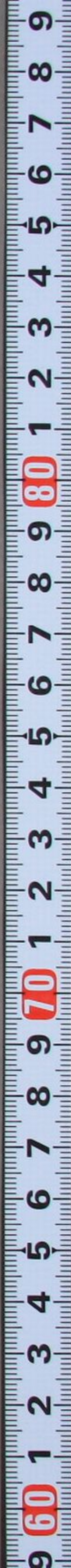
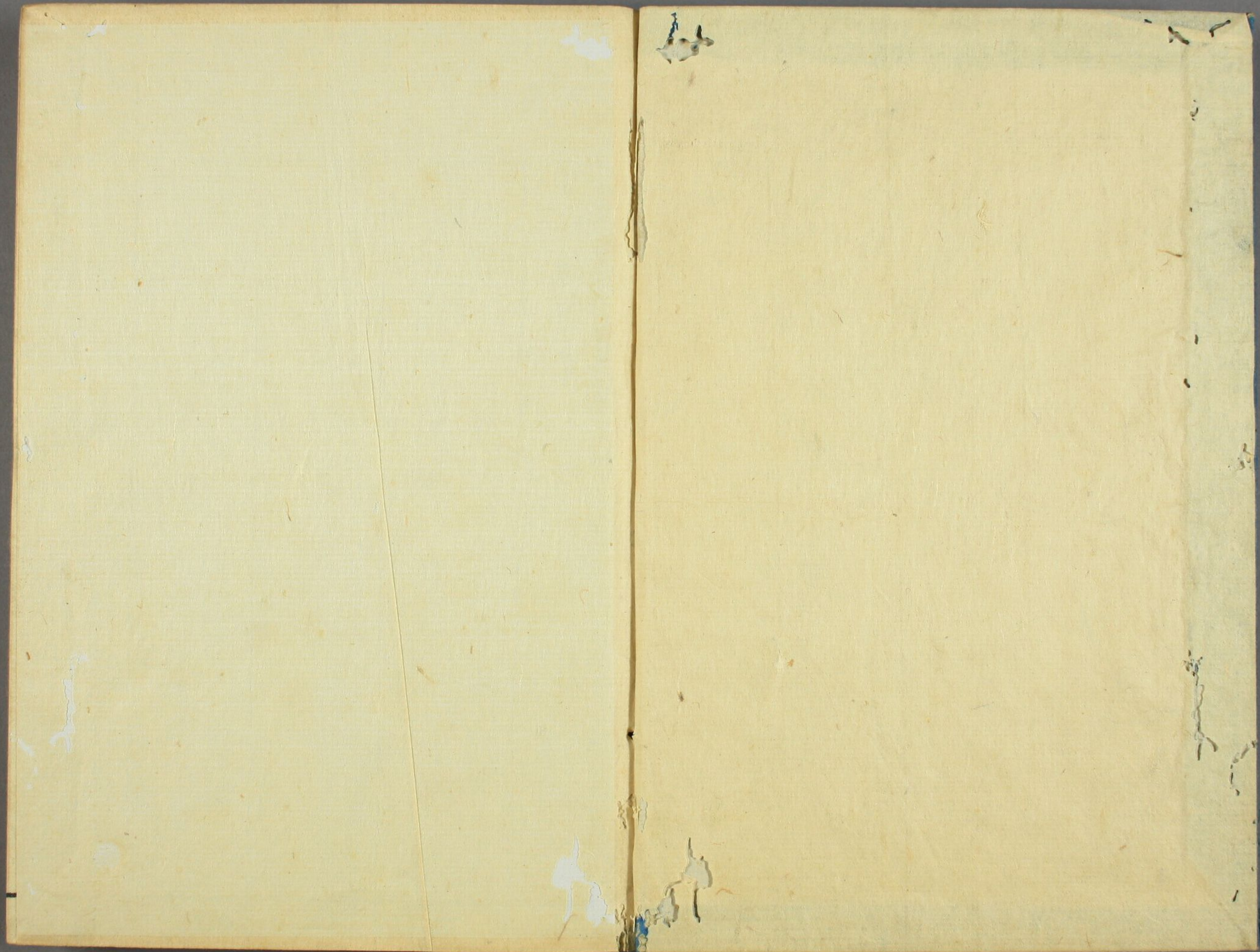




尾張名所圖會 前編

二





尾張名所圖會卷之二

目錄 愛智郡

- | | | | |
|-------|-------|---------|----------|
| 枇杷嶋 | 枇杷嶋橋 | 琵琶鳥の古事 | 枇杷嶋川 |
| 青物問屋 | 牛頭天王社 | 清音寺 | 八幡社 |
| 白山權現社 | 海福寺 | 林貞院 | 寶周寺 |
| 法藏寺 | 西願寺 | 正覺寺 | 花の木 |
| 淺間社 | 覺鳳寺 | 興西寺 | 山神社 |
| 武島天満宮 | 稻生街道 | 圓頓寺 | 慶榮寺 |
| 高田本坊 | 堀川惣河戸 | 延米會所 | 明倫堂 |
| 五條橋 | 金剛寺 | 天王祭造物の園 | 材木店 |
| 白山社 | 清水寺 | 淺間社 | 梵天切紙燈籠の園 |
| 興善寺 | 浄教寺 | 圓通寺 | 笹嶋燒 |
| 廣井八幡宮 | 同傘鉾祭 | 延命院 | 陳元賢寓居跡 |



伊藤玄澤施藥	福泉寺	藥品會	永林寺
廣井女王古墳	東光寺	大林寺	光明寺
南寺町の全図	養林寺	誓願寺	西光院
徳林寺	大乘院	天道社	牛頭天王社
長圓寺	八角堂	聖運寺	日置
堀川の櫻	鶯谷	織田丹波守の傳	無三殿間
八幡宮	弘法井	了義院	東界寺
五百羅漢	相應寺	神明社	藏王權現社
長久寺	八王子社	龜尾清水	七尾天満宮
鷄藥師	松山天道宮	山吹谷	養念寺
鳥が池の園	平田院	建中寺	情妙寺
觀音院	圓明寺	教順寺	養蓮寺
善光寺	高岳院	東克寺	含笑寺

永安寺	長榮寺	本立寺	照遠寺
法華寺	常徳寺	妙蓮寺	法華寺町 全圖
白山社	大圓寺	片岡源五右衛門墓	西蓮寺
富士權現社	瑠璃光寺	誓願寺	淨念寺
小袖塚	光圓寺	圓輪寺	繁昌院
産前産後二母散	聖徳寺	守細寺	白林寺
政秀寺	平手政秀信長公へ諫書と上る圖	勝鬘寺	勝鬘寺
清淨寺	柳生兵庫居住地	三輪明神社	東泉院
槁の寮	富士見原	大池	醉雪樓
万松寺	白雪稻荷の園	隠里	春日社
長榮寺	九老尚齒會の園	梅香院	榮國寺
崇覺寺	東本願寺掛所	古渡古城	

枇杷島

琵琶島とも書けり川の東と云枇杷島より川の往昔師長云井戸田

の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

戸田の里に満居りし時里長横は何某の娘と別初と云ふに井

枇杷島橋

大橋枇杷島村下小田井村の堺 元和八壬戌年 國祖源教公

有司に命じて造らるる國中唯一の大橋ありて東西に二橋を

架せり大橋長さ七十二間小橋二十七間杭桁梁高欄其外にも

多く更に他の雜木と支へども檜材を用ひて結構の善美人れ

目と驚きせり又大橋の間に中島ありて南北六町あり川中へ銀土あり

も此方三町ありて萩叢やて毎年秋の以ハ尺地も少くは

ましく紅葉の清流映ひて奇觀之此所に二軒の茶屋ありて

往來法人の飲食に供給も凡美濃沼より中山道及び東西法

の往還ありて旅客もよく西國の法候方通行の官道往

來常に後様一軒ありて西國の法候方通行の官道往

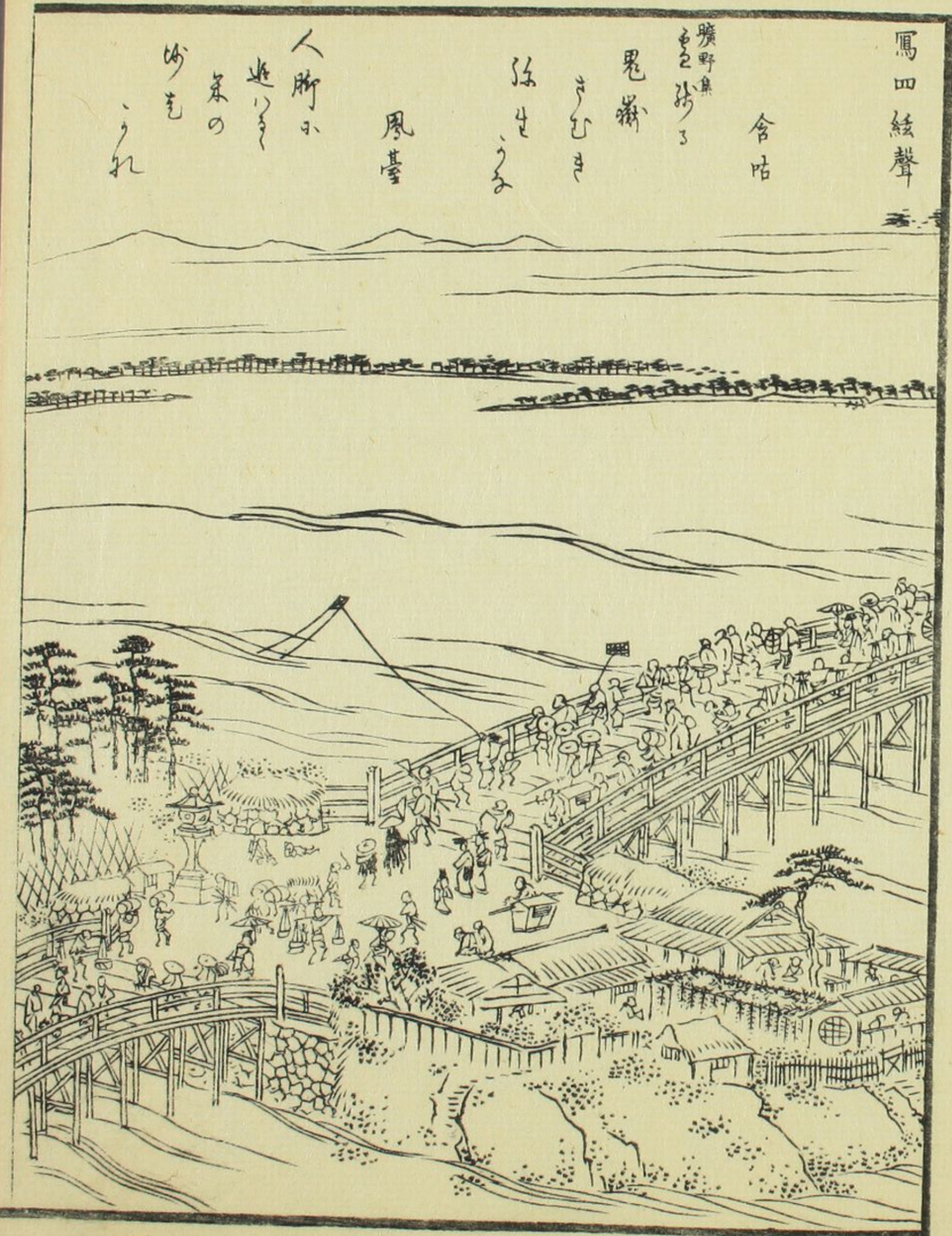
來常に後様一軒ありて西國の法候方通行の官道往

來常に後様一軒ありて西國の法候方通行の官道往

來常に後様一軒ありて西國の法候方通行の官道往

來常に後様一軒ありて西國の法候方通行の官道往

來常に後様一軒ありて西國の法候方通行の官道往



馬四絃聲

合帖

鬼嶽

弦生

風臺

人脚

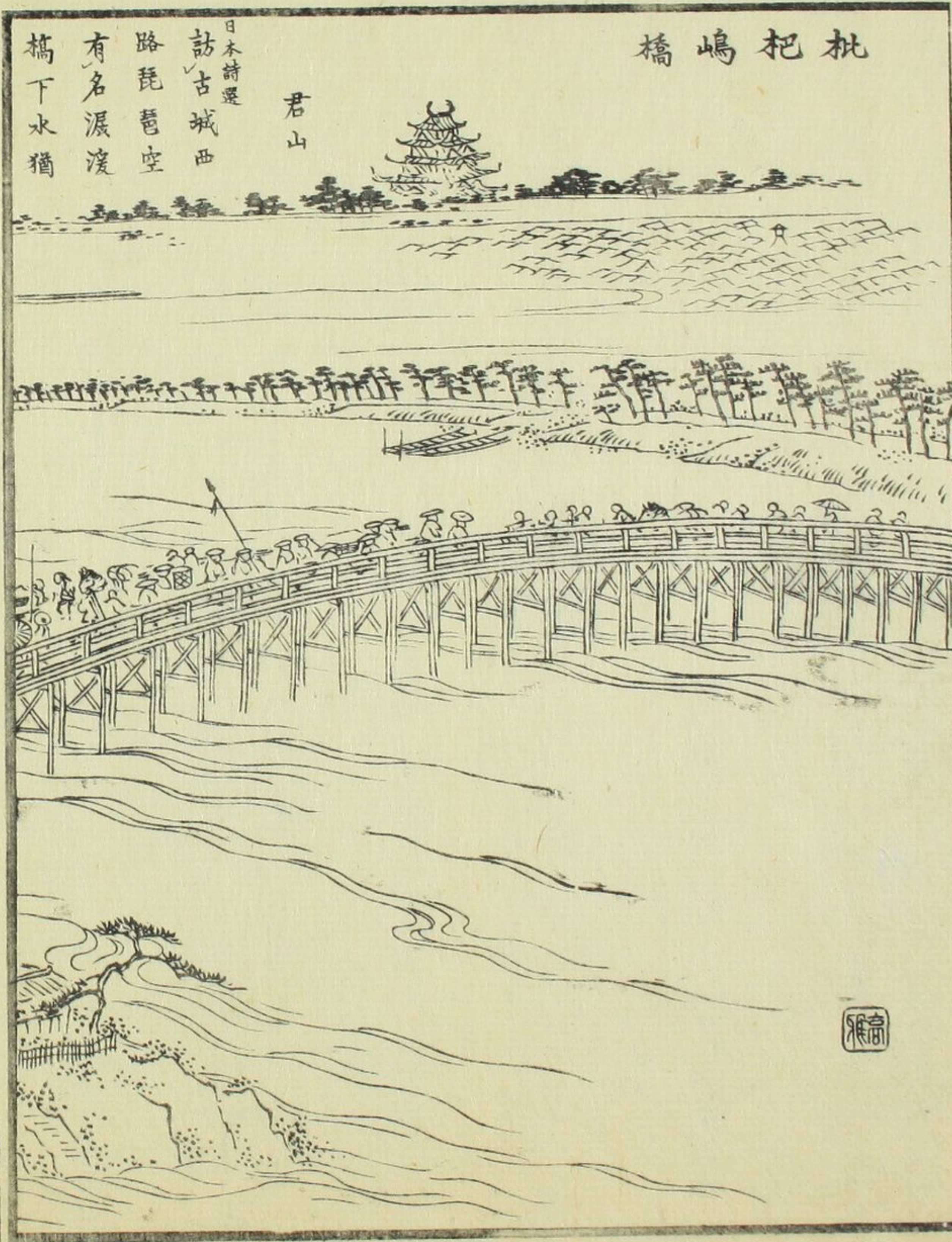
糸の

これ

枇杷嶋橋

君山

日本詩選
訪古城西
路琵琶空
有名浪渡
橋下水猶



雅高

小入ア西北ハ本官山小牧山も余此羣壑中ぐるか鮮う小凡え後り春
 の麓夏の涼く秋は月冬の雪まで四季に眺り走るく次古今の
 騷人詞客も此境に到らぬいあくく又類ひあき勝景うり

新川集

琵琶橋歩月

岡田新川

浦雲端素月上層柯紅闌影落長流水白芦声韻數

疊歌不道人間仙路隔乘槎直欲到銀河

卧海園詩集

經琵琶橋

延壽道人

城外逢人識面稀十年空負舊庭閣官橋影射滄波

動旅雁声凌碧落飛松下長堤通大道天涯斜日照

社盟詩載

一一路行將近五色祥雲迎錫歸

良察

雪金城十里暮雲天翠松鬱鬱雙行列綠水潺湲兩

派分好景新詩成未去踈鐘點々隔林聞秦滄浪

怨復怨兮江水頭琵琶白菊幾回秋幽衷不_レ得_レ絃中

新山雨河風向客愁

織月如眉照淺汀相公曾此別娉婷瑋々驪兩橋頭

過似向琵琶橋晚望聽

官道二三里外蒼茫暮色如描淡烟東岸西岸斜日

琵琶嶋の古事

横江氏の女師を去るに別を
 有りてしりては形見
 此琵琶に離恨と云ふ

よりの弦のまへよ
 うけく三洲川

沈_レ果_レと
 一音のあやと

あはれ_レ死_レぞ
 危ふ琵琶地盤

起る委_レきき_レる_レハ
 枇杷湾の家に懐

日岡

あはれ_レあ_レま_レれ
 は_レの_レあ_レま_レれ



香煙

長橋短橋楊柳番遣鷺宿連漪動處魚跳滿眸皆是
詩料不似徘徊市朝
橋分兩郡雙龍影水孕中洲白練光醉步歸來涼可
掬螭姑聲裏月微花

よしの流れはきき恨は流るゝ河原の水は世にあらわす
継身とあやうらわれ泉を汲みよりの流はききやも
ききよの流は流るゝあきまの流のききよの流は流るゝ

新妻よりの流は月言はあつたよの流は流るゝ
五筑坊
道直

一葉ふるふに日此あつた河原の流は流るゝ
秋廣
波形に干らるる砂や砂月夜

枇杷嶋川 枇杷嶋指下と流る川一名小井川と尾張風上地にのり大井田川の別名ありて大河あり 水源三ツありて

一ツ濃州郡那野折竹よりわく因出波取谷戸と河玉野勝川味

流るゝ一ツ内津 是と内津は 出松本川と河上奈村より玉野川

の下流と落合一ツ三河加茂郡よりわく瀬戸赤津山田安井
矢田川と河縮生より二道合流此大河よりわく下流は万場

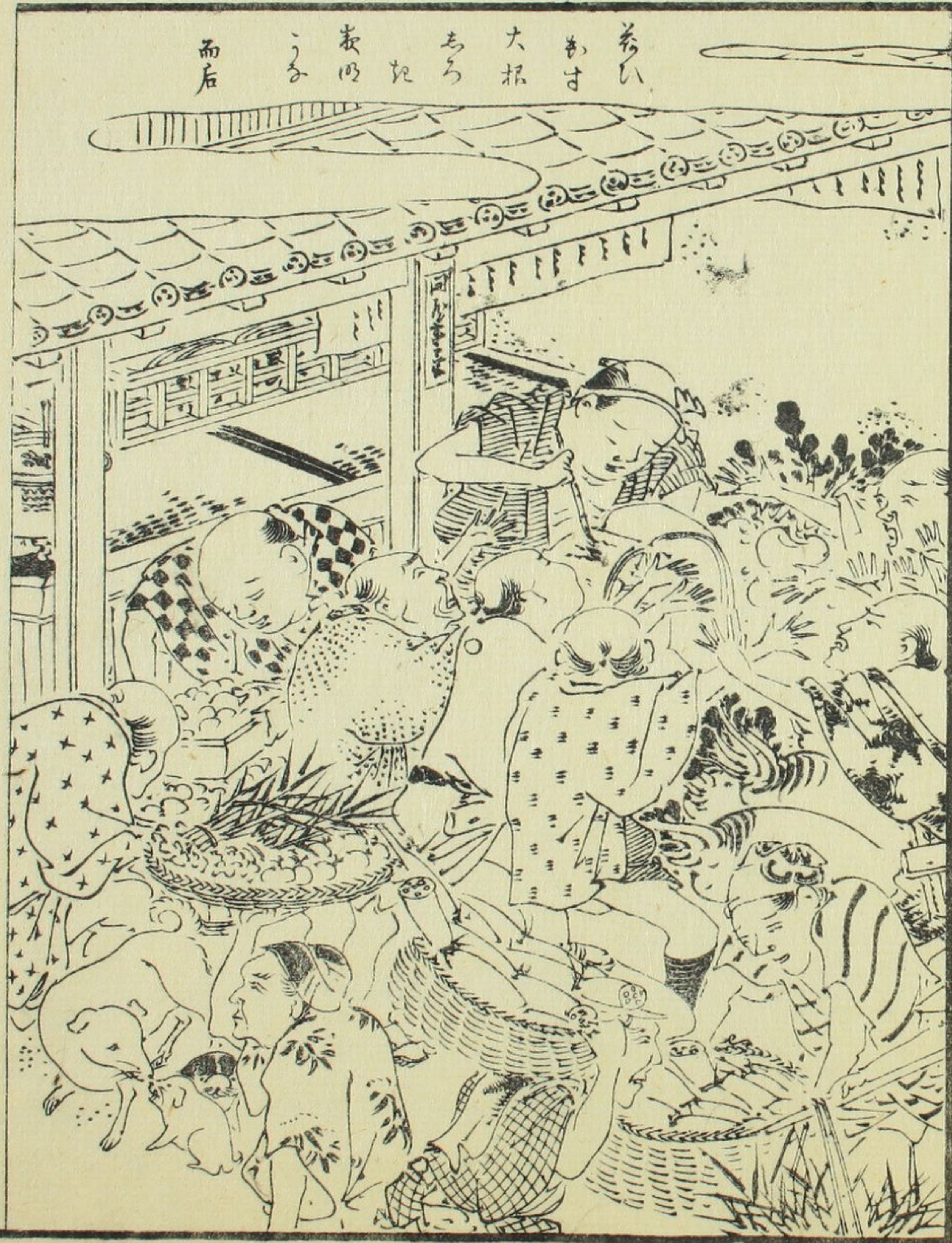
一色と河海小入 はは水の藤木橋井のあたりに流る 比川平生は清冷の毛
流るゝ茶人をも珠に水と賞美せり 積霖大雨の時洪水浸して岸と相埋と浸して水勢盛小ありて水の増減とわきに依りては按ずるに元和をかりは水落ありて洪水の時水勢漲りておも通はざるより那古野合戦記及び信長記ホの文意ゆても志記にききり

青物市問屋 檜の西向屋町問屋のるあ例小三十八軒ありては十九年に市は條九座の由の委りきりては葉蔬朝 凡一年中の朝づくに市とあり四時の葉蔬干

市記に譲りて是と畧し 由の委りきりては葉蔬朝 凡一年中の朝づくに市とあり四時の葉蔬干
の品類甚多して枚舉に遑りぬはすて是と畧し 根と知り名産
の所産の地名は条下に宛てて形状風味を詳小示す 美濃三河伊勢後

河京大坂の産物よりわくに流れてあつた万物をど山とあせる
かく万物とわわ世に万物 買あひの商人賑ひあつた集りて暫時に

善い 大 招 ち 表 而 后



青物市



送す、實に府下祭目の餘澤少くして一大盛事と云ふ

繫辭傳曰神農氏日中為市致天下之民聚天下之
貨交易而退各得其利其所其散見于古記及古歌者
不違歷、皇國令式之我尾張國琵琶橋西下小田井
街之有菜蔬之地果如其言其為市也神祖嘗曰
將未應為繁昌之地一日之虛交其之喧聲不能震
于己一歲之中無一日之虛交其之喧聲不能震
往來之填盈人不得顧至我尾及遠近之品物京攝
之名產莫不輻湊於此實可謂市之盛者矣市之行
頭凡三十家而市兵衛九左衛門二人是其魁也
蓋琵琶橋者元和八年壬戌敬公命有司創造之
同年十一月公奉神祖之遺命命下小田井村
民市兵衛及九左衛門者護此橋因賜永世復田若
干九左衛門者有故辭職唯市兵衛連綿職二百
十三年於茲矣今茲之春余遊于此地觀其市聽其
由之次聊述二韻如句云
無龍斷私 有恩澤普
香實老人
天保五年甲午春三月
上田秋成

市比林よき律て夕影を風吹きよ

市人よこのまきくうまむ 此傘

牛頭天王社 神明社

向屋町北側にある天王社の素蓋鳥尊

末社 金毘羅社

例祭

正月廿日祭ふと奏す古例ありをりて委しきり八株根着のりりハヤ尾陽年中行事に瀧りて畧す六月十日試衣ありて翌十日車樂四軒と引後す人形の機工を青地又八月十日

神木

松樹の大樹あり松樹の根が今も繁茂なり

祠官 青木氏

松峯山清音寺

東松峯山にあり曹洞宗三剛村正眼寺末創建の年記詳あり

本尊

阿彌陀如来

堂

師長も本尊ありて縁起云蚊祭薬師如来弘法大師一刀一礼の御作師長守本尊云公の愛妃が亡霊甘誓提のりり小管の

おひひ女の法号 清音院松月 藤原大姉 によりて清音寺と号すなり

天台宗七堂伽藍の霊場ありが應永年中の洪水に堂宇流

亡し享禄年中又焼失りが慶安の水火難小少来のりり依然と

中興一今れ宗に改む

文書あり

師長之位牌

青山草創開基妙音院殿大相國師長

公建久三年子二月九日

霊寶 師長公画像一幅

建久のの古画あり年と記あり

志保原某田中 訥言として撰りてあまたの事附す賛に よりの終れ
 白菊此
 琵琶の圖一幅 是も古画ありと近年若井の書写一因上に自ら作曲と記す
 文書はれハ畧しぬハ琵琶希代の名ありて古ハ藝田に沖庵の
 納まりてありて後たかたて
 今ハ神ありて存せり

八幡社 清音寺の東にあり 永 本社 皇神 應神天皇左ハ神 末社 神明社 天王
 享二巳丑年の創建ス 功皇后右ハ武内名祿社 社 稻荷社

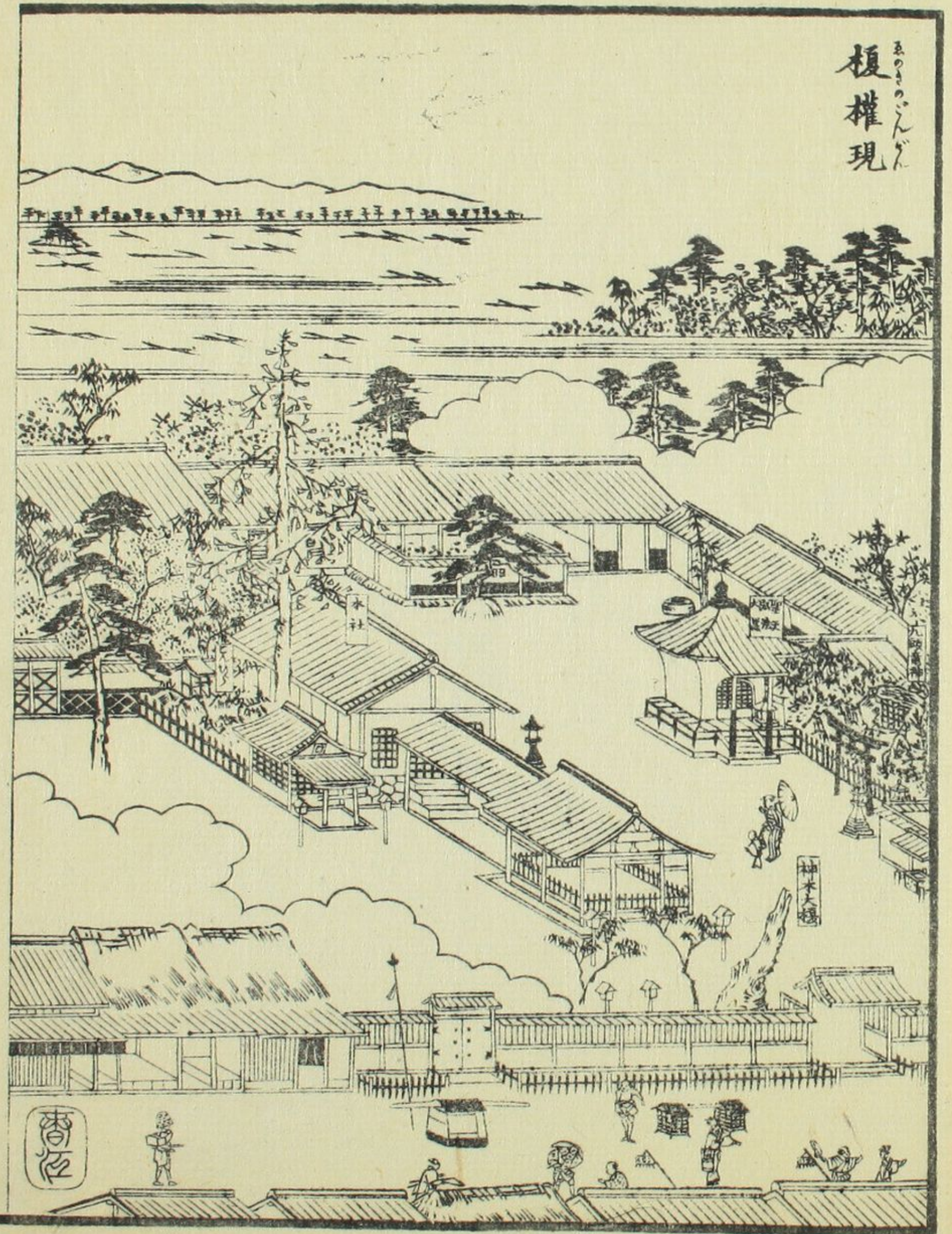
全羅羅社 例祭 八月十 折當社ハ八幡と通稱し、曾れ法急或と
 赤天社 五日

位作せり ○祠官 神戶
 海のそとにありて祈願もまば必天驗著しけりて海と何人結ぶ

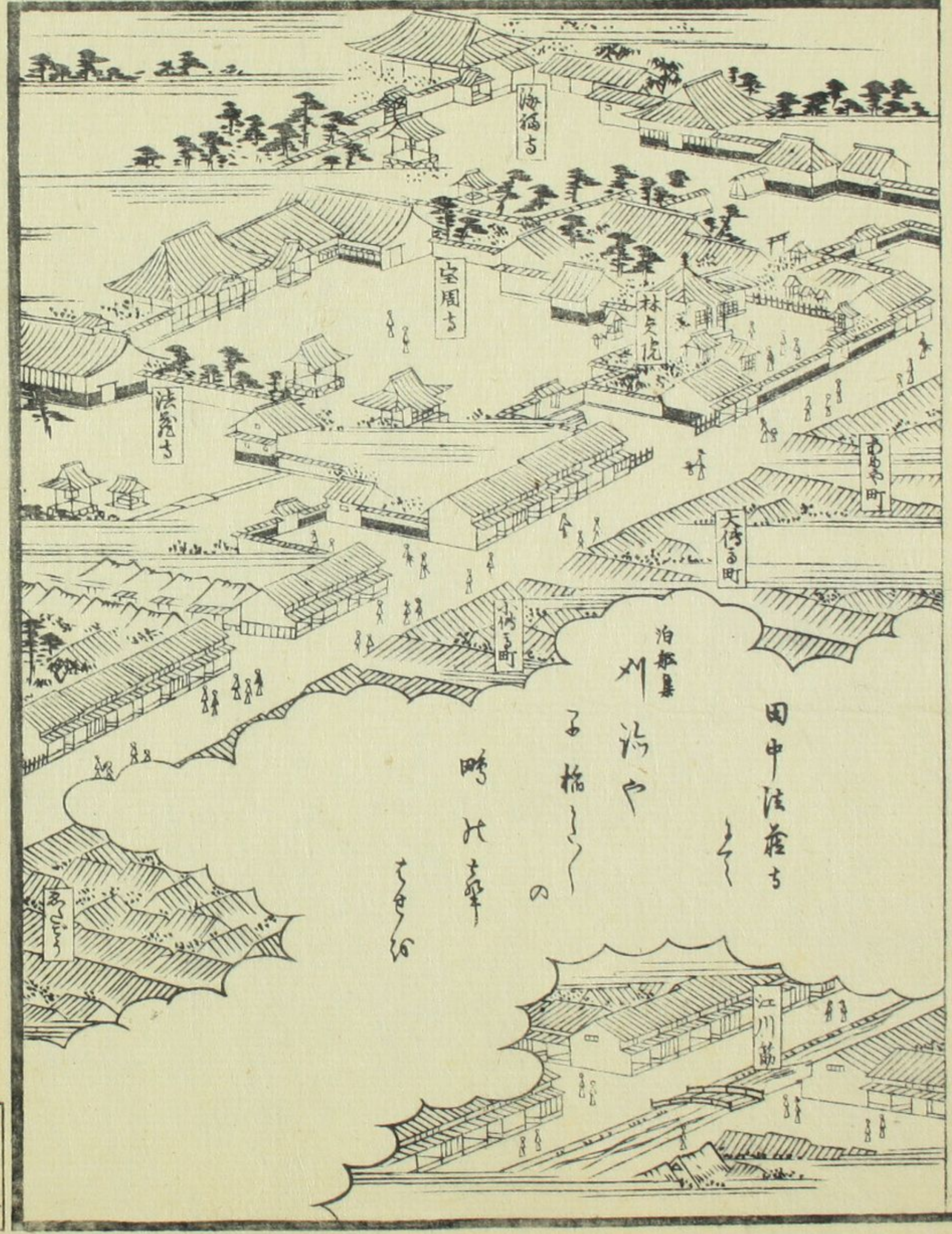
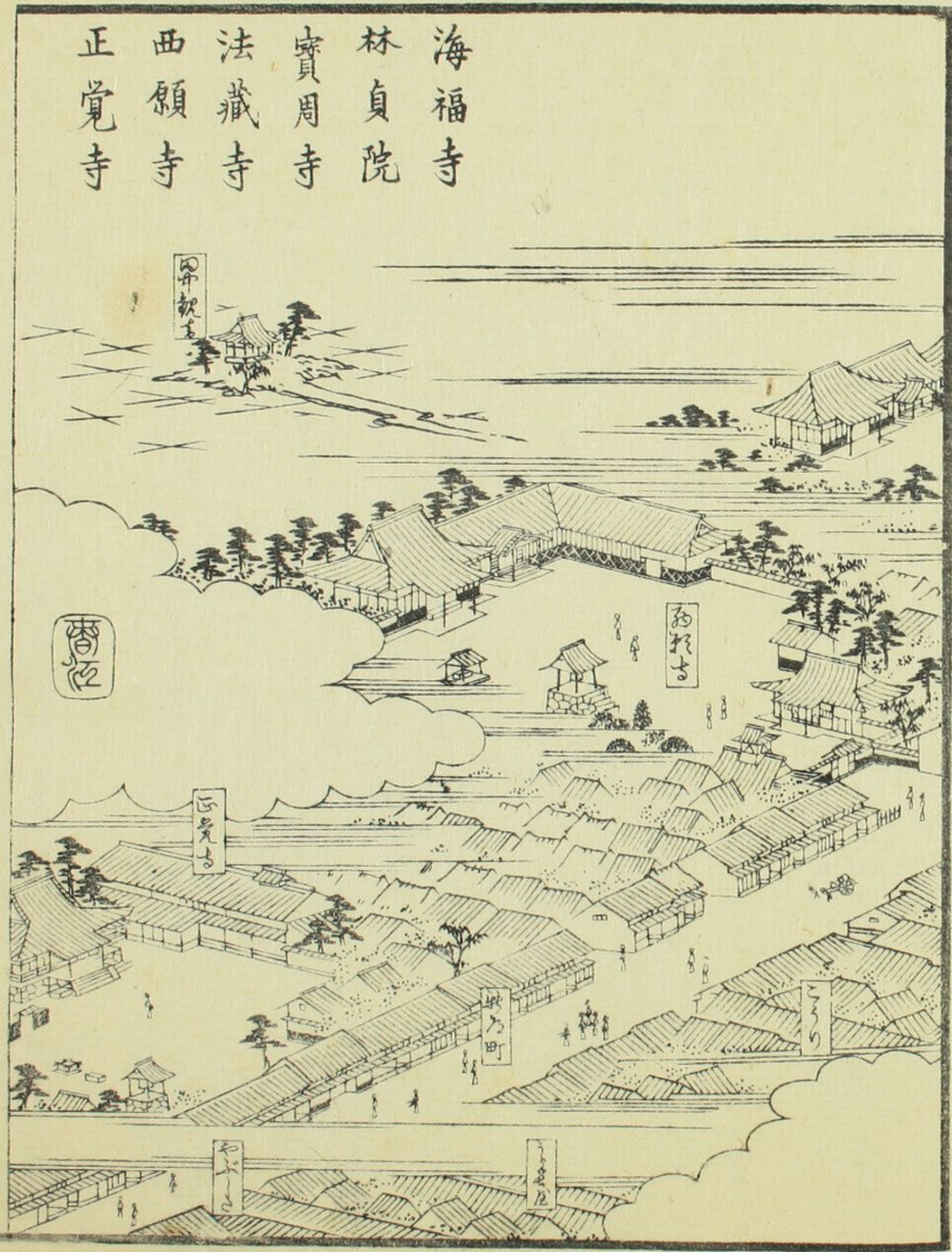
白山権現社 押切町の北側にありて俗に板の権現と稱す別名ハ板本山福満寺と稱す
 紀伊國三野山金剛三昧院の末古文禄年中に建立し縁起畧に曰当社ハ
 文明九年 赤木の太守斯 波流部太輔義廉清波に在株の加州白山権現を位作あり
 一に或板屋中に老尼居りて我ハ白山の灵之ありて當ふ等 表里の間に御清才一武門
 と守護せんといふ事ありて是れ社と稱す一在名に神宮秋葉と云ふ事あり又社内に板木一株あり
 て是れ白山の神木ありて板権現の稱すに起り 近年板権現すといふも此の通稱也
 あり○當社鯉口に正長二年九月九日の文字ありて西國の法度方流球人
 かくとていふ事ありて社に休息の書院あり 西に北眺をす南に風を願ふ事あり

玉峯山海福寺 中下新道町の北にあり 西側にあり 源海宗の末妙心寺 本尊 釈迦
 像定ま 未寛永十四年此建立直傳和尚といふ所山といふ の本
 の作 鎮守 天満宮祠 當古大檀那元祖天満宮九生傳の末附ありて今も天
 満宮の修理と切ありて此家業の供ありて當の商

榎権現



海福寺
林貞院
寶周寺
法藏寺
西願寺
正覺寺



家ありて其四代目曲全ありて人者氣豪不羣ありて千原の門に入りて奉りて其後世を
究り終に眞の皇子と傳へ曲全流と聲創り一時の門に大師者其ふも名を語りて天
下の名流とも多くを稱しり又法言書画と善し或は海青蒼と号す室曆十一年言歌
八十三歳にして名を法言と稱す玉春年曲全流と道統と号す凡流と号す梅樹は
別荘に隱居して左市と稱す或時小菴室に展置に自在ありてその造り梅樹は其の
ありてはことと梅樹は著しく我意の適し所に隨て點茶と号し又自らも蝸牛菴と
稱す千村伯就を以て梅樹と號せり父を以て号す左市は其後世に於て今
と寺傳す天満宮に子孫今八代目ありて形連傳して家名を傳す凡菴に此の
源流ありて其の遺蹟ありて人知る

馬頭山林貞院

海福寺は南隣にありて別寺ありて
寛永年中主傳和尚と号す本尊
法長勝の守り本尊ありて子孫流浪の後興ありて此の像と号す
寛永年中本尊の寄附せしむる美佛ありて此の年中の羣集絶ふあり又本造
の子孫も今 國君に傳ふ
寺ありて伊賀と稱す

高木山寶周寺

林貞院の南にありて浄土宗と號す東院未寛永八年未年陽州上
人とい中真阿山とい本願人宝周院心善妙安大姉とい本願記吉住
の室ありて石川とい信光とい女とい

田中山法藏寺

宝周寺の南にありて本願寺宝志依三州計砂法藏寺ありて
長治二百年法藏寺持立郎景改の二男三河と號す教盛とい稱す此の
別墅の時の建之嘉永元年丙戌年當春日井郡小田井村へ移轉す此の
御徳といと明應七戌午年蓮如上人の子覺元といと中興といと當永三年名
古屋村の内田中へ易地す此地舊古木に控居るに遺蹟の次當に逗留せり此の時
句石に彫りて今も境内に建たり句を國上におけりて此の寺と稱す

本尊 行基の作

寶龜山西願寺

法藏寺の南隣にありて東本願寺といまありて天台宗とい
甲州の仙人馬場七郎惟英の弟惟英出家して西英とい今別馬
場美濃守信房の伯父とい文明年中蓮如上人に歸りて當寺と稱す今別馬
場美濃守中守城築つ時中下法言町へ遷り元禄年中本願寺に當寺と稱す
堂は神城清造宮の神林と國君賜りて建之と云

阿弥如来

蓮如上の草 阿弥陀の画像
聖徳太子の御作馬場
美濃守守り奉る

阿弥如来

聖徳太子の御作馬場
美濃守守り奉る

靈鳳山正覚寺

西願寺の南にありて東本願寺直末とい佛光寺派とい靈鳳山六
音院正覚寺とい社院家地ありて元禄四年今の家に改む
永五年信長清の中興して中下六百町にありて正徳六年今の地に
元禄寛永永宣の於て中下六百町にありて正徳六年今の地に改む
江川の西清養所町の武家屋敷ありて正徳六年今の地に改む
少くも楊樹樹株ありて正徳六年今の地に改む

花の木

江川の西清養所町の武家屋敷ありて正徳六年今の地に改む
少くも楊樹樹株ありて正徳六年今の地に改む

淺間社

中下河川の南にありて天陽宮の社ありて社人三谷氏
例祭九月四日境内に天陽宮の社ありて社人三谷氏

玉壺山覺鳳寺

中下蜷屋町の北にありて本尊
葉師佛行基の作
て虎葉師と稱す 寶篋印

塔

石面に謹奉造立寶蓮印塔應永十一年甲申年二月十五日願主得阿弥陀佛敬白と附

興西寺

上岩五年花町にありを致す宗東派三河本許勝曼寺末永祿元年の開基と云ふ

他に地蔵堂あり

本尊

阿弥陀

山神社

每西寺の東の方にある旧地は清盛御井の内なり

武島天満宮

山神の社の南にあり神前北古鏡に武島天満宮の文字あり武島ハ地名なりて今川氏豊後家臣等たけしほに居たり

稻生街道

廿五日社人の山神に三宮武並等あり上岩は西に川の岸と北へむ道なり春ハ稲生堀に花地もる美妙なり

長久山圓頓寺

五條橋通北西北側あり日蓮宗多部如野ハ本寺末境内に鬼子母神堂ありて毎月廿九日多部集す

本尊

法華三寶

何原山慶榮寺

本寺は此山麓にありを致す宗東派法光寺末永正八年三月廿八日親善正の開基とて去日井郡志保村あり

正万町人移し享保九年今此地にあり

本尊

阿弥陀

圓頓寺 慶榮寺

太子堂ハ往昔有於元興寺ハ太子御基あり空堀の古枝と云道堂と云くは太子堂内に太子御自作の尊像と云



阿弥



高田本坊

上高田にあり高田一身
田専修寺北無西

臨江山信行院といひ

元文中年中歡喜心院宮に清志元とて本坊より僧魏

堂とい開基しとて下野國言田山山と改められ本坊より天拜

一光三尊佛あり地へか開基の時必由院より弘通弘通を尖

妙妙此系給殿しけははりゆる見せとのちと持来りて大に

繁昌次第にも末世末後此佛徳ありし〇本尊所法院
の立像

寺寶本堂正面高田山の額元一院
の法堂本堂前庭上二樹

北に柳南小菩提樹と種より以樹ハ野州柳清を改め此二樹を本寺の
ありしとて虚空藏菩薩天童に祀りて親香を人に傳道建の地と云
たゆいし樹よりとて委しき所と此經藏鐘樓鼓樓

堀川惣河戸

片福筋此
西にあり

凡諸國のる紅法おと運運僧僧とてその後ま

後来りて出入の舟絶るりあり上ハ清城西より大幸川大幸川

下ハ換田の海に入菱長十六年六月日日より美濃伊勢も

國の先方元氣元とて名古屋舟入と改る白木の色に別に堀

川と接ハ福清清とて更正則正とて後す後とて今も更更

尾州舊活畧に見えり

延米會所

堀江町北西側にある元和年中船入町の大徳助をりしとて其家に分
て同居せしを後よりとて法米穀の豊凶と量りて米と買れり大徳
の主と借て文にありしとて米れり入とありしに思ひの外の利潤と得或ハ買ひ或ハ
賣りて米とすにりしとて利倍倍とせりし法人も是と習ひて後ハ終此とて今も
て今も所と名連今れり日勝に於島也

學館明倫堂

片福筋長嶋町より長者町にあり東ハ聖堂御門
北ハ國君通御門西ハ學館の御門あり

源敬公初て學

問所と當り改めハ大津町れ南ありと後中下御門の西へ移

寛永年中ハ明倫堂と改め國君御筆れ額と掛り又天明年

中今れ地小移し聖堂先聖殿の神額
源敬公の御筆講堂及び學館庫倉にあり

とて新に造りし二仲の御祭事最重なり

五條橋

京町通の西堀川の橋あり清波の橋の格也清城橋といひとて寛永十九年
より改められ五條橋の改に五條橋慶長七年壬寅六月吉日と見えり

法雲山金剛寺

杉の町清園町の東あり南側にあり臨海家系初め心寺未信山
堂建立より中島郡日下村にありと寛永年中今の所にあり

すは寺足利家初創り信長公の時寺を移す所ありと山堂公に五十年
忌と吊りしとて寛永八年六月二日を忌修りしとて

上田東
天王祭造り物

此處所く六月一日より
牛頭天王とあるに城の造
りお大住然りて他に託
ふき夜多きなりおひ附
れ所ききり大ある酒
桶の中にくくある男
のあんの續真禪
かろく教十人
入り運
十由
く虎と
握け並居く
ま看紙に紙くま
はくし池ちまの教



あり曲亭馬琴が漫遊録に
そり此れ画をかきて江戸の夜
宮の送りおと見よは及バ
まろくとうけア
らに圖せらハ三十三所此
親孝と宮一孝香の
響りに銘屑と焚きく
敷きくせも亦一笑
まろくにん



行勝におきり方志にありぬ中村愚溪寺此岩屋に築きしなり
 傳へり山堂明應四年八月の誕生少く竟永八年八百三十六歳の時あり
 西親孝八慈
 免大師の作

材木店

坂川東岸に材木を竹石新屋敷とありて内余國とちがひ木曾山名産
 の檜木の良材多し昔正万寺町に坪井元を信よりよのをうらむる罪科と
 犯して死刑に定めりまゝに國君はみづかきなるに備はせざるやと清君
 ありておちて芭蕉の門下なり杜國又万菊丸をとりてと懲せしむるハ先年
 の歳旦に蓮葉や清國のかかりひの木山とていふとありて西と祝せしむる
 せし作らまゝハ死罪を省らぬはひの木山とていふハあの材木店と山によら
 てり

白山社

上材木町坂川の東北南側にありむらじは地に楠の古木ありて豊臣秀吉
 公朝鮮征伐の時木とておとつてむらじに樹をきり例は者
 多く派とせり友おとせり事をやめて社日に奉りありしといひ後
 張州志畧にも社旧地ハ毫忽郡中津村にありしとあり

兼理 例祭 八月十七日
 媛命 例祭 八月十八日

護学山清水寺

小橋町竹見町北東北側にあり浄土宗極楽寺末末ありて尼僧地
 あり信長公の長臣林依後古通勝 禁裏東神造管の役と兼
 其功と終切り清水寺の執事に祈せしめり功竟てはら朝賽のゆゑに清水
 府に一寺と建立し信長伯と開山して清水寺と名づけしとて年申ありに
 引松寺末末とす文政二年六月奥田普願寺の末子 本尊
 狹仙比丘尼位持とありしより一尼僧地とす 千手観音及び飛茶師
 此寺清次に在り西隣あり茶師堂火災ありて火急りて本尊を救ふ
 堂宇焼失せしに不思議あり茶師の本像清水寺のうら堂に飛つて焼燭と

中橋裏浅間社

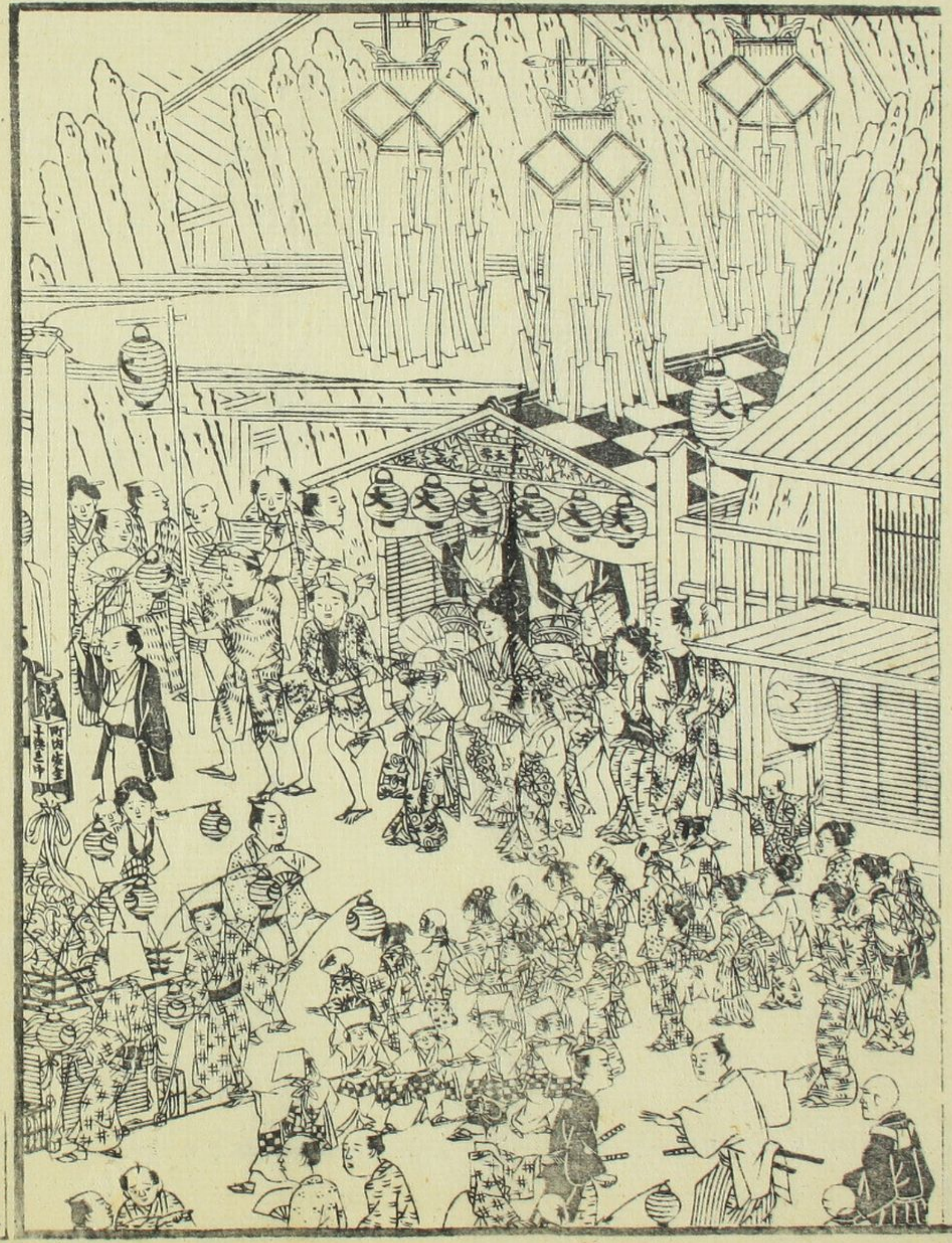
比叡南山十餘町
 の月商家の裏
 少く去る
 其叔千小及へり
 ありて下量儀
 の餘溢るん



菅府の祭目
 中町に於てハ
 車と云ふハ
 後ハ中央に
 祭旗と云ふ
 引物と云ふ
 天と云ふ
 常帛の類ハ
 一々修験の水行
 赤い用ハ具ハ中
 央に於て祭旗と
 云ふハ
 法一年中行事
 梵天王のまつり
 又上村木町の切
 紙燈籠ハ家毎に
 てもふ一ノ月の
 の祭り



菅



二八十五

三河國比志賀郡若宮社
 三河國比志賀郡若宮社
 三河國比志賀郡若宮社
 三河國比志賀郡若宮社
 三河國比志賀郡若宮社

荷上山興善寺

清水寺北に向いあり西
 海西郡荷上村にありて

天台宗 桓武天皇の勅願所ありて天文廿三年甲寅圓

正律師今此宗に改りて其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

ありて又尾陽雜記に其の修め上人の子其子正経本山に

淨教寺

因町東名所北東の南例にあり西本教寺末之大永四年
 本尊 阿彌陀佛
 淨教寺

改む

本尊

阿彌陀佛

淨教寺

四寶山珉光院圓通寺

因町長崎町の東北例にあり
 東本教寺末の院系あり
 伊勢國桑

名郡長嶋にありて天台宗乃圓通大衆寺
 僧照慶成

貞永元辰年海東郡上菅津村にありて嘉禎元未年今此

宗に改りて兵乱にありて衰廢とて延徳元酉年僧西善

再興元和七酉年今此所に遷せりて本尊 阿彌陀佛

親重上人本像上人法然上人本像上人本像上人本像上人本像

影上人上人上人上人上人上人上人上人上人上人上人上人

笠島燒磁器 笠島焼磁器 笠島焼磁器 笠島焼磁器 笠島焼磁器

廣井八幡宮 廣井八幡宮 廣井八幡宮 廣井八幡宮 廣井八幡宮

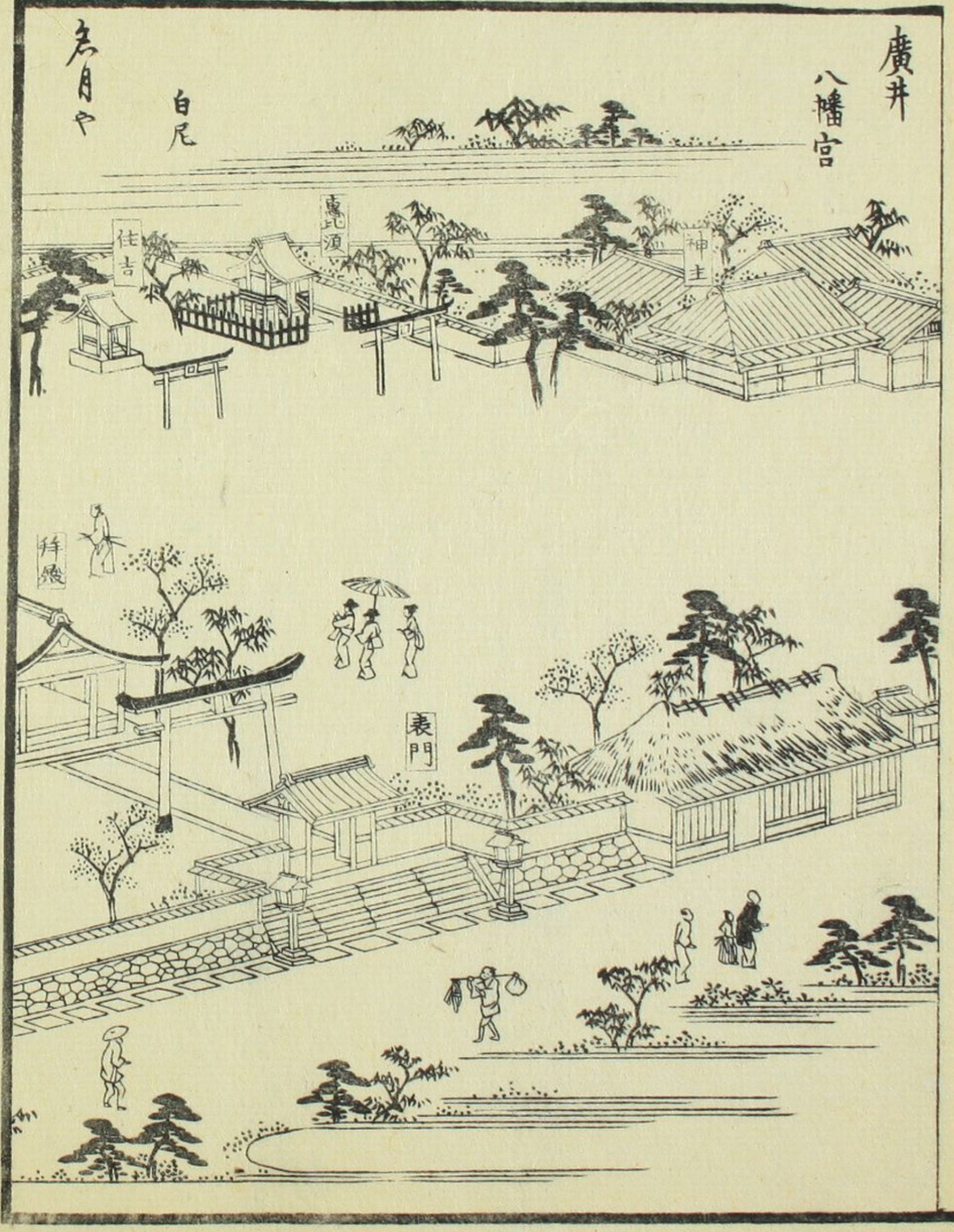
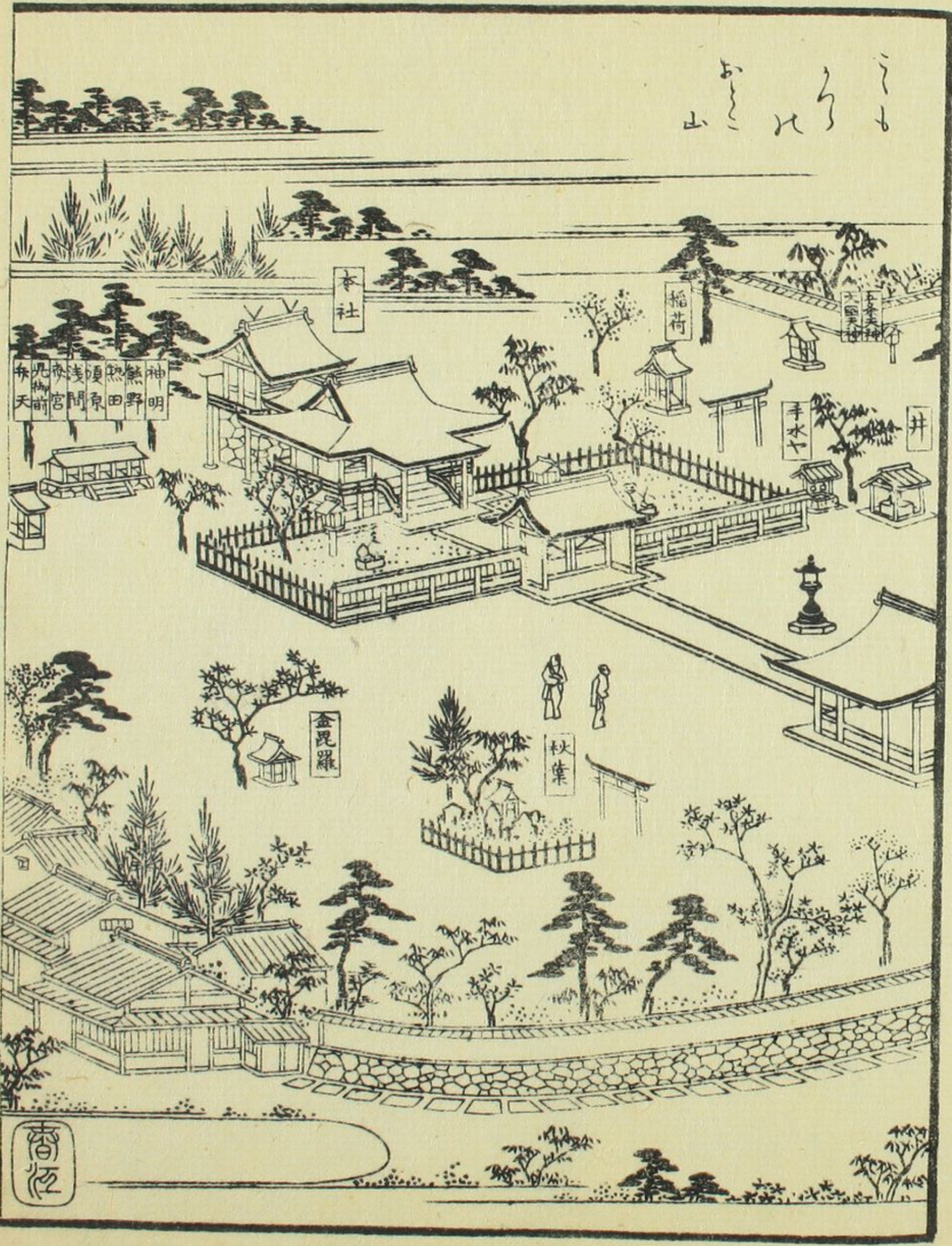
○本社 祭神 應神天皇神 末社 神明社 熊野社 熱田社 洲原社

狐神社 淺間社 兒御前社 惠比須社 其外小祠多しなり 親善堂と

一字なり ○例祭 八月十四日武樂田十五日武樂村木町白山社を以て海神延

山車焚失りて以て今ハ近き 祠官 安井

摩尼山延命院 因町休又町の東北例にあり 真言宗長門村万徳寺末之延命院





廣井八幡
傘鉾祭

此の爲に建立せり。文和四年十一月四日延命寺に於ての年貢米と用材也。本尊
此正則の古流文と云ふに西の寺より延命寺に遷りて今ハ院号と用也

華師の木 寺寶 西界 曼陀羅 北殿司の奉りて 法倉啓 正則の奉りて 文珠菩薩の画像 法倉啓 書記奉

陳元贊寓居跡 兼名町通袋町北の良學院の迹に 正則の奉りて 元贊八明の虎林縣此

人ありて明季の亂とてきて 日本に來り 國祖君の罷遇小飲也

當府に在りて 寛文十一年六月九日年八十五にして歿す深草此

元政と方外の文と結ぶ詩文の贈答元々唱和集あり墓ハ建中

寺小つゝ碑面に大明國武林既白山廣學陳元贊寛文十一

辛亥年六月九日没と云へ其傍に白羽道元の碑あり是則

元贊の子俗称源太郎の墓と云へ 宝永二年九月二日没と云へ

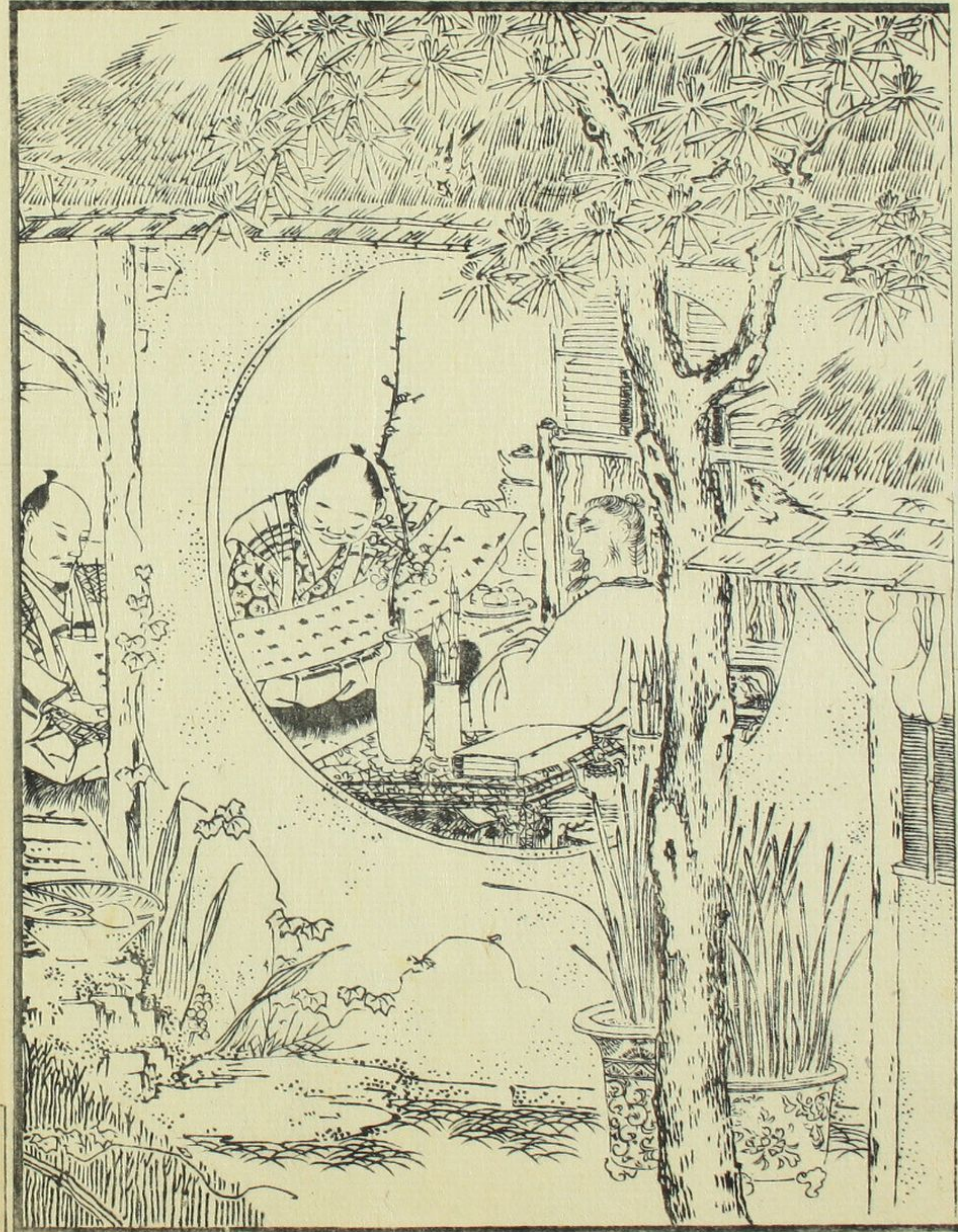
了防丘詩選の詩人爵里の條に陳元贊字義都別号既白山

人又稱芝山并菴等明虎林人崇禎中下第流落江湖遂越海

歸化 日本後仕張藩 敬廟寵尤厚寛文十一年六月卒年

七十有餘有集未刻と云へ 卒年七十有餘 又奉法秘書小云

陳元贄
寓居の圖



元寶江戸麻布の國正寺に寓す時福也七命古馬の破貝此等
三浦と改ちわらひ三人の浪人ありて日く彼寺に寄寓せり
元寶ら且に語るるいけし人と捕る術あり我も技と見ふ小三
り三人終小工夫と凝して術とせり是即起倒流の業
術あり

伊藤玄澤施薬

代御園所六丁目に住居し年々山野皆あきのを境僻地
まぐに丸散おと製して施す來りて國君と道とす
室曆五乙亥十二月より年々茶枝料と賜ふに尚子孫もいふに施薬せしもの
作と著る今にひるまゆ施す施し近ごろに雲神願礼成りて都非人をなすは後
近園の志國を土まじ得んと求て施薬をよままに奇特ありてす
上に看版と掲ぐ其又とたに記して以て窮民の便りす
施薬
右の身ていひんあでびやききのせらふもあくる用ひるも心にも
せざり人に迫来茶とほこり著るは施薬に及ばしより茶枝料清りるる
まれり茶いづくをいさよひ施薬のせり人まのくはひるち大びや
あひいさひをいさよひ施薬の人もあひいさよひをいさよひ施薬の
あひいさよひをいさよひ施薬の
但右のいさよひのひんとやせやとたのいさよひをいさよひ施薬の
らとこれいさよひのひんとやせやとたのいさよひをいさよひ施薬の
雲水の出家茶をいさよひ施薬のいさよひをいさよひ施薬のいさよひをいさよひ施薬の
いさよひをいさよひ施薬のいさよひをいさよひ施薬のいさよひをいさよひ施薬の

寶曆乙亥十二月

再生堂 伊藤玄澤

慈雲山福泉寺

東名町六丁目西側にありて天
台宗也田村春茂院末

本尊

千手觀音坐像
大伴の作

戸隠

明神社

安永六年四月の祭
創祭九月十四日

妙見堂

とまの
建主

醫學館藥品會

毎年六月十日より山海の禽獸虫魚鱗介草

本玉石銅鉄水れあひり奇品とせりしつ支西洋東夷の

物産まぐと一万餘種集り度く諸人おもんたりといふ日見

おの貴賤光弱隣國近在りも優いて羣羊とせん

は家八代、作
り所書まぐの

都督よりて醫學に書生をそとあ降白く塾生堂に絶るりり又中世國南の全
平安よりり墨竹に名とびりり平安の四竹、松、竹、其一に居り夫より日降今
ふりり世、墨竹に名ありりは家姓ハ和氣氏ハ
廣井賜宅ハ痛焼所希希者所の西に南側にあり

廣白山永林寺

協切部中と所の西に北側にあり曹洞宗也田の
全隆寺末寛永年中小笠原某の末孫と建主す

本尊

正觀音
の末像

藥師堂

地まが山のもの薬師とす
佛工春日の作あり

不動堂

北殿日尊
の画像

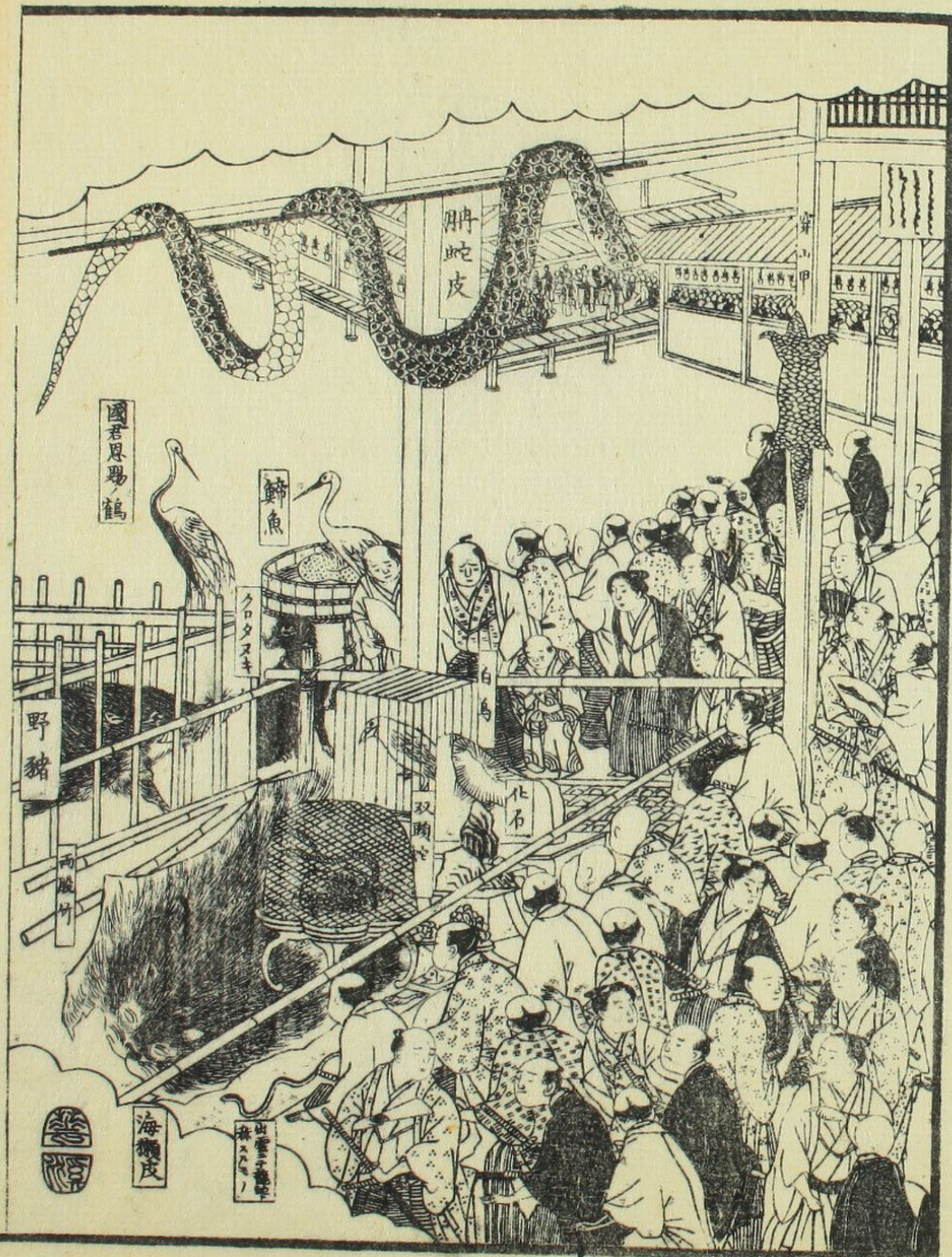
白山権現社

境内

西の右山
上あり

廣井女王古墳

廣井此武家屋敷の裏にあり古塚の形なりて廣井女王れ
墓の地といひ傳へられり是れ女王ハ三代実福に貞觀元





年十月廿三日乙巳尚侍從三位廣井女玉薨廣井者二品長親王之後也云云父從五位上雄河王云云仁壽四年授從三位天安三年轉尚侍典侍 薨時八十有餘廣井少修德操奉勳有札以能歌見稱善權馬樂云云好事者多就而習之焉至于殂沒時人悼之云々云々墓所に在り古書に云々云々

醫王山東光寺

慶長院中興して移住す所には寺の宗 慶長院の西に南側にありて云々云々天正坊未天正元年春澄法師の建主なり古刹あり云々と元和二年安田の地蔵院の修良院中興して移住す所には寺の宗 慶長院の西に南側にありて云々云々天正坊未天正元年春澄法師の建主なり古刹あり云々と元和二年安田の地蔵院の修良院中興して移住す所には寺の宗

鎮守八幡社 ○寺寶 不動画像

安田八幡宮の本地佛 熱田宮勅

化書一卷

文明十一年三月撤書記のかけり卷あり云々云々蛇玉一願院

曹溪山大林寺

伏見町通花屋町の南北東側にあり海軍宗正妙心寺未定永五年二月訖川をさぐち忠征法師号大林寺宗機居士の建主あり信長

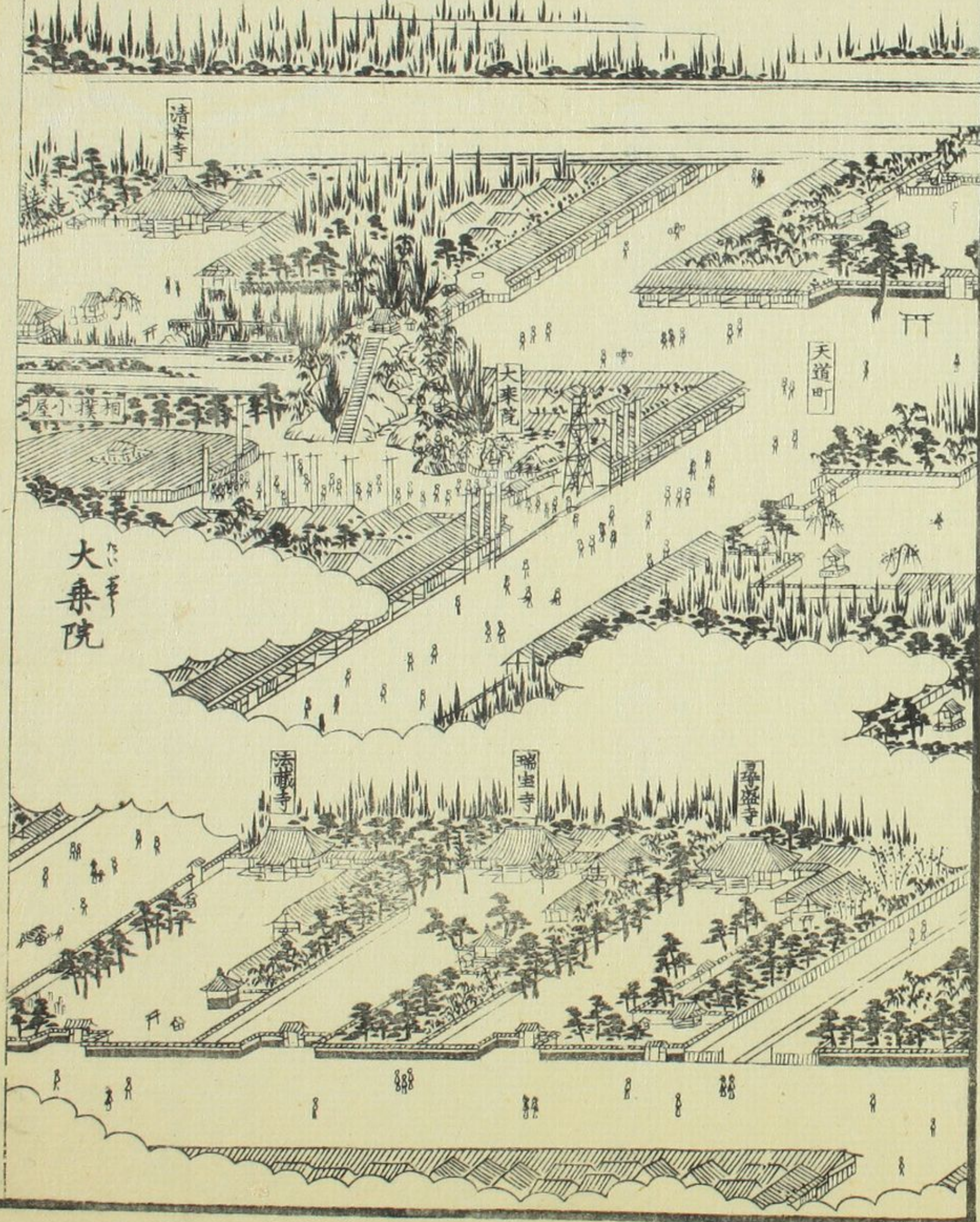
終南山悟真院光明寺

石切町の端西側にあり浄土宗永徳智恩院未定永五年修安井の建主なり雲智那中村に云々と後

本尊

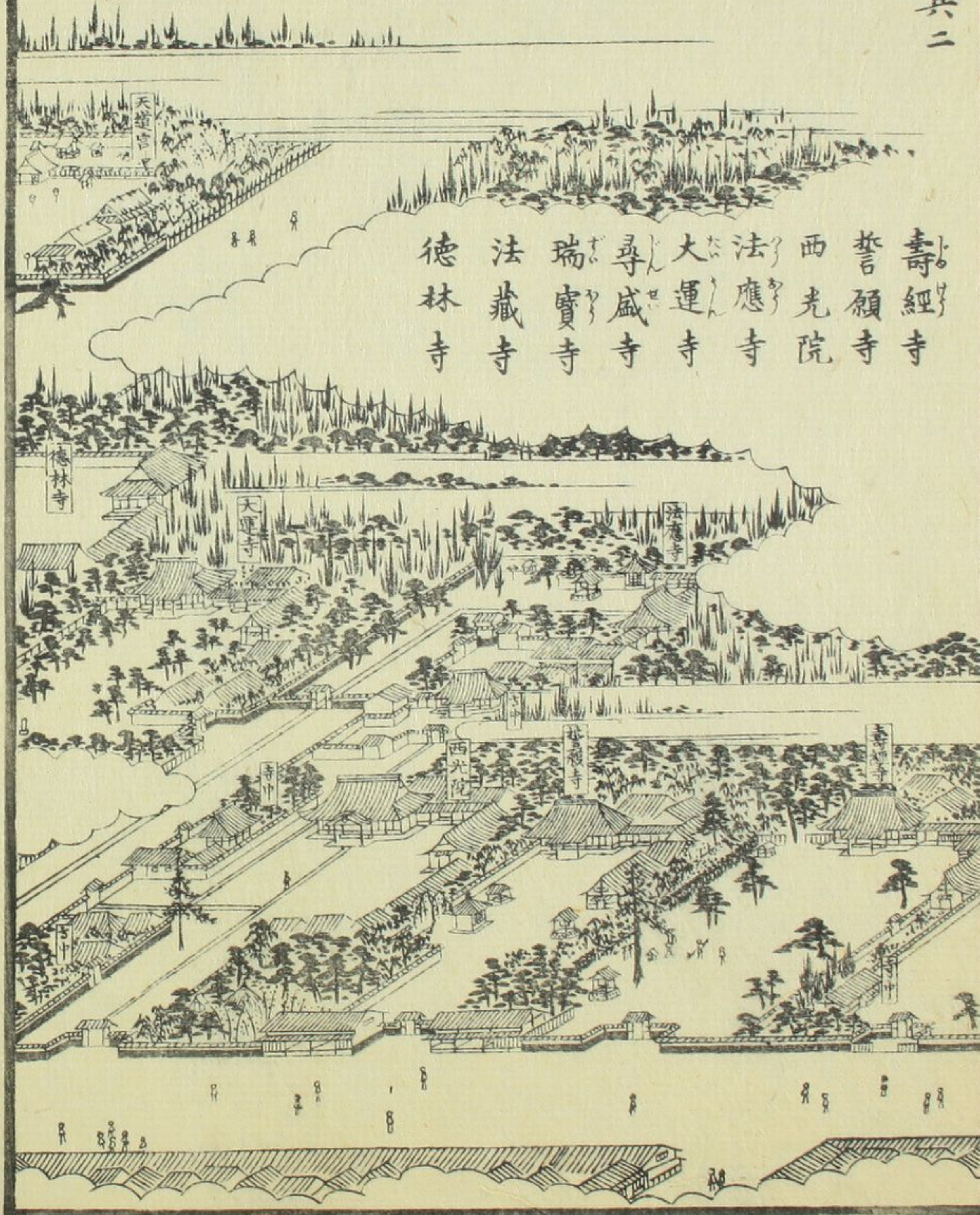
阿彌陀 十王堂 塔頭 吟窓院近室八年 十二月十一日建立す

清安寺



天道宮

其二



重寶山養林寺

光明寺の南隣にあり浄土宗系於百万遍者恩寺末開山ハ智恵の寺泰雄玄規の建立之ヲ美徳園波阜に在りとのウ

法皇に在りて皇名年中皇位に在りてのウ 本尊 阿彌陀如来古馬改原義海之ヲ不幸の後契田大官司季範の家になりて義経平家退討上皇の時乞ひて撰之

寺宝 阿彌陀画像 平敷盛の母家きぬに法然上人自身に画きて然名実道蓮生へ授けしと天正年中佐長黒谷より取ら

以寺の宝あり 塔頭 攝取院 正保二年の建立也

法喜山誓願寺

法喜山誓願寺は南にあり浄土西山派多勢禪林寺光院寺末元龜三年信空範生之ヲ法皇にありて皇名年中こに在りてのウ

永照山西光院護念寺

永照山西光院護念寺は南にあり浄土西山派多勢禪林寺光院寺末元龜三年信空範生之ヲ法皇にありて皇名年中こに在りてのウ

龜松山徳林寺

龜松山徳林寺は南にあり浄土西山派多勢禪林寺光院寺末元龜三年信空範生之ヲ法皇にありて皇名年中こに在りてのウ

本尊 阿彌陀如来古馬改原義海之ヲ不幸の後契田大官司季範の家になりて義経平家退討上皇の時乞ひて撰之

愛宕山大乗院

徳林寺北にあり當山派の修徳伊國の根本同行の寺也 北山の山に在りて皇名五年 三位中将忠吉君の所建之ヲ法皇

の朝日村に在り大圓坊と曰ふ皇名五年 三位中将忠吉君の所建之ヲ法皇 幼進より時多くハ法皇由りて皇名五年 三位中将忠吉君の所建之ヲ法皇

天道社

天道社は南にあり浄土西山派多勢禪林寺光院寺末元龜三年信空範生之ヲ法皇にありて皇名年中こに在りてのウ

牛頭天王社

牛頭天王社は南にあり浄土西山派多勢禪林寺光院寺末元龜三年信空範生之ヲ法皇にありて皇名年中こに在りてのウ

社 素盞鳥尊稻田姫 攝 伊弉諾伊弉册の両神ハ

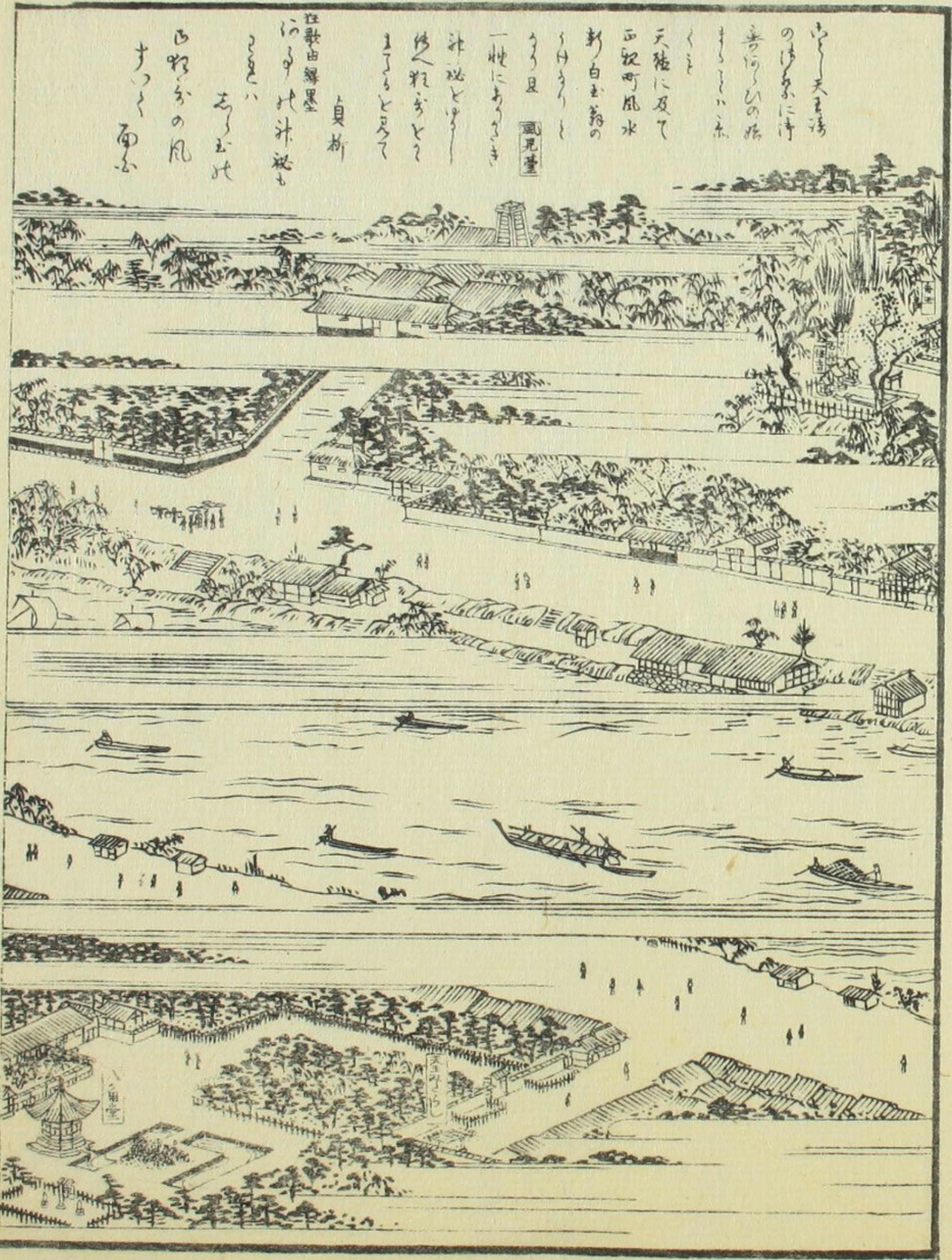
船玉社 後日中紀天平五年壬午の條に在りて皇名年中こに在りてのウ

龍江山長圓寺

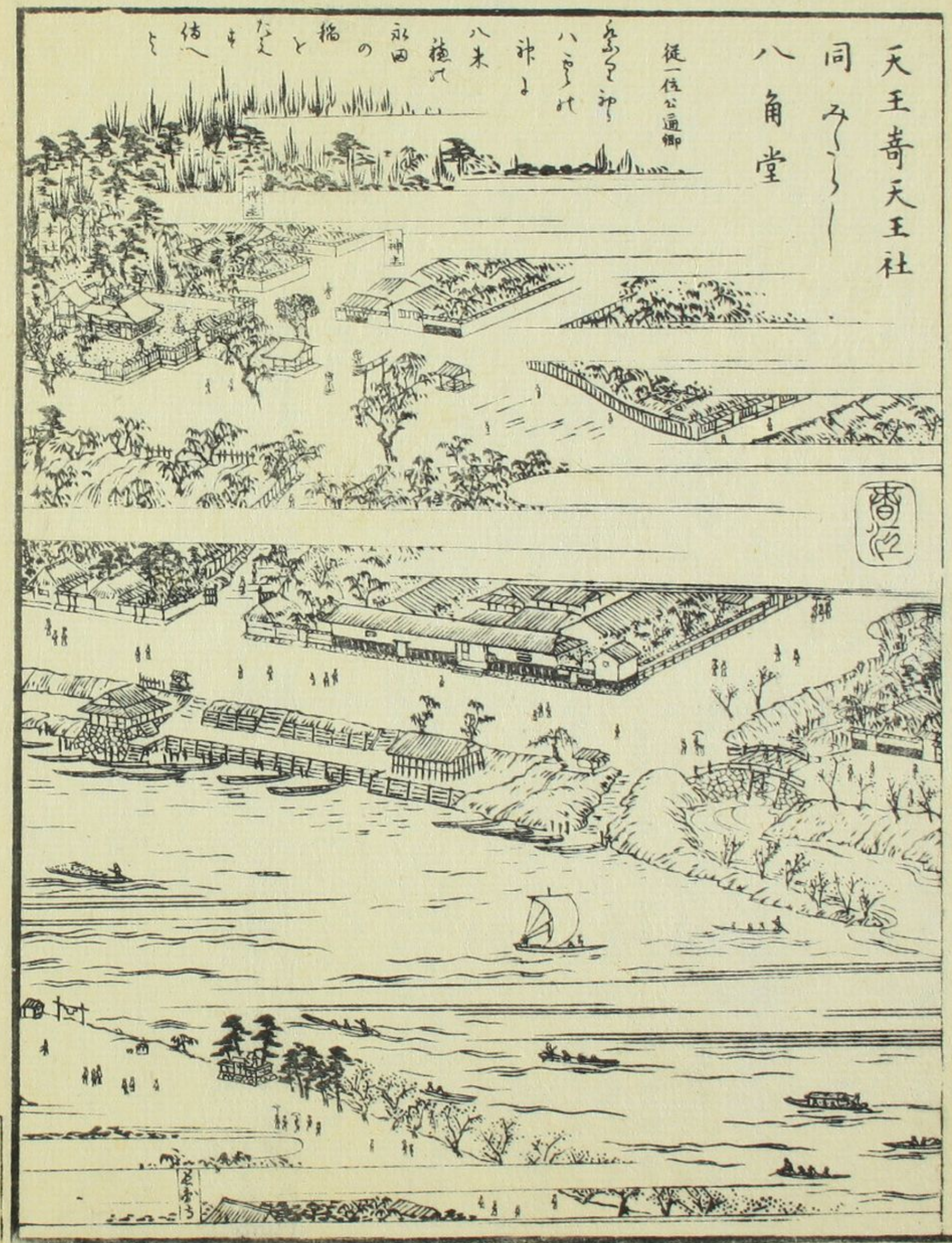
龍江山長圓寺は南にあり浄土西山派多勢禪林寺光院寺末元龜三年信空範生之ヲ法皇にありて皇名年中こに在りてのウ

本尊 阿彌陀如来古馬改原義海之ヲ不幸の後契田大官司季範の家になりて義経平家退討上皇の時乞ひて撰之

例祭 六月十四日 十五日を年



天王寺
 のほかに
 寺あり
 天徳に及て
 正統河風水
 新白土の
 一社にあり
 社名
 正統河風水
 新白土の
 一社にあり
 社名



天王寺
 のほかに
 寺あり
 天徳に及て
 正統河風水
 新白土の
 一社にあり
 社名

香江

久住山法藏寺八角堂

長四寺北にあつた天台宗

本尊

若師也末法
教大師の作

清水

門前にうらみまじりて
たゞいふ名泉あり

日秀山聖運寺

東水主所にあり日蓮宗安房國小湊村延生寺末車の町に多門
坊より真言宗の廢寺にあり一函に寛永五年土月信日真以

寺と建三年一因土主合此山号寺号に
改りて天和三年にりせり 本尊 法華 三空

日置

延喜式東鑑等とより古書にわら地名あり宇治左大臣頼長公もあに
と檢注ありしんとして
と檢注ありしんとして

堀川の櫻

両岸日置橋より北の方西水主所まで數所ありぬ数

百本の櫻樹ありて流生のはくも砂神をつつたあ岸に生ふる
集水の舟と流へて上下に花と賞するもあがう嵐山隅

田川の春興もあがぬ勝地あり文化年中府の世臣堀氏教

百根の小樹と栽並べ今ハ繁茂してわくのやうに

第五橋遠両岸頭香雲暖雪擁川浮花神引客春如
海不擇雅流兼俗流

官櫻兩岸届川漕緩弁芳菲幾往還春思在入猶在
我相逢不語步花間 僧一逸

門外漕江春未開岸櫻掠乱映波瀾橋頭一望花千
畝麗日潭為雪後看 水野柳齋

第五橋西春色加清明節後話櫻花青帝乍被香雲
鎖不得遊人到酒家 中川西岸

月照花林雪覆湖江涵花影月輪孤懸
手画作春江花月圖 蕙多謝東皇

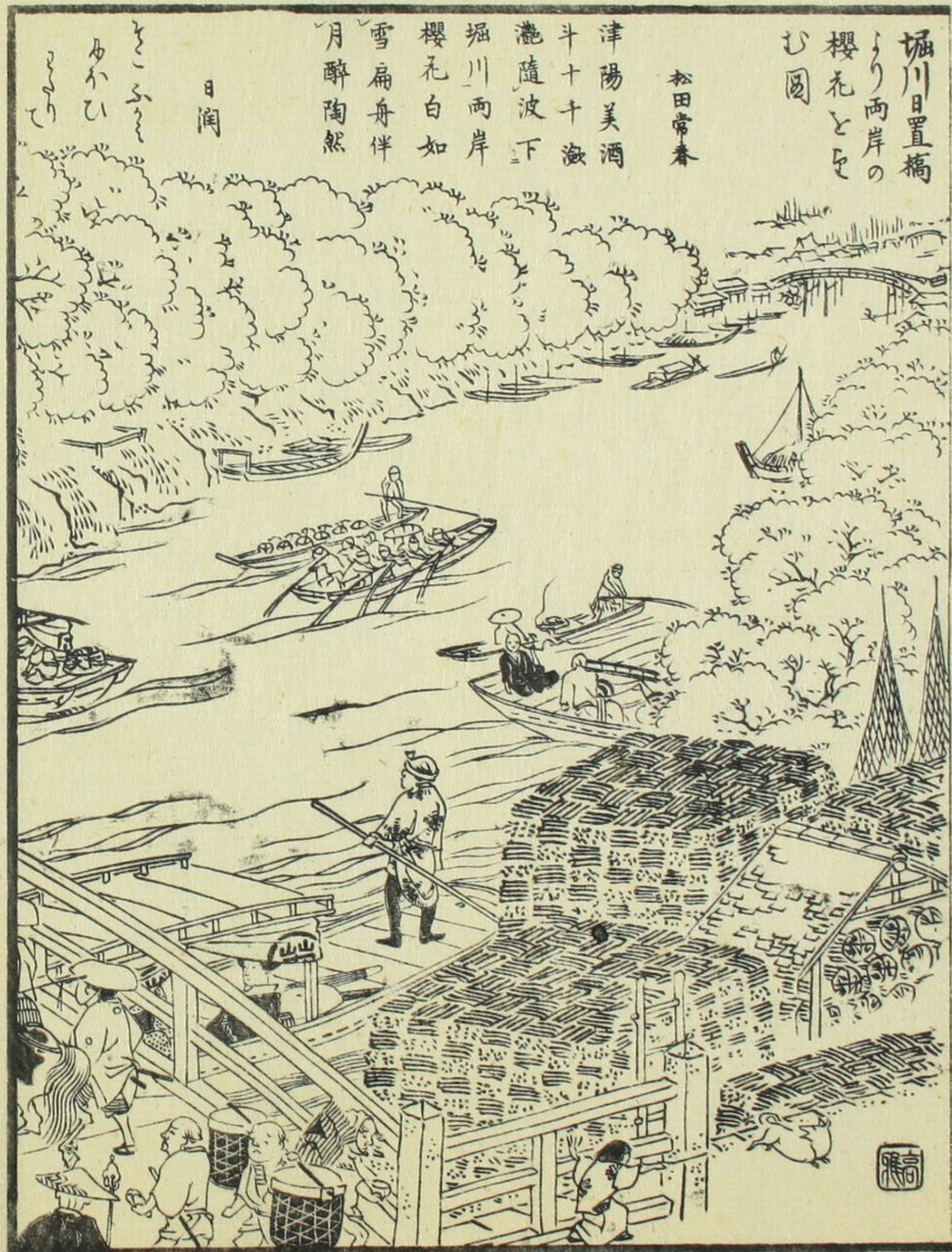
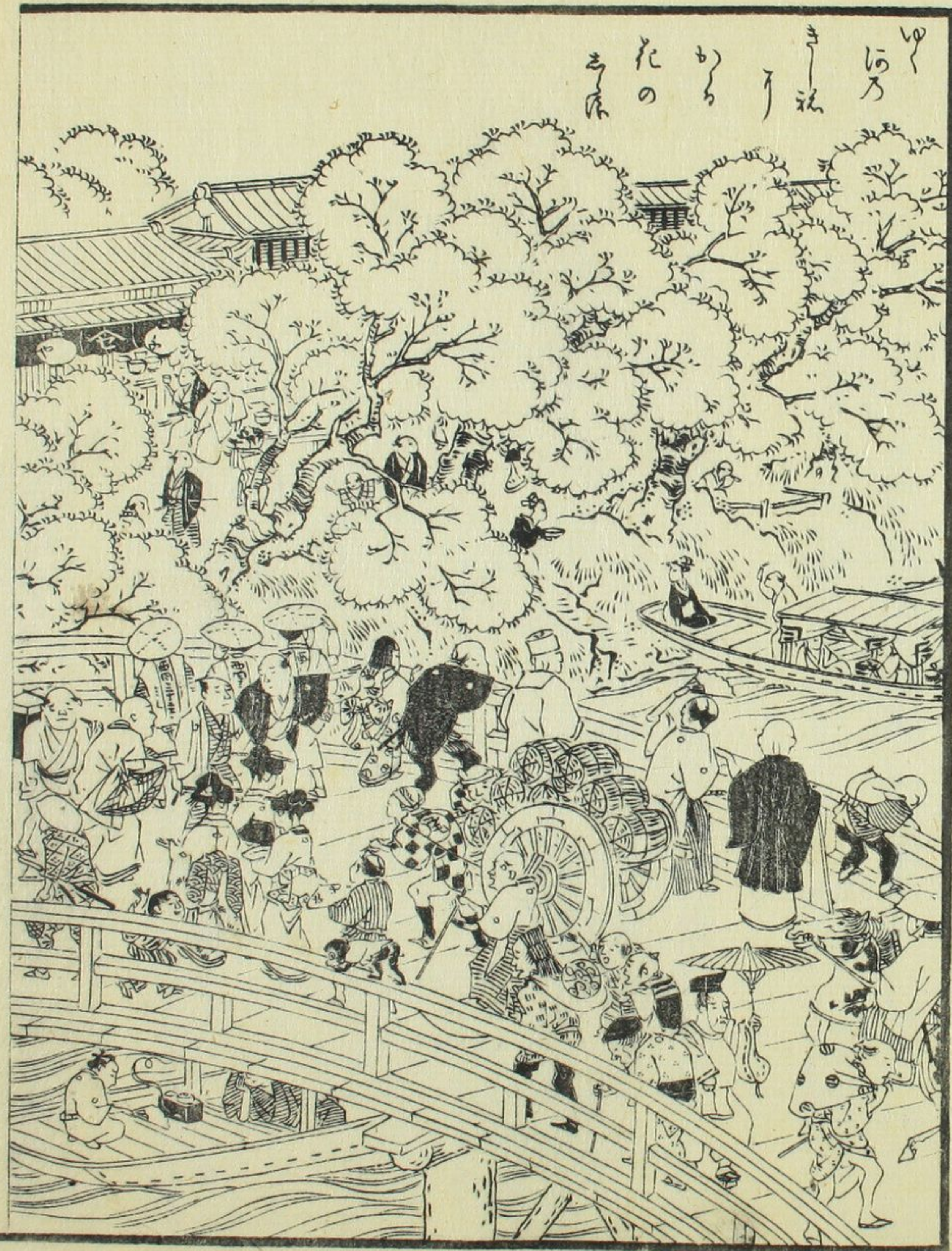
くまのふれ花のうのの雲のうらまぬのふん
堀川の花と風

笑つてくまのふれ花のうらまぬのふん
堀川はいつか

高きうら花乃あそむをきく
花の比堀川

けいごうのあつたのうらまぬのふん
堀川はいつか

ゆくまのあつたのうらまぬのふん



了義院

三日月塚

大方根の衆徒院

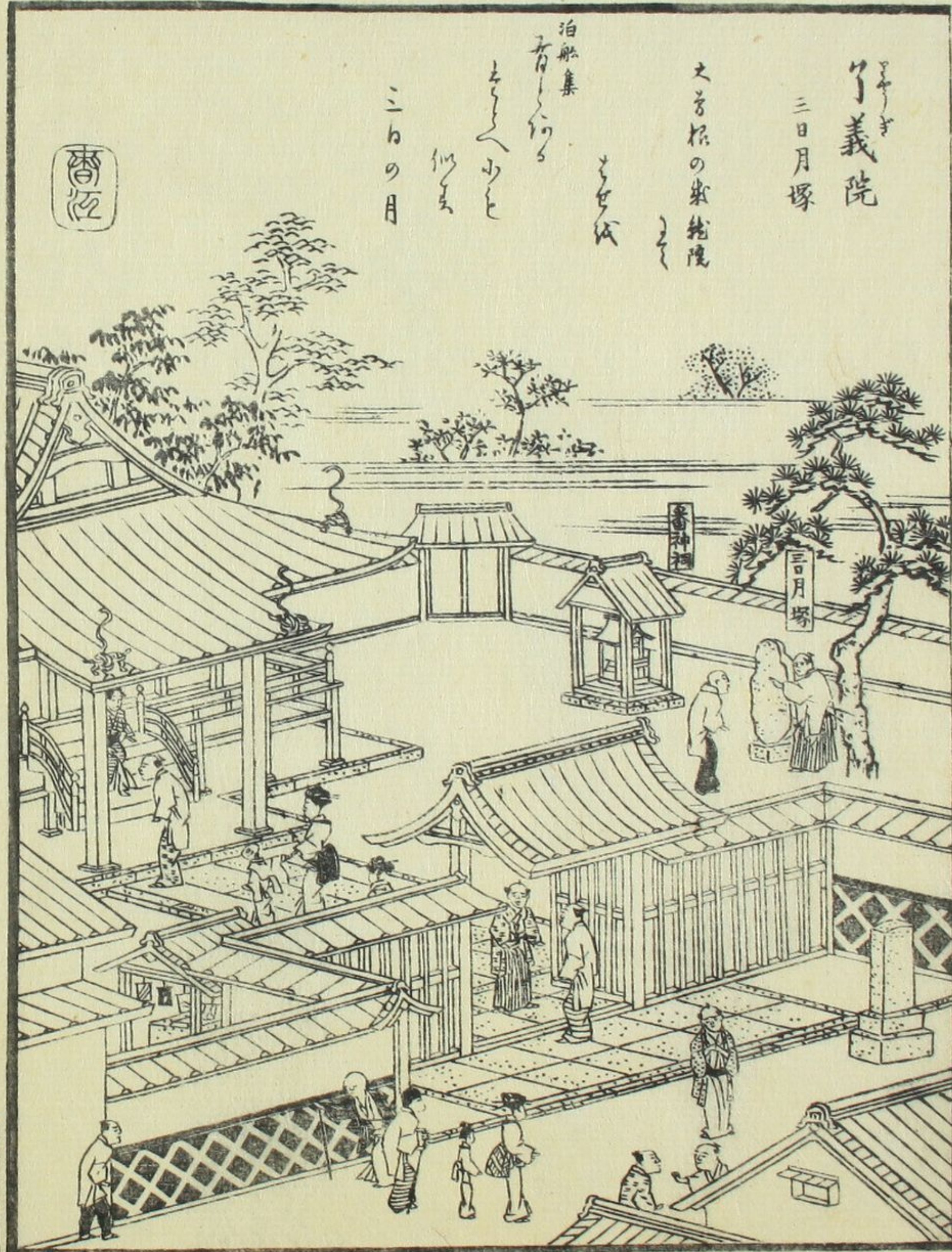
とせ紙

とせ紙

似る

三日月の月

泊船集



香燈

福寺の太鼓うりやうり

例祭

正月十五日 五月十五日 九月十四日 同十五日

祠官

今八歳 田氏

弘法井

同所坂下にある弘法大師聖田宮より龍泉寺へ奉進せし時此地より渡摩を修せり

妙見堂了義院

同所にあるとて真言宗成就院といひ其廢せり安永年中傳五條坊木見芭蕉翁の杖白によりて三日月塚と境内に建てりその白の國上に出す

有るに形さうりやうり三日月の月

曉臺

長尾山東界寺

出来町の東にあり真言宗大和國海部郡の池坊の末寺享保五年の建立あり關山卓運法師俗姓林氏國君見禪院殿の淨美如

泉光院殿の舎やうり

本尊

某師如來見禪院殿の淨美如

寺寶

草書の般若心經

の真跡とて本山長谷寺より傳來

福壽山大龍寺五百羅漢

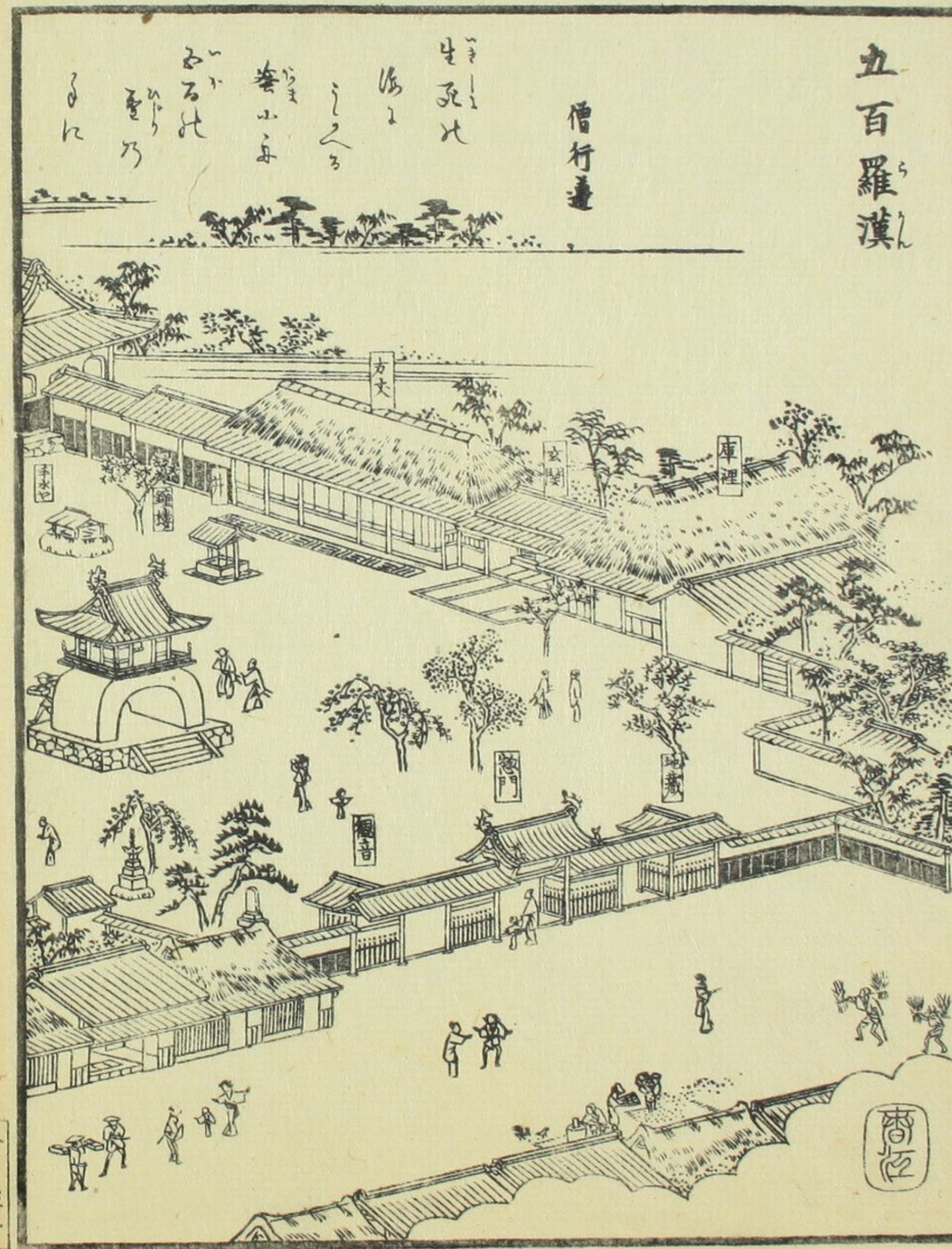
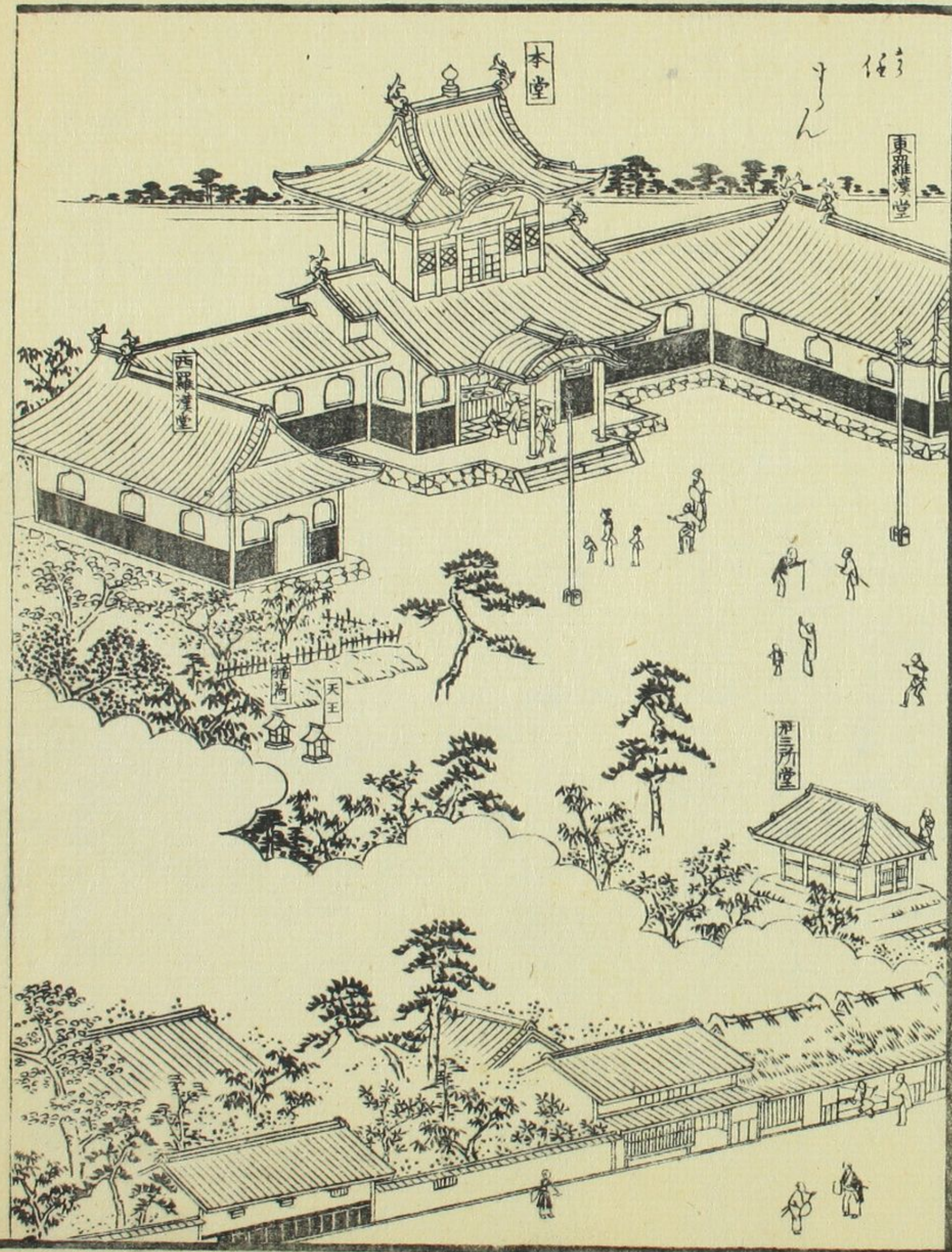
新出来町北側にあり黄檗宗山城守治の萬福寺末享保十年の建立あり本尊大六掛華の衆迎牟尼佛文殊菩薩兩菩薩兩袖の高堂に五百阿羅漢

地蔵菩薩春日井郡阿原村にあり米春地蔵といふ灵佛ありの木像と安置して府下の一灵場なり

寶龜山相應寺

長堀筋の東にあり浄土宗末享保十年の建立あり本尊大六掛華の衆迎牟尼佛文殊菩薩兩菩薩兩袖の高堂に五百阿羅漢

源教公の淨母公相應院殿の

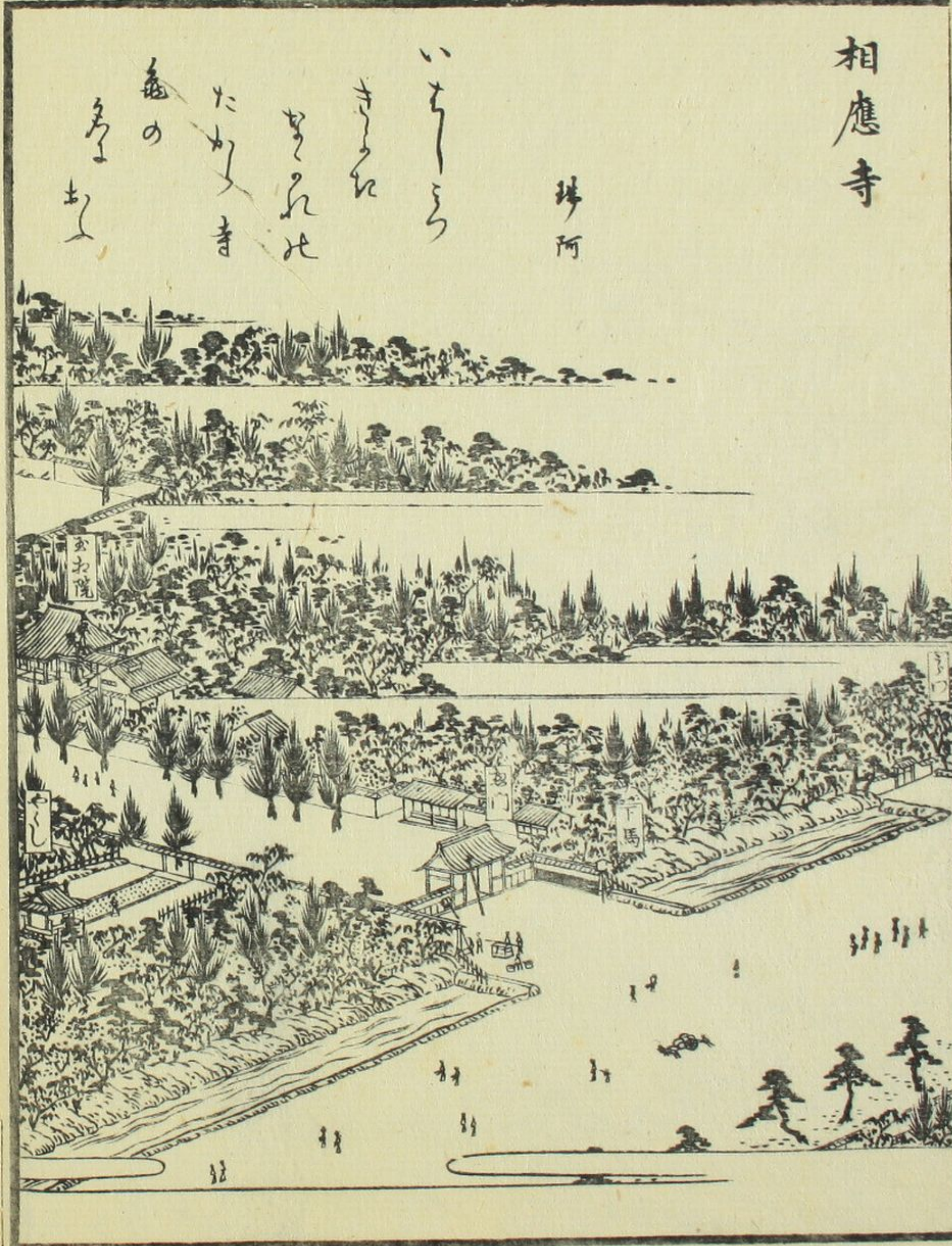
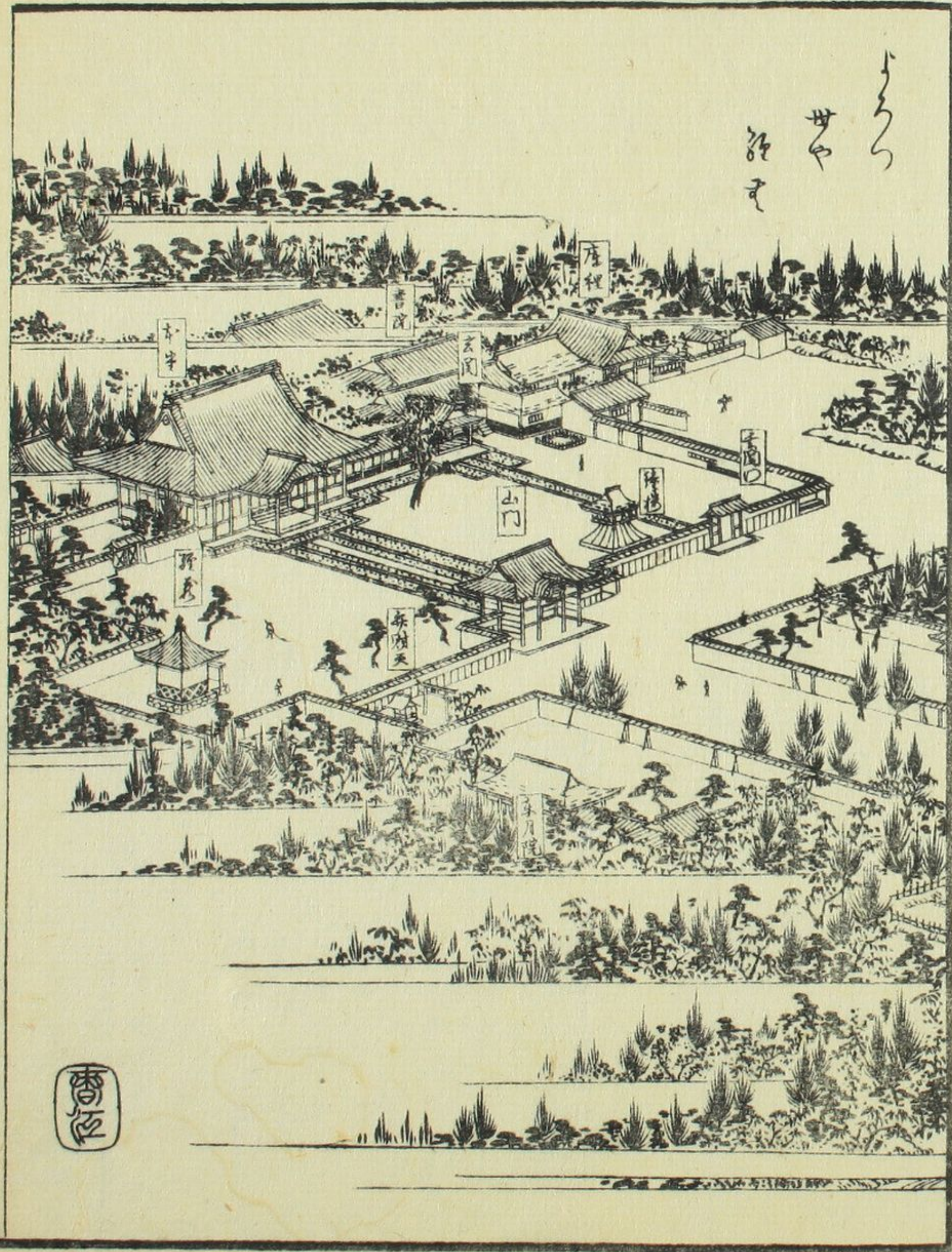


五百羅漢

僧行遊

生死此
海之
之
善小
乃
子

香



清近福地も久し寛永二十年七月清建立のりて本蓮社眼
 答上人を開山し終つて○本尊阿弥陀の未傳鐘樓鐘の銘羅山先生の作
源敬公の清孝之

銘一羅山文集に
 霊寶 相應院殿御繪像讚源敬公

菅家苗裔 穂日右孫 有慈有孝 慎行慎言
 貞潔而直 柔順且温 崇寂滅製 辨釋氏門
 信心堅確 了生死海 爰寫遺像 拓他幽魂
 定者如在 于晨于昏 以敬不忘 何忘洪恩

寶龜山の額及び佛殿相應寺の額源敬公清真跡きて東書に寛
永二十年九月十六日 從二位源朝臣義直

書馬よりその外岩依又兵衛谷に傳り画きし人物花見の屏風も清孝
 せ終へて

附の事甚多し ○塔頭玉相院 東月院

神明社 赤塚町の東にあり寛永五年の創建本社に山王
 推現社に例祭九月十六日。社人近藤氏

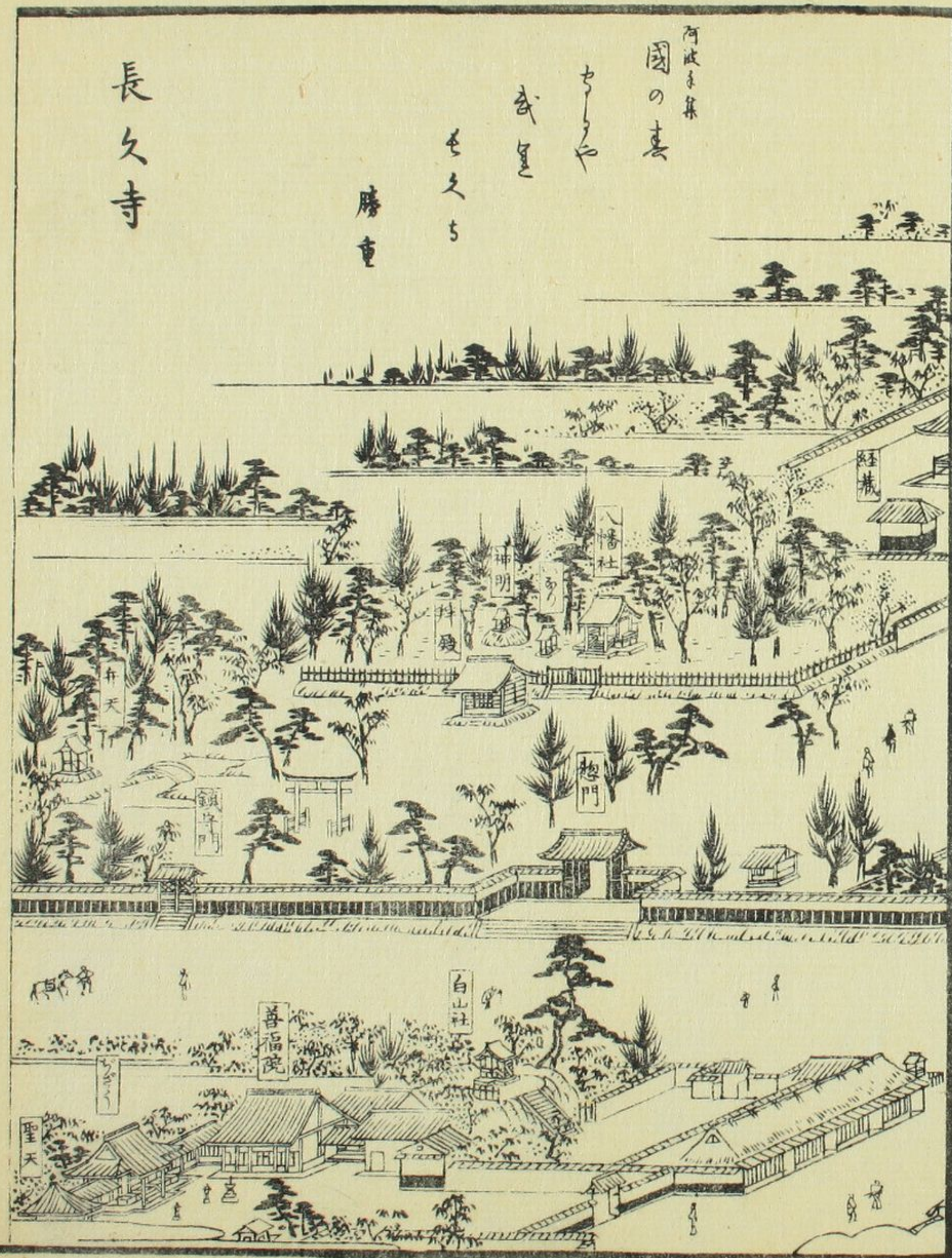
蔵王権現社 長久寺筋の北にあり延喜式に山田郡片山神社本國帳に從三位片山
 天神の行はるる未社に富士権現白山権現等ありまはつて境内に汝見
 榎あり茅野ありしり樹ありり又社名に清近院也推清水銀杏

東岳山長久寺一乘院 長堀筋北に 三位中将忠吉君清須御を城
 あり真言宗

の時武蔵國埼玉郡忍の長久寺の僧重傲とりて此寺と城の東北



長久寺



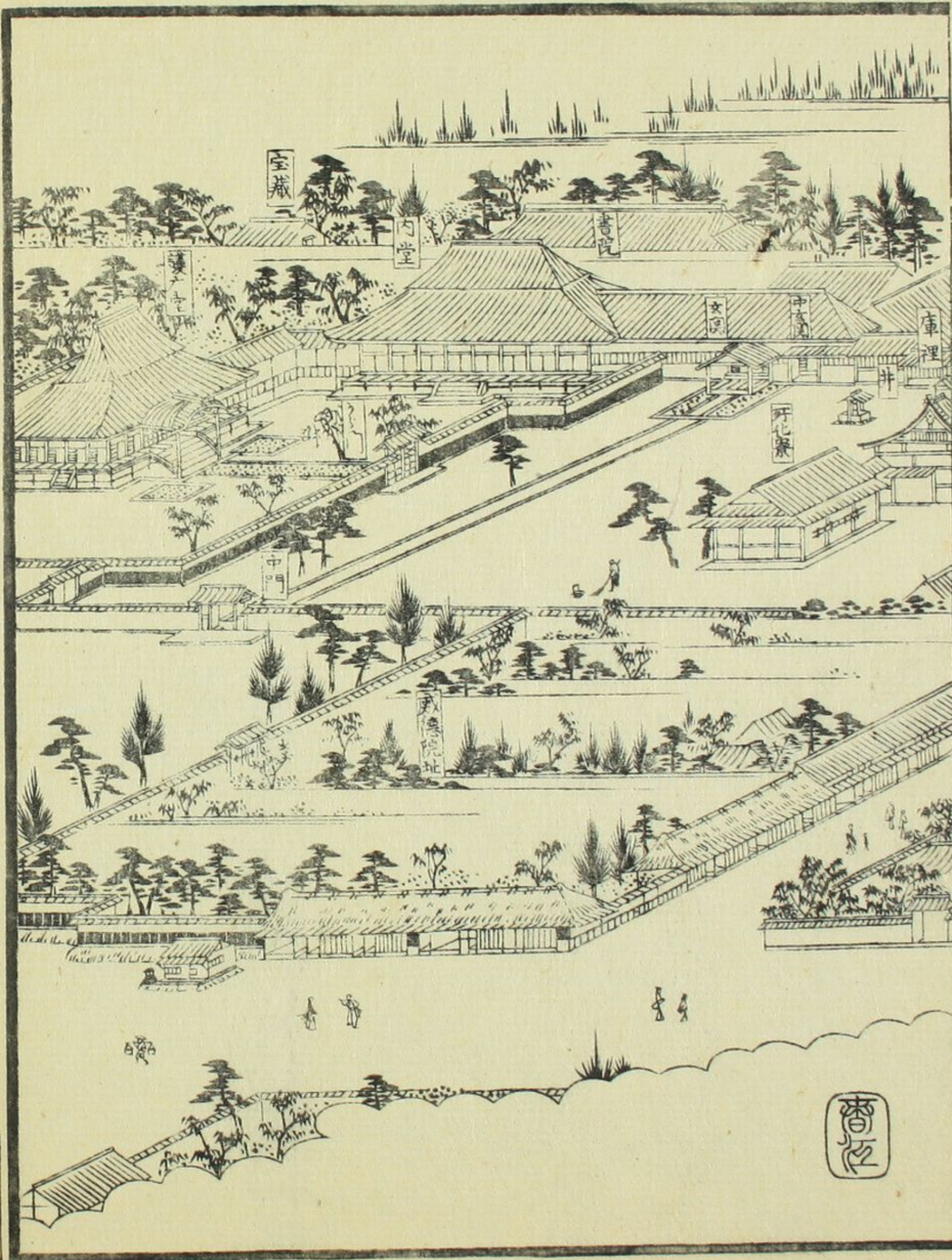
河波多集
國の真

ちしん

武皇

長久寺

勝重



香

此方に管建一まゝ鎮守八幡宮と祀りて鬼門の法護と云ひ

慶長年中よりなり ○本尊 不動明王智證大師の八幡社 長久寺二
井 公命と奉 稲荷社辨財天社 神明社内に塔頭 牛王山善福

院 門前の西側にあり
境内に白山社あり

八王子社 志水町北行高にあり五男三女と奉り清國八王
子の社の側に日ト神前に清く洗地あり又本社も多し

亀尾清水 清水ありにありとあり地名と清水と呼ばれり
日ト思ふありとありと志水町とありあり

七尾天満宮 亀尾山永正寺 志水の西成瀬家の中屋敷の内にあり真言宗長
久寺永正年中の建立なり天満宮社傍

なり菅神の灵像に文龜年中七尾の龜に坐しては例あり山林の石上に出現あり
一々永正改元の社と建て安きなり一々高寺縁起にあり本北十一面觀音八行基
の外より外
更宝多し

鶏藥師桂昌山久法寺 長辨助善光寺筋の西角にあり水野定光寺に通所あり
妖怪の俗流ありて怪人もあり一々元禄二年卓堂とあり中略郡妙島寺の塔改

泰陽菴の塔と淋と伝はれり一々定光寺に竺堂和尚通所あり宝曆年中今
のめり造管十華師堂の屋上に鶏の形と上りありなり
一々又彼血を安の活にあり一々血葉師とありなり

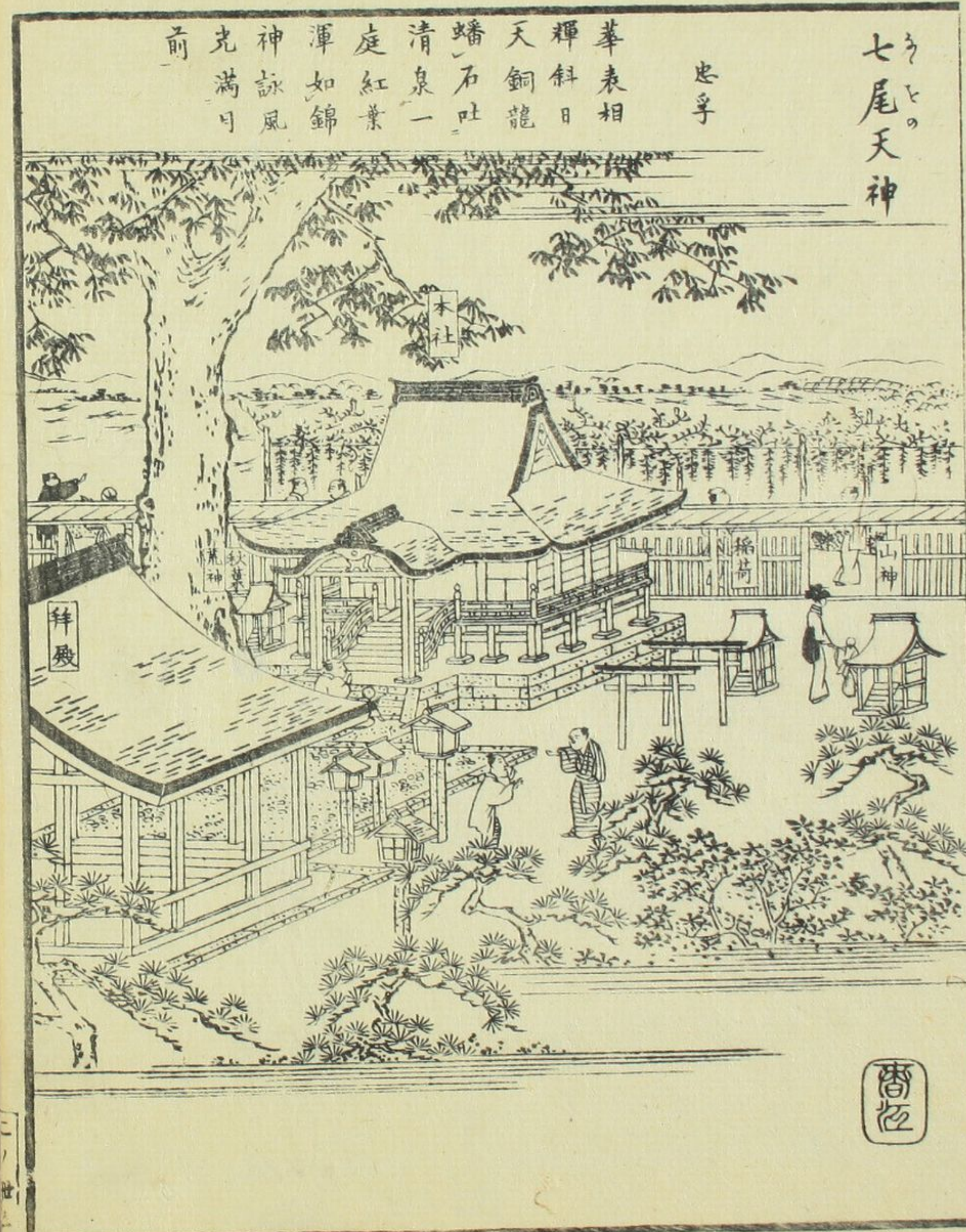
松山天道官壽命院 九十朝町の北あり本例あり常山派の修験清壽院因り
大永年中出羽國羽黒山の山伏隆海の建立なり一々累年

山吹谷



片澤の東坂下より香智筋に
昔の那古野山の谷合より暮
春の比に在る湯の法人は
さうさと携へ来り山吹
の花と名づつ秋の舞
ひありて地なり
一々武家此地
とありなり
之れ山吹の
とありなり
一々山吹の
とありなり
一々山吹の
とありなり
一々山吹の
とありなり





支龜年中山山林に貴き
 隠逸の傍小菴と號ひ十一面
 觀音に秘法と傳りしり
 或時山林と巡りし尾
 七つ有る又龜管神の木
 像と甲ふ負て樹下に奉
 まると彼傍感得しと好
 小菴と龜尾山永正寺と号
 一寺と創建して本社
 とも嘗て又縁と女と
 故小七尾天神とを稱
 する一古老の口碑ふ傳
 ると傳と圖せり

七尾天神
 出現の圖



法眼樓山業

衰廢に及びりと元和年中に嘉余院美濃の久利より來りて再興す
 本社天道宮左右ハ八幡と辨財天ありその外境内に若社多し

富永山養念寺

飯田町南側にあり東
 本願寺直末の院家

慶長二年僧賢誓此建立賢誓ハ

伊勢國負弁郡長深の城主富永筑後守五代の孫富永六丸也
 の婿男久太郎あり故に富永山と稱す
 筑後守より道統の
 系譜今も存す
 本尊 阿彌
 陀佛

寺寶親鸞聖人影像

安阿弥 蓮如上人の真筆なりて裏書に舟子空善(舟子空善)とあり
 先大師親鸞聖人蓮如上人實如上人の真筆なり軸物敷多し又教如上人より傳り
 所此水晶珠数々其外教品ありしり事多し又小畧すも近衛殿下御由緒あり
 により殿下より神紋附の紫幕ハ御寄附ありハ一派の内ありしり
 限るし又國君御直筆の書画及び葵御紋附の付器を多し
 鳥池 後園に
 ありしり

泉も亦自ら愛賞すハハ池裡古ハ大池なりて今ハ平若某貞祖院ハ此庭中にある鳥
 の清水と同水脈ありしり社末隔りて知人少くありしり池面に紅蓮多しり
 て六七月の間ハ毎朝花咲く清浄の奇なりしり
 あり○當寺前住威廣院聖耀ハ博學碩徳なりて本山の學寮擬講師たりしり遷化の後
 諸國の子弟師恩と追慕しありしり境内に石碑と建つ文清岡長材卿書ハ五辻豊仲卿より

- 池 以鳥為号堂謂水色玄而六七月際清漣出紅蓮
- 養念寺後園鳥池觀蓮賦古調一章精一
- 涼晨花名裁棹皮船

高濱山平田院

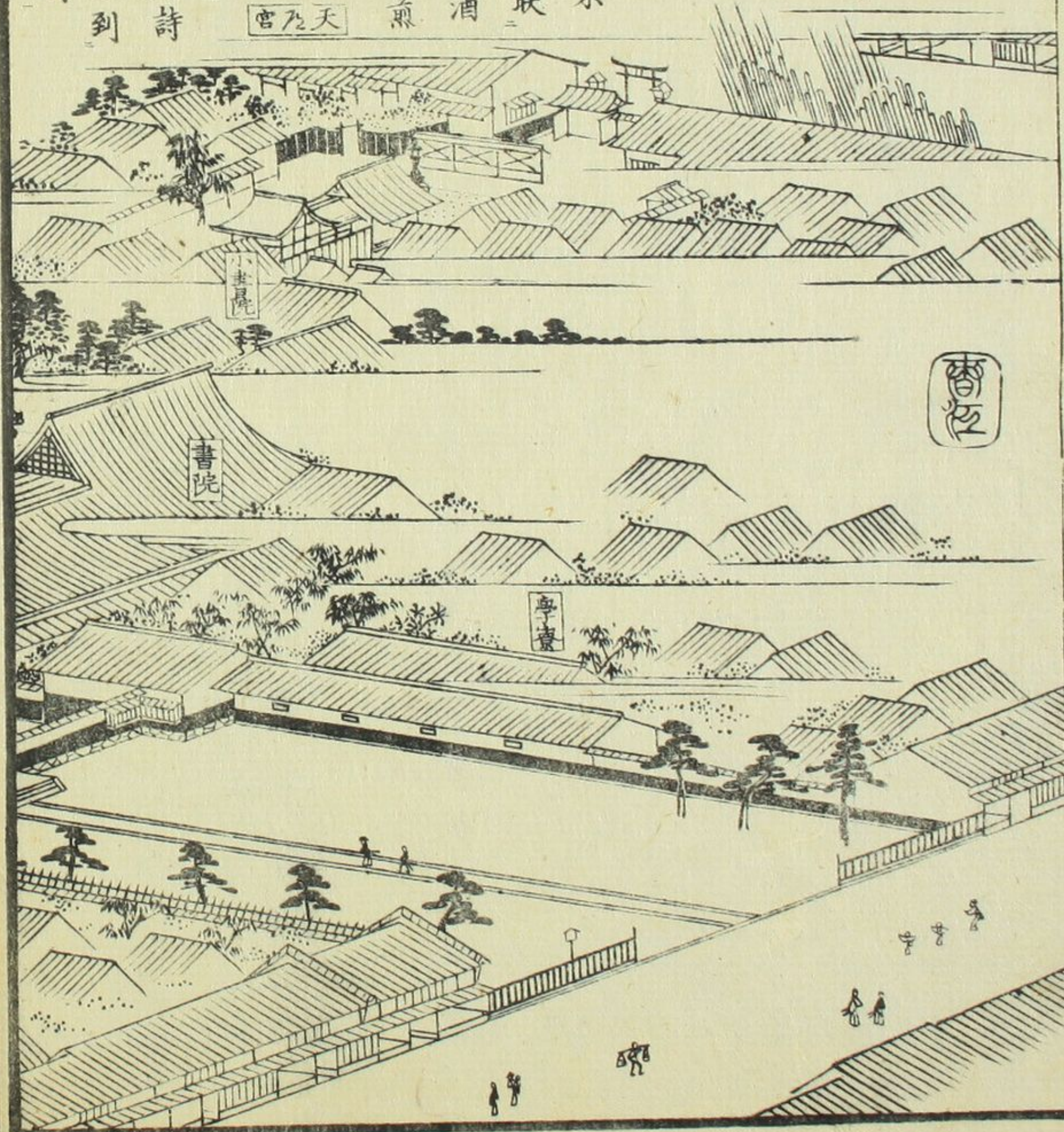
飯田町北東にあり浄土宗建中寺あり平岩氏の菩提寺とて奉
 祀國にありと主計改親吉甲斐國と傳り時其國代府中にあり
 せしが慶長上平親吉ハ山の城ありしり此寺も亦其府にありしり片端の飯治平町也に
 ありしが同十一年平親吉の死ありしり親吉法名平田院殿越翁休岳大居士及び殉死本

養念寺
松山天道官

遊養念寺

挺之

數里城東路不
迷水如人字映
林樓高樓把酒
神仙侶丈室煎
茶法喜妻細
向屏中看孔
雀靜臨池上
對鳥鷺欲將詩
句酌佳景坐到
關干北斗低



同前

聖華道人

看蓮古寺正清晨
池上青苔綠作茵
大葉藏花不見
水中紅影浴佳人

鳥池

曙

又遊此浮葉に

夕々々

或元

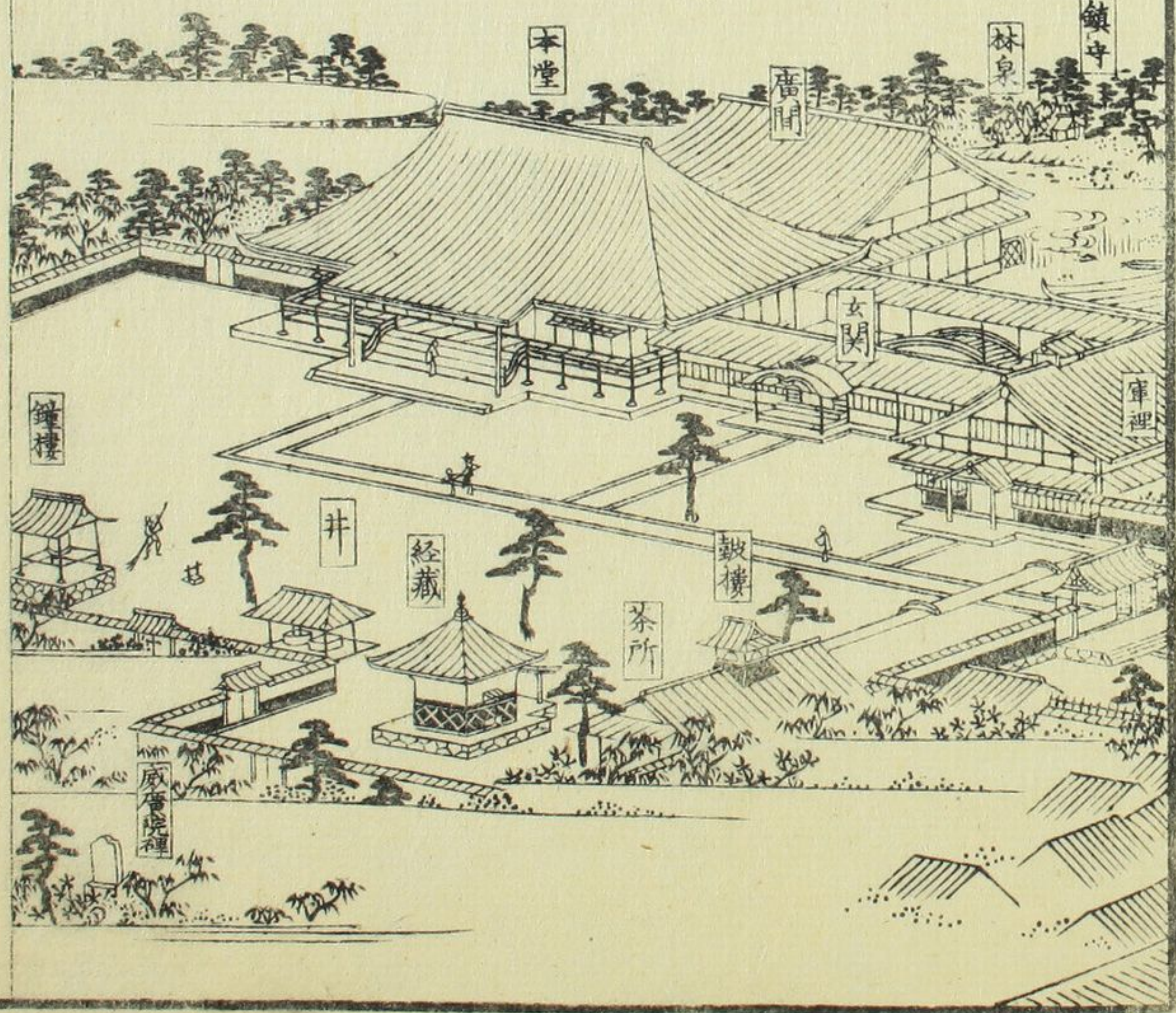
紀遊此池の

ぬるや夕々々

月

夕々々

居る水の月





多崎介親信の石塔有り、親吉東帯此
 画像も有りて例年正月晦日に法會有り
 本尊 阿彌陀如来
 真心の作

徳興山建中寺

京町通の東に有り、浄土宗無本寺
 園君御代、此御菩提所なり

慶安四年 瑞龍院殿

御父 源教公此御菩提寺、浄建、まわらむ下総國結城

の弘經寺に廓吞和尚と招請、同山より、同五年二月、

管成就の後、廓吞上系、六月廿二日、泰内、住僧代、賜紫

勅許の、繪旨と拝受、境内廣大、園君御代、

及び、御簾中方御連枝方、御廟御靈屋、堂宇甚多く

善美と盡き、世に及、又御寄附の宝物、多し、

犯し奉らんと畏、本尊 阿彌陀佛、鳥佛師の作、

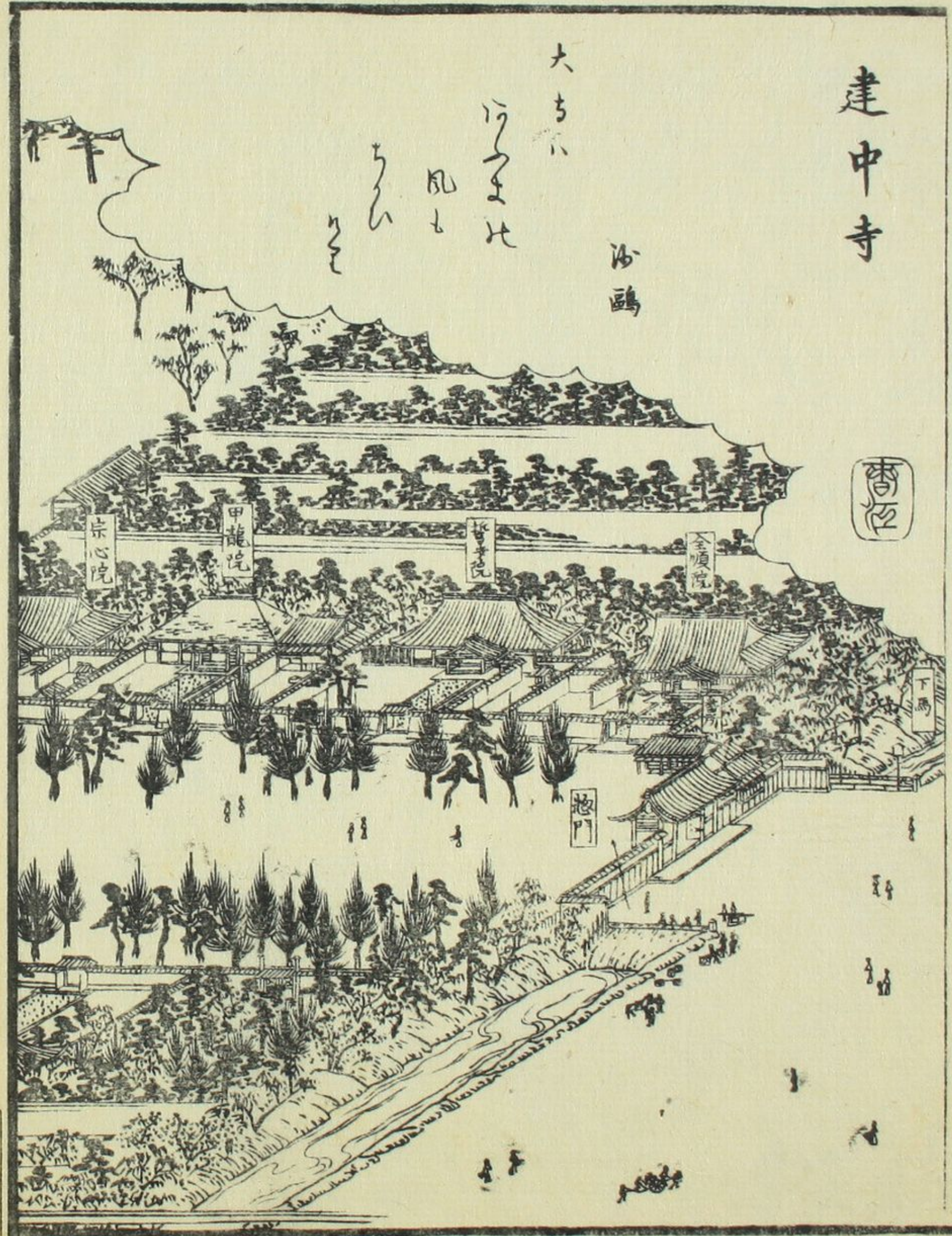
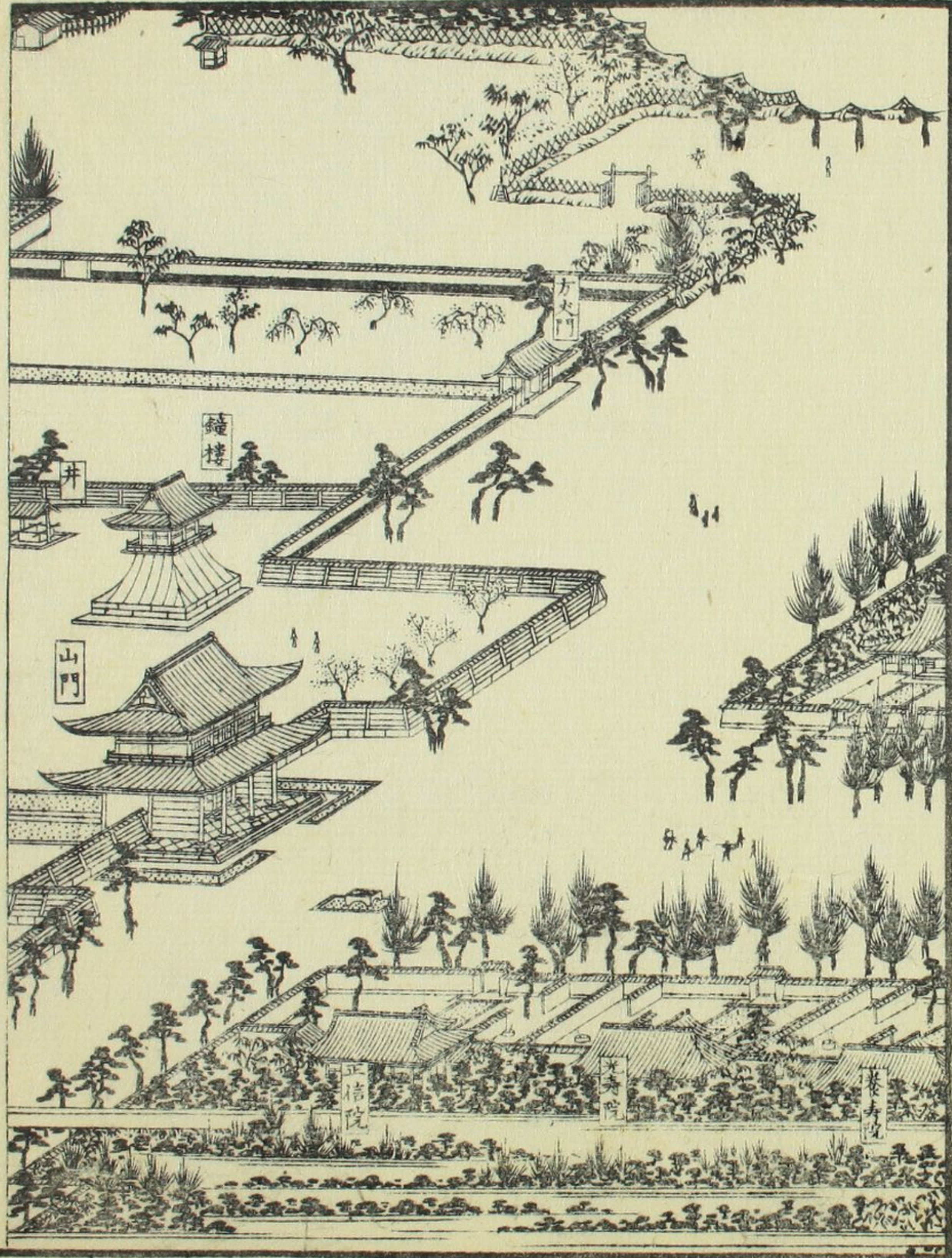
聖徳太子、轉法輪蔵の額、智恩院、尊越法、鐘樓の洪

鐘、慶安四年五月七日、林道春の銘、羅山文集にのせ、惜代、天明五年、塔頭七

宇、惣門、櫓門、正信院、宗心院、全順院

寺尾、大佐守、甲龍院、養壽院、光壽院

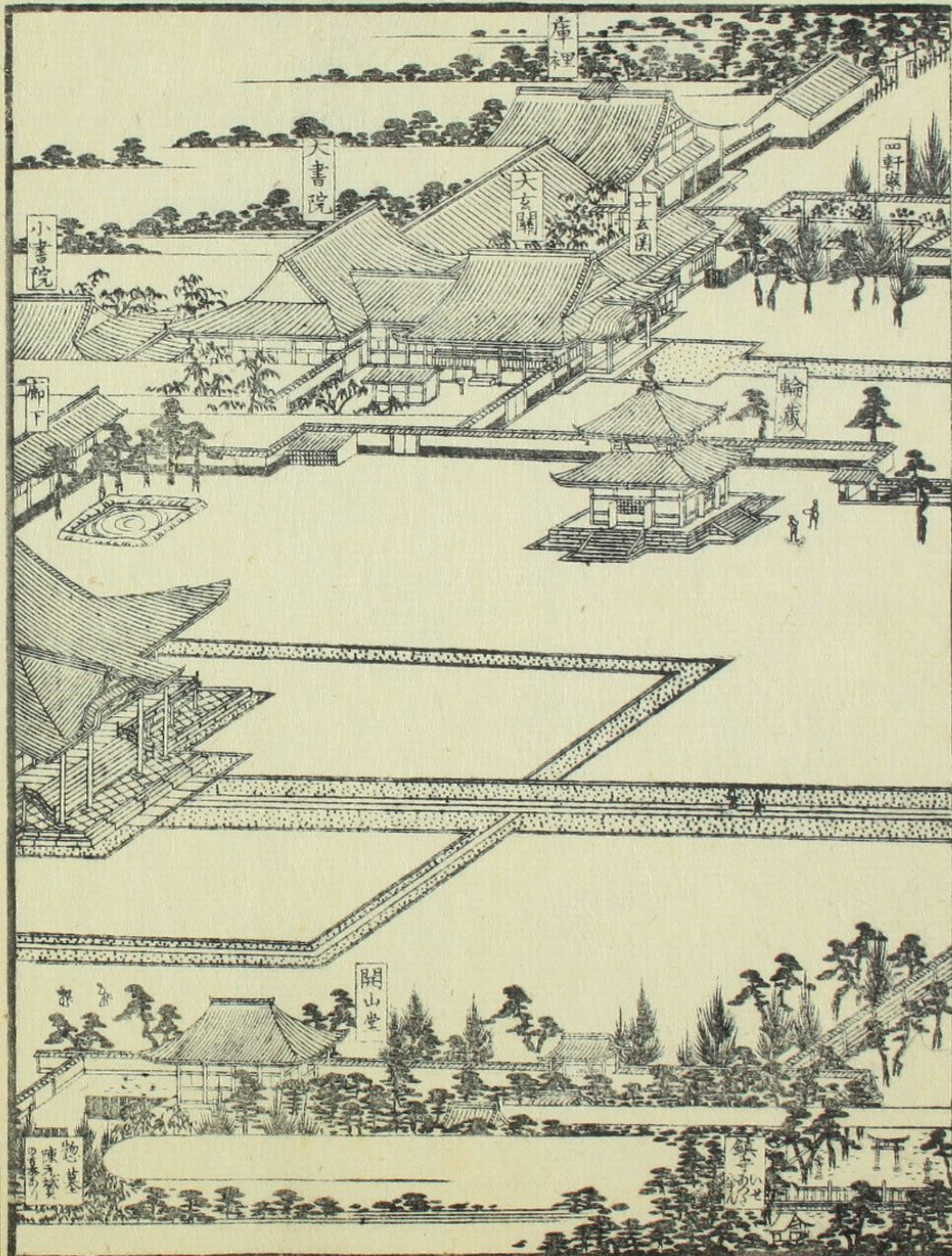
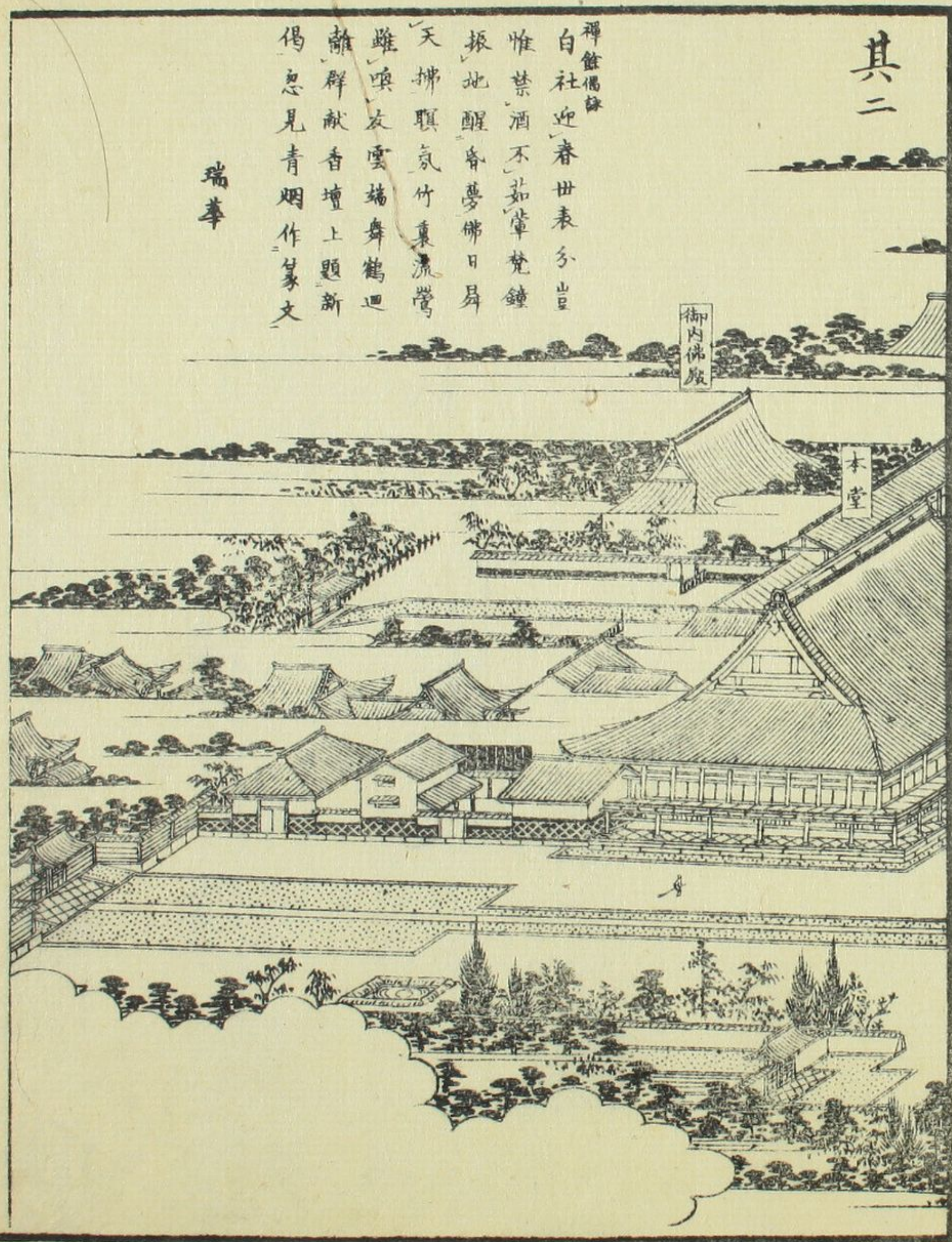
直龍建立、忠政建立、阿部河内守、關守正



其二

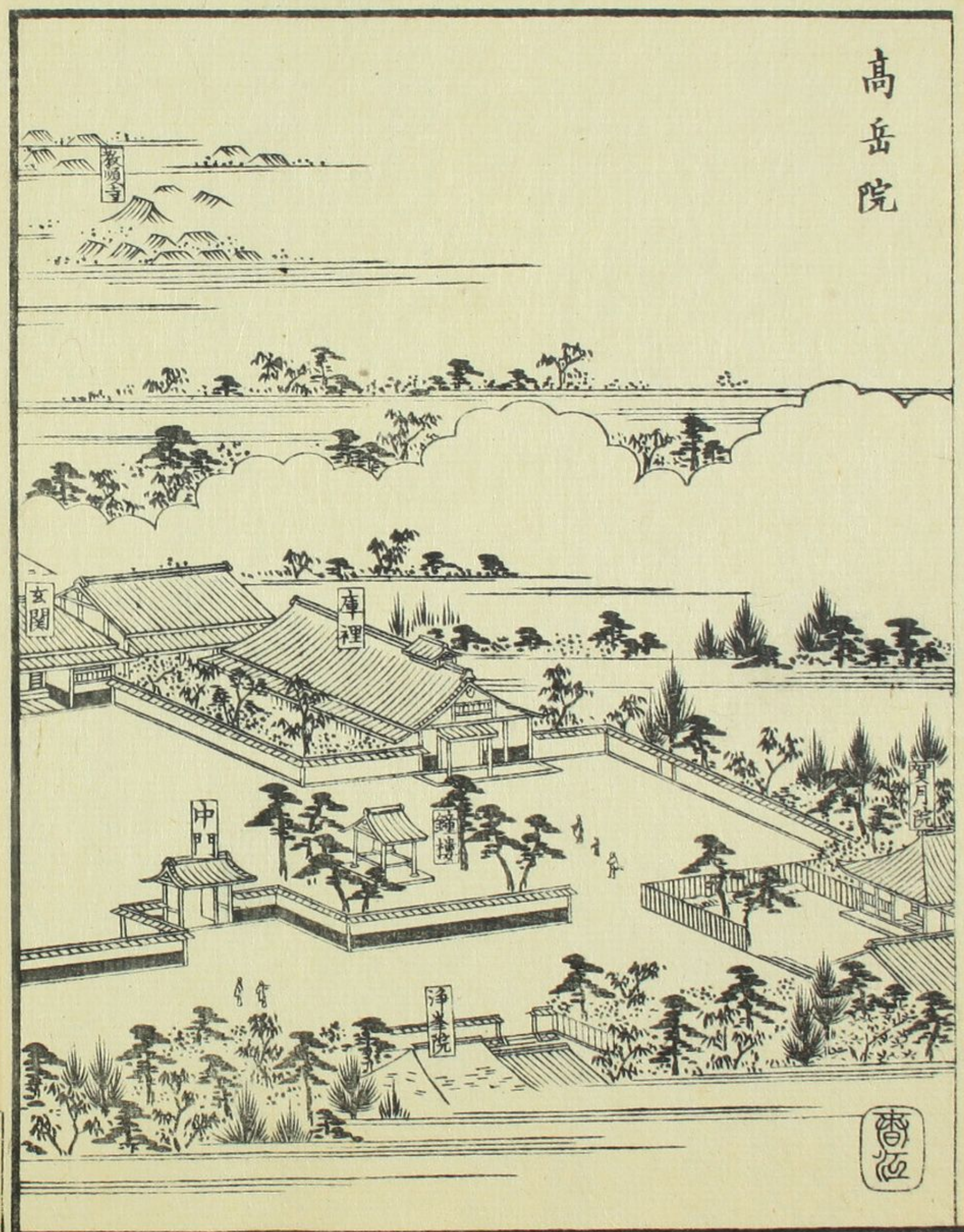
禪館偶錄
白社迎春世表分山
惟禁酒不茹葷覺鐘
振地醒昏夢佛日昇
天拂顯氛竹裏流鶯
雖喚友雲端舞鶴迴
離群獻香壇上題新
偈忽見青烟作篆文

瑞華





高岳院



香

持名山高岳院教安寺

銅屋町の南にあり浄土宗系妙智恩院末

教安寺より甲斐國巨摩

郡新府にあり慶長五年三月七日仙千代君

神君の御子御母ハ相應院殿

せ給ひ御法号高岳院殿華窓林陽大童子より奉るとい寺に葬

めたり同十三年平岩主計頭親吉清須小つと相應院殿乃

本願寺にてありせん本尊 阿彌陀 書院 相應院殿の真像と

鎮守熊野社 三社権現の本 鐘樓 塔頭 淨峯院 賀月院

國祖君清須の城門とあり 相應院殿の父志水加賀守宗清法号淨峯院

佛法山東克寺

禪寺町法河町北の西側

本尊 阿彌陀 藥師堂 小牧山に

行り佛堂焼失りし像の火災とすけ藪の中此像葉の上に安置あり丹羽郡

寺僧に承りて名づく春向風來寺此本尊と因木より丹羽郡

鷲嶺山含笑寺

東克寺にあり東側におり曹洞宗石松寺末享禄元年織田信

後園の林泉を愛賞又あり又あり隣 本尊 釈迦の 居所大榮軒同町北の方にあり

泰宗山永安寺

同町駿河町の南にあり東側にあり曹洞宗三洲村正眼寺末下肥後寺

本尊 聖觀音

本光山長榮寺

永安寺の南にあり西側にあり日蓮宗末妙満寺末寛文八年國

本尊 法華

佛力山本立寺

法華寺町の北の方東側にあり日蓮宗同町末正寺末文禄元年此

本尊 法華

妙長山照遠寺

本立寺の南にあり西側にあり日蓮宗末於本國寺末日蓮上

本尊 法華

啓運山法華寺

御堂の南側にあり同宗同末延徳年中織田華刀在座耐孝勝の建立

本尊 法華

寶珠山常德寺

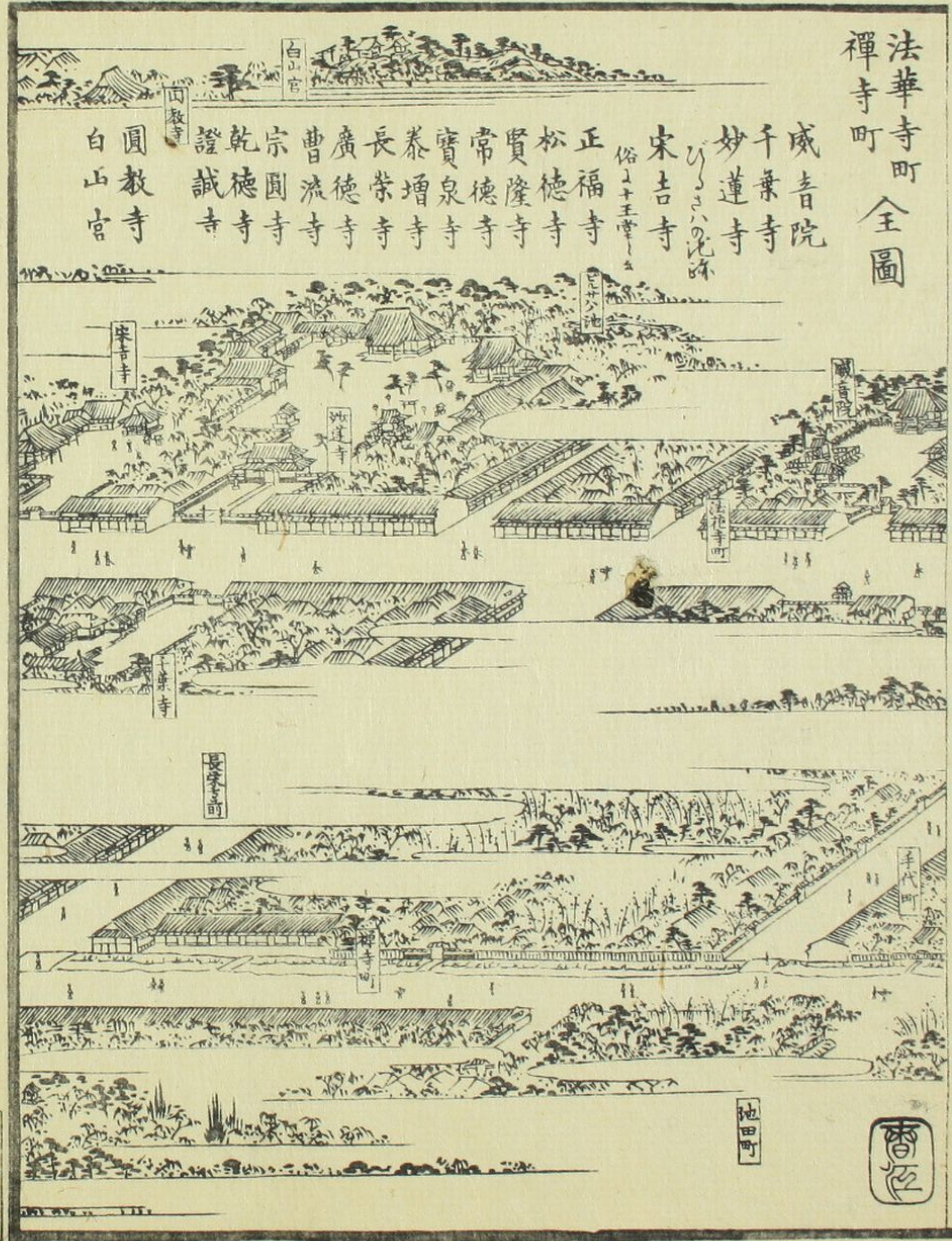
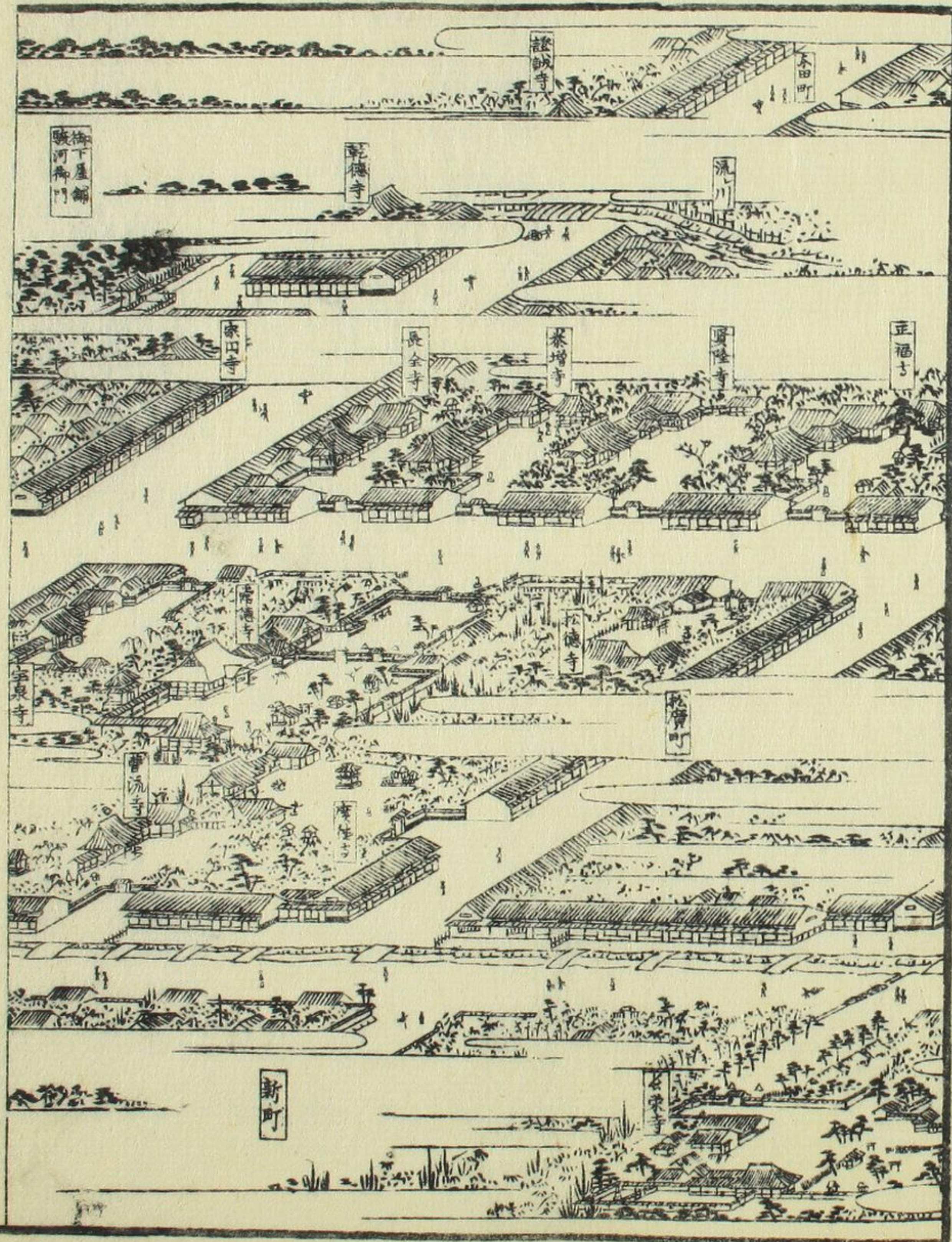
法華寺町駿河町通の南にあり西側にあり日蓮宗末妙満寺末

本尊 法華

妙日山妙蓮寺

常德寺の南にあり東側にあり日蓮宗末安房國小湊誕生寺末

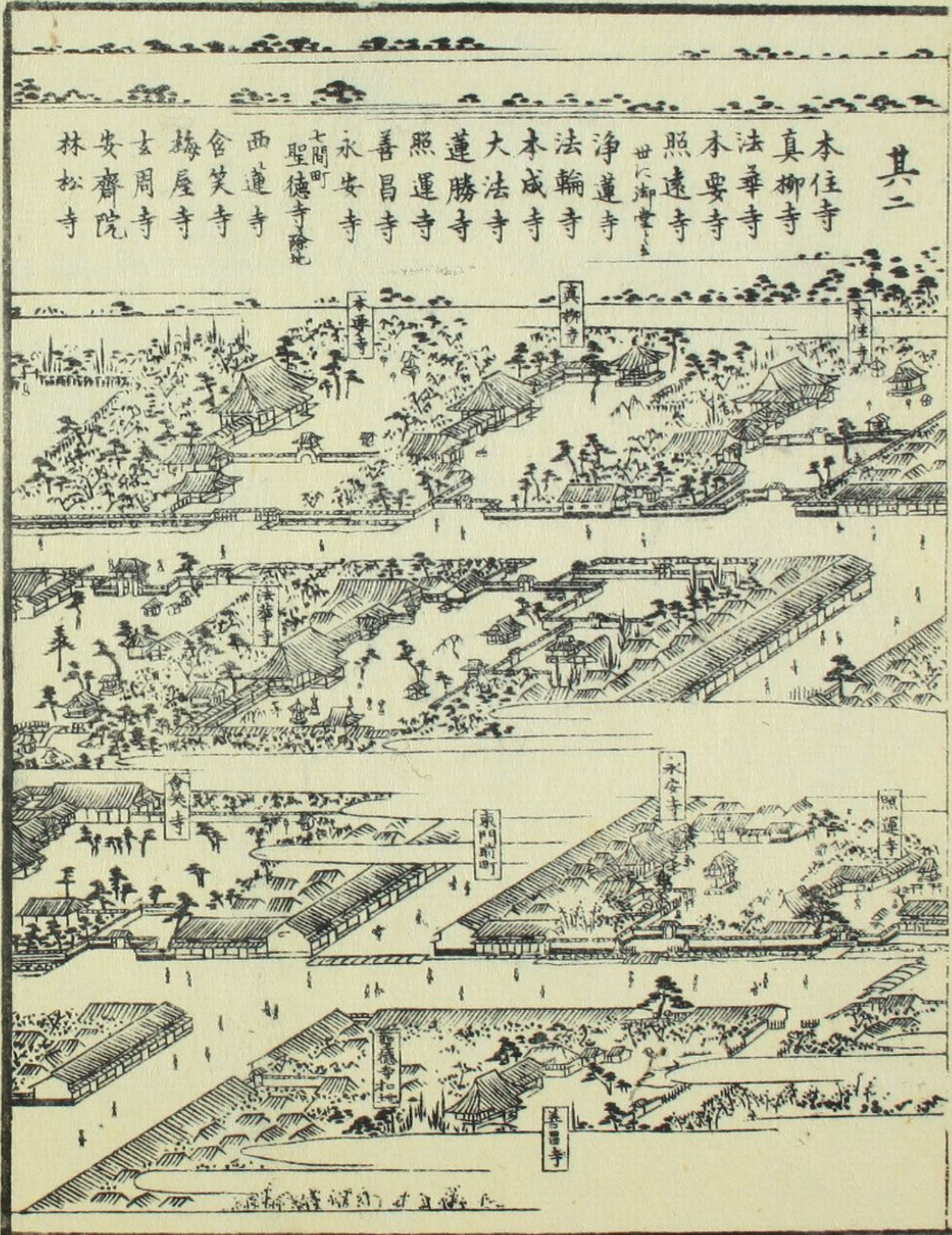
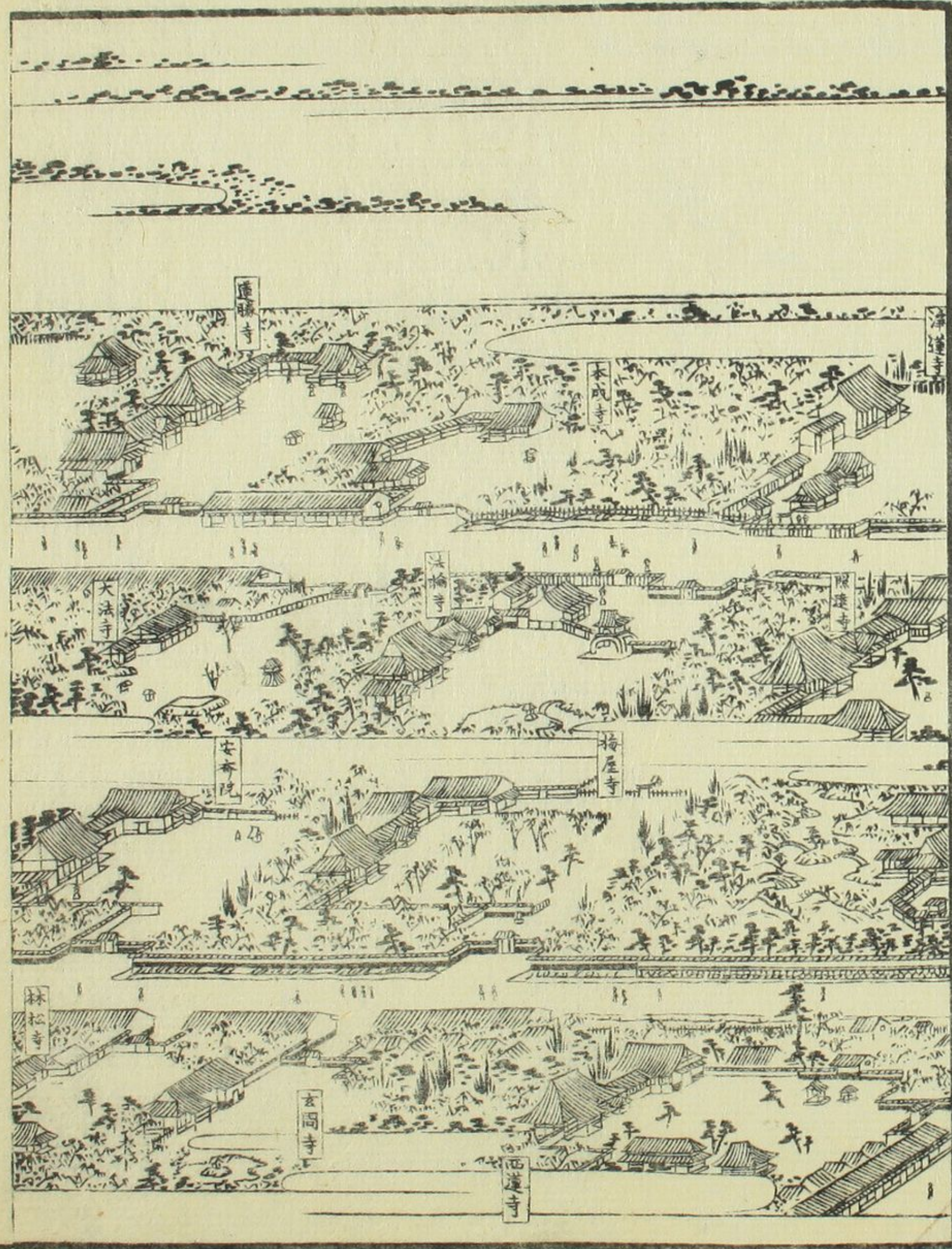
本尊 法華



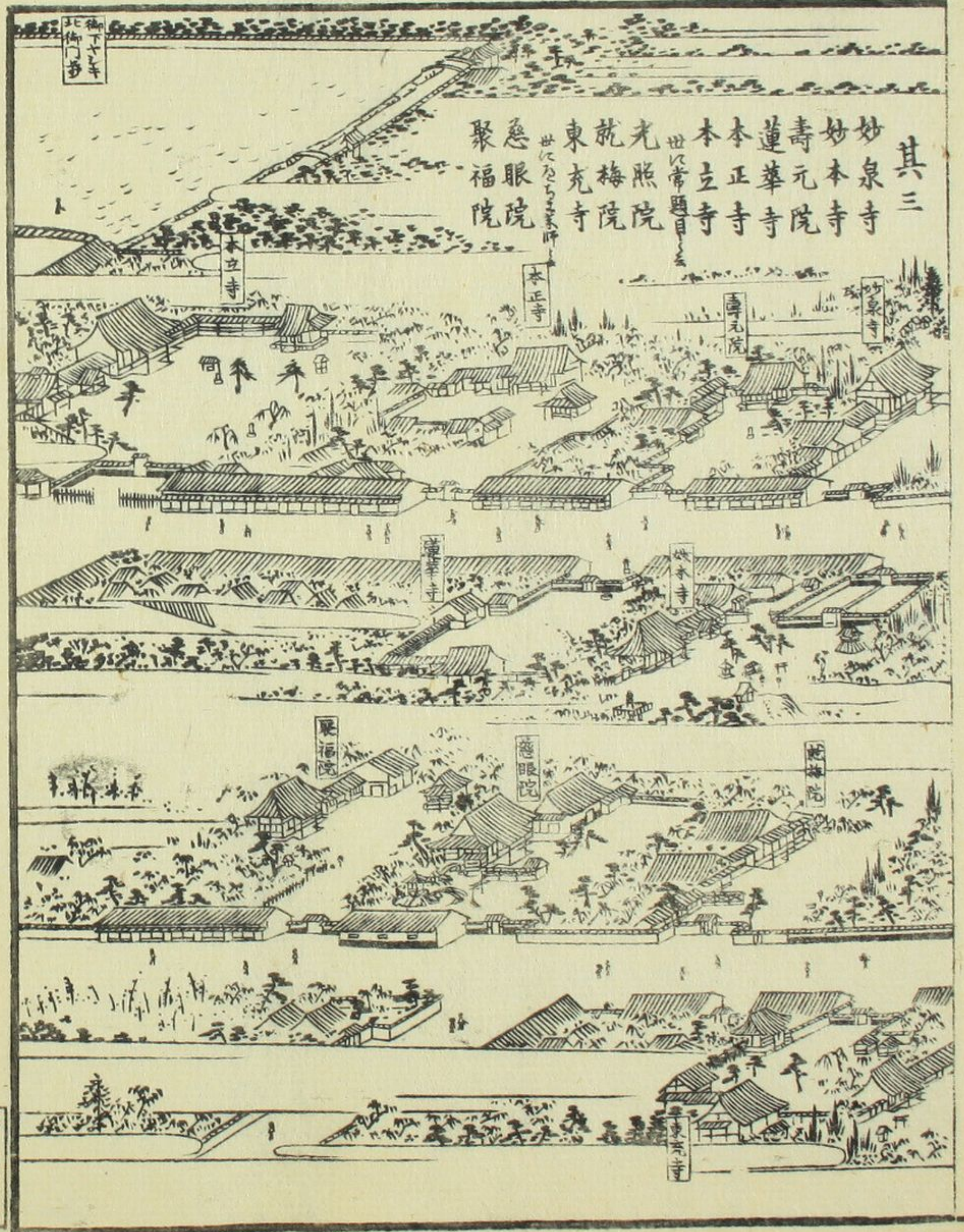
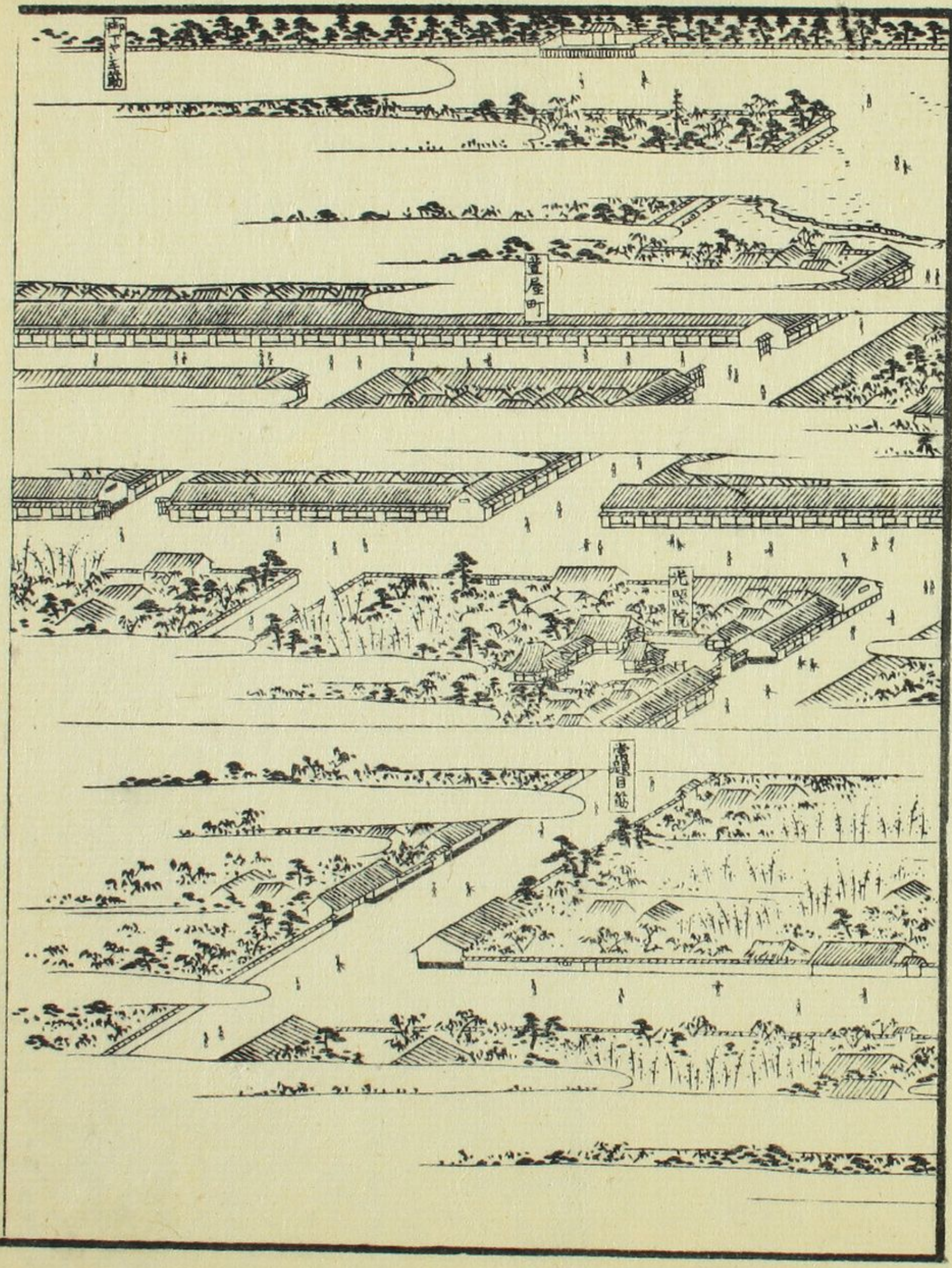
法華寺町全圖
禪寺町

威音院
千葉寺
妙蓮寺
宋吉寺
俗王堂
正福寺
松德寺
賢隆寺
常徳寺
寶泉寺
長崇寺
廣徳寺
曹流寺
宗圓寺
乾徳寺
證誠寺
圓教寺
白山宮





其二
 本住寺
 真柳寺
 法華寺
 本要寺
 照遠寺
 淨蓮寺
 法輪寺
 本成寺
 大法寺
 蓮勝寺
 照運寺
 善昌寺
 永安寺
 七間町
 聖徳寺
 西蓮寺
 會笑寺
 梅屋寺
 玄周寺
 安齋院
 林松寺



其三
 妙泉寺
 妙本寺
 壽元院
 蓮華寺
 本正寺
 本立寺
 光照院
 就梅院
 東光寺
 慈眼院
 聚福院

白山權現社

強河町通の東小山の上にあつたとの生土神ありしを本社神とせり例祭六月九日神事ありて町に勧進山上よりすきりしを皇とあそびしは皇孫とせり

法榮山大圓寺

東田町北の側にありて本寺東山脈濃州岐年浄土寺未本尊 法榮の作

片岡源五右衛門高房墓

東田町乾徳寺にあり 法名双勸要飯信士武家熊井氏今井氏より 主赤穂の義臣四十七士の内の一人に安らふ

府武家此子ありて赤穂の片岡氏の末子あり 主家繁盛の後徳意何事も身をかきけり高房も熊膽丸とてくも府に來て安らむにすえけに其又仇と後すも所なきに疑ひ憤ての一休に腰ぬきりて瀕死に高房を心とて門外を過りて其父を其父の復讐事終て其父と一紙ふりて瀕死に賣すも門外を過りて其父を其父の教のうちに我子ありて其父と一紙ふりて瀕死に賣すも門外を過りて其父を其父の分桃休論謀讐無私抽象委身誰莫感恩鮮哉若人に見えり

暹龍山西蓮寺

東門町の北側にあり 浄土宗智恩院未信長女の息女西蓮院貞慶淳松大姉の為し永禄年中開基す開山僧祖的武田信玄の孫あり

寺北什室八彼

本尊 阿彌陀の坐像 寺寶 食籠一箇 信玄守本

尊一幅

信玄の旗 紺地四半幟小令泥く其疾如風其餘如林侵掠如火不動如山しりりし半八幡とて今教字のこより又信玄甲冑

塔頭

貞養院 退光院

富士権現社

富士塚町の西側にあり 山口北前山より社比廣大なりて永永の代ハ前山は信守神職よりし神城寺造営の時社と中下蛸屋町の直に

て富士塚とて伊予の名に及へて例祭五月九日の土日

晉王山瑠璃光寺

久屋町一丁目西側にあり 曹洞宗僧桂安の建立して清汝に在りと元和年中あにりす本堂此にきき若師や來ハ常安と名

玉林山誓願寺

同町袋町下西側にあり 浄土宗安田正覚寺未享禄年中の開基あり元禄二年十月十日より興起り 不斷念佛世に久屋誓願寺

公の旌旗

本尊 阿彌陀の像 地藏菩薩 師の坐 寺寶 平重盛

朝日山上方浄念寺

小塚町大津町北側にあり 清須の朝日村ありて天長宗

の古刹あり 中興の祖慶惠ハ清和源氏経基王の孫大和守頼親の裔孫土方出羽守治氏の子左近丞時直といひり寛正年中出家し當寺に任職し蓮如上人關東よりゆ浴の所あるに止宿せり

本尊

神君御守護の法印僧ありて現存す其墓所彼附の教品とて浄土ありてせりて浄直書清肌著ありておかし又 源歌も

蓮如上人直筆の六字名号

神君より今れが御社の後ちておかし

告命聖徳太子黄金の尊像

日次寶劔

日次寶劔

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

神君より今れが御社の後ちておかし

小袖塚

銀治屋町通鶴重町の北に
東側の高家の裏にあり

横江氏の女師と云は
れられたり。其の
水して穿つて、
公より後、小地を
女が毎の夜、
祈の松枝に、
やがて塚、
小地塚、
あつた。松木、
汲ると今、三十四年
た。松つと、
の、
古塚あり



大和國守知郡の位人土方太郎季作より傳來。其の
代、此の寺、
將軍家借神、
惠日山光圓寺

惠日山光圓寺

大津町通小橋町西南角にあり。東に光圓寺、
頼信後、
改り、
つ、
り、
一振

改り、
つ、
り、
一振

一振、
教如上人壽像、
本尊、
阿彌陀佛尊影、
太刀

教如上人壽像、
本尊、
阿彌陀佛尊影、
太刀

本尊、
阿彌陀佛尊影、
太刀

究竟山圓輪寺

袋町筋大津町西へ北側にあり。浄土宗、
院、
僧、
一、
修

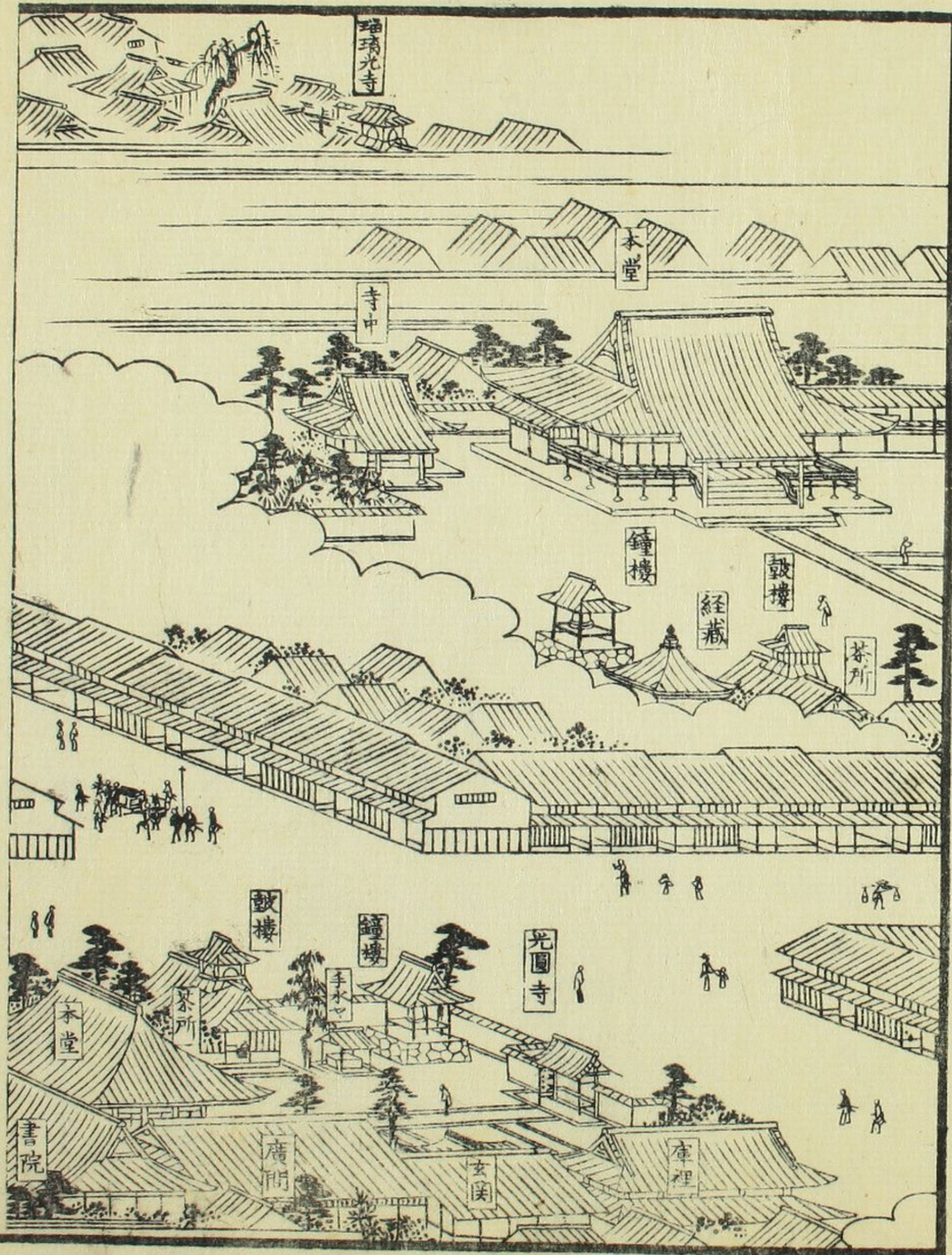
院、
僧、
一、
修

修、
子、
來、
七、
國

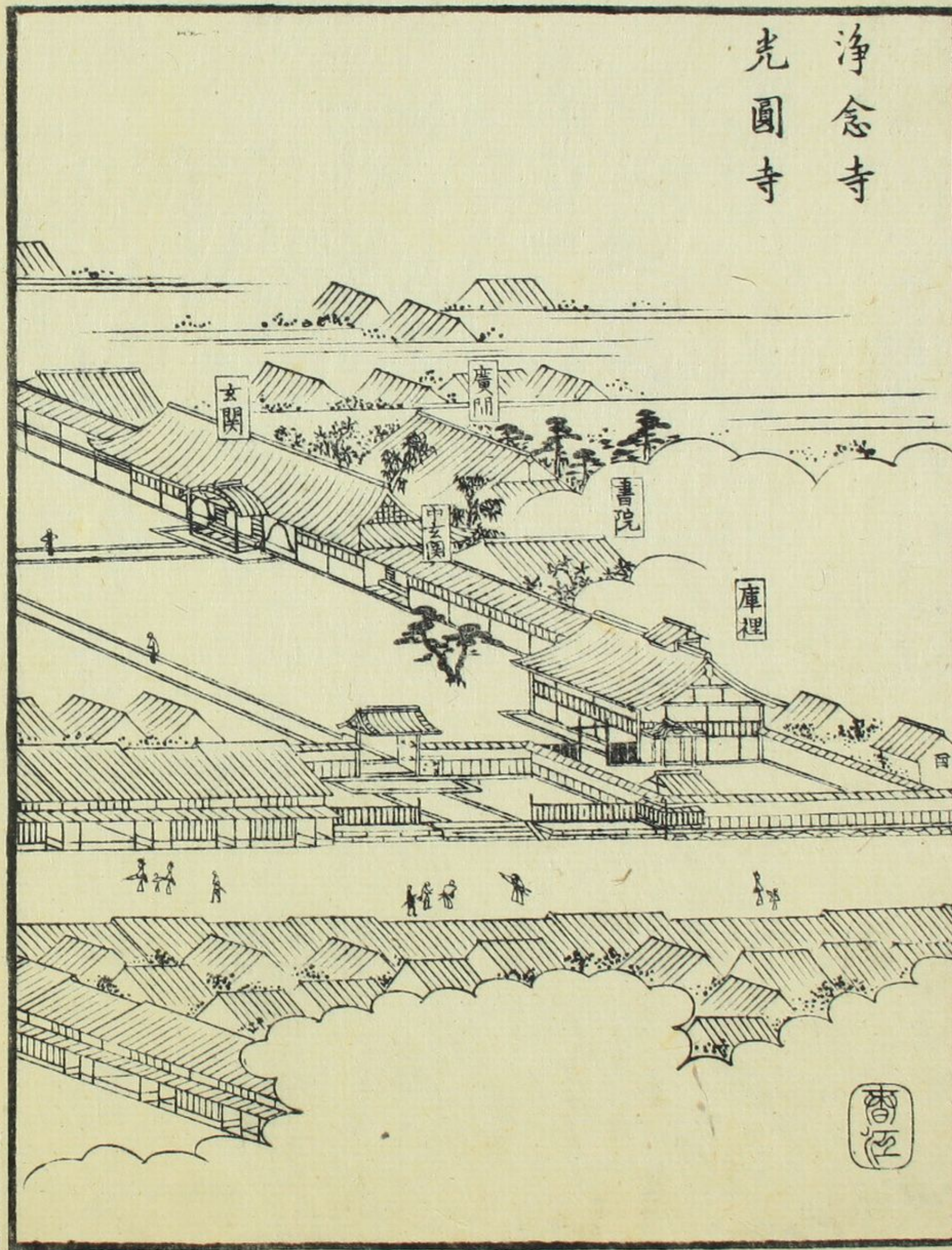
子、
來、
七、
國

國、
本、
大

本、
大



淨念寺
光圓寺



産前産後二母散

吳服町一丁目西側にあり婦人科奈倉氏家傳此妙法あり清次にあり信長と医術の切と考して太刀一振とゆふとて丸に二ツの紋と彫りて是を信長奈倉氏の家故とす今十代より於連抄より奈倉と称すとの三四家は是よりすべし家と宗と

七寶山小笠原聖徳寺

七間町通袋町下西側にあり寛喜年中親鸞聖人此寺と羽栗郡大浦正十二年より美濃に遷すに建立し直中閑善姓清和源氏甲斐國巨摩郡の住人おとよと長野長頭藤原のゆかりありと住持として七種の靈寶と附あり

古刹ありと永正年中中島郡富田にありと多長八年清次にありと又大浦一戸ありと天丈十八年信長と謀友道三と富田の聖徳寺と兼令ありと此寺なり

本尊 阿彌陀の本 七寶 鐘樓 鐘は寛文二年此大師遺骨開山十年名号開山鏡影像是と七宝は外室にお古説文判れおまきと陳元贊の修文と形ありとありと横内に信正院君の御墓あり

尾陽 聖徳寺者親鸞聖人之高弟開善師始肇基於濃州 繼遷尾州 旋復歸卓錫於濃州 寂後改卓於今護屋 蓋十七傳於茲矣 頃丁灰劫之變 賴衆檀力不日 化宇重新 鐘簾再整 鏗然闐闐 之中四境 特以昏曉 焉其十七傳之法 孫諱顯應者 與余為方外友 乞余俗諦一言 而銘之 為鯨音和願 凡鄙曷克 此命雖

然方外良交不取以凡鄙辭謹布數言以答其意而永揚善師之聲教云 銘曰 立法闡化 權輿美濃 聖德肇興 善師開宗 運丁灰劫 再新琳宮 法無常住 護屋是宮 警醒且暮 震覺昏蒙 琳官司漏 多乳鳴銅 百千萬劫 聖德善功

渡邊山守綱寺

任吉町お北の院あり東慶安二年國光渡邊飛騨守守綱善提のしるしの始孫治經の建立すく僧者頼と開山と守

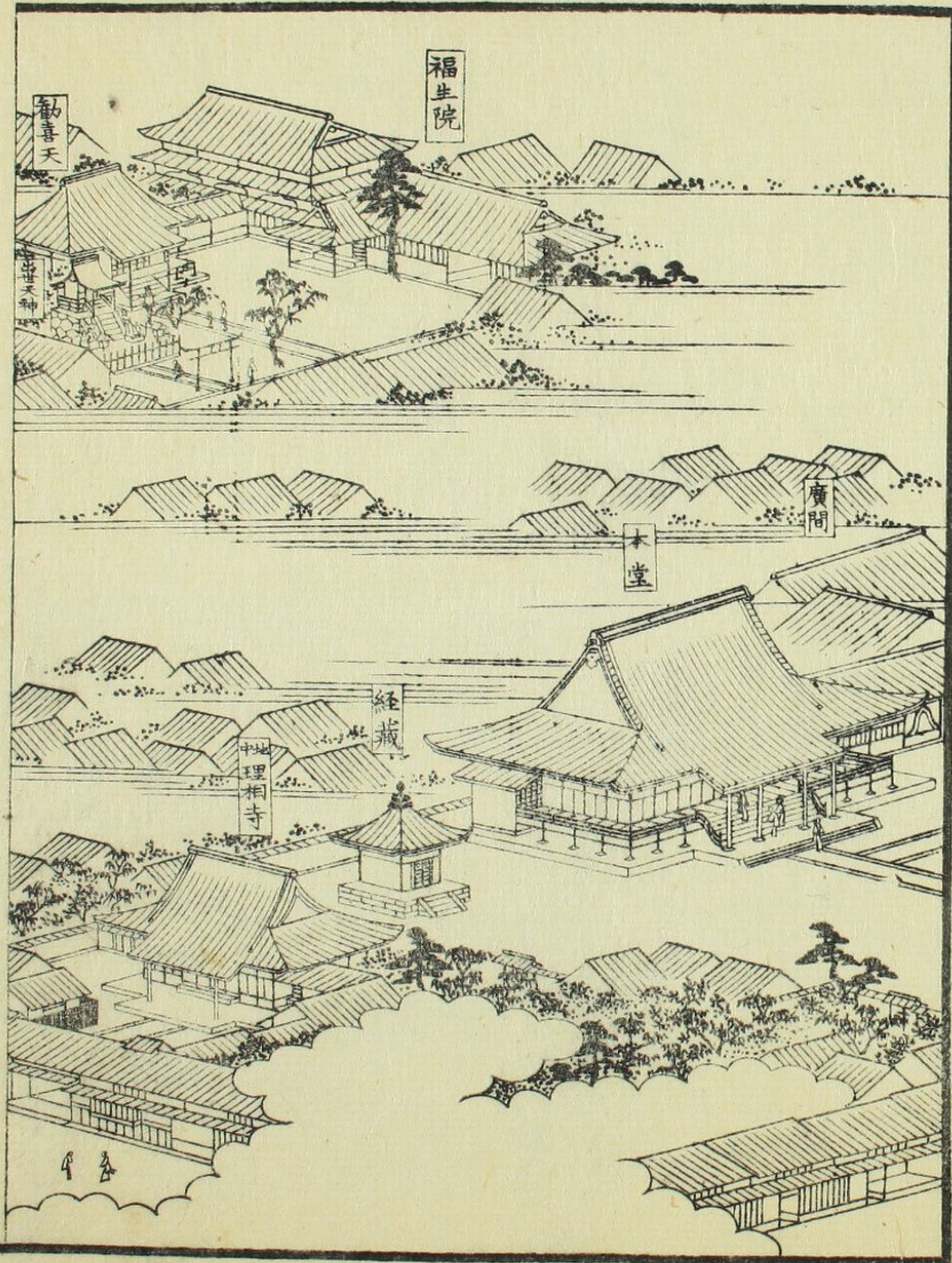
參河國加茂郡寺邊ハ渡邊氏の領邑ありと守綱寺

東海山白林寺 本尊 阿彌陀 鐘樓 鼓樓 國光成瀬正成法名白林寺の善提の為に 國祖源敬公寛永二年に神創し終ひ蘭叟和尚と開山

席此再建しと 本尊 親迎の鐘樓 寛文元年 經藏 阜人正親と又正

寛文貳年壬寅季春上浣三日 大明虎林戴髮俗子陳元贊 練息撰 水野藤原政長

席此再建しと 本尊 親迎の鐘樓 寛文元年 經藏 阜人正親と又正



聖徳寺

百非道人

珠網玲瓏七寶林半
空法鏡映末深最憐
暫尔曇華兩使客長
證不滌心

名古堂聖位寺比
清室おと洋して

貞柳

まゝあひしつと
こころハこれ
とくは
少教たのまん

香印

守網寺

看守細寺棟棠花 乾堂

棟棠千畝著花濃葉上

黃葩萬玉叢繁葉遍開

前日兩嫩枝輕動晚天

風

ち張さく山吹と

茂岳

さみしひれさつふき

ふよ山ふき乃

花の色こそ

あまや



香煙

為に梅花と造主一清朝板の一切 経と納り一岳の肖像とも安をす

塔頭 惠照 軒

瑞雲山政秀寺

白林寺の南隣 天文年中平手中務太輔政秀其菩提の為

信長云此建立僧沢彦を以て開山とす

と信秀雅と信長の及ハ業之業ハ登の為に

沢彦信長と信秀の求めに

衆の字と形ハ四十八の如く 灰佛徒住地とす

て程あり 飼子にひき 天下ハ掌握あり

又公に布武天下の印章と持げ

鐘樓 平手政秀墓 法名切菴宗 貞松院大夫人墓 織田左衛門尉信益の女

晋峯院殿御墓 廣幡大納言忠 忠大居士

寂光山勝鬘寺 大津町の南にあり 本末の院家三河國額田郡 本尊 市弥院

德壽山清浄寺無量院 前津小林の夫場町にあり 元禄十二年六月此寺を海

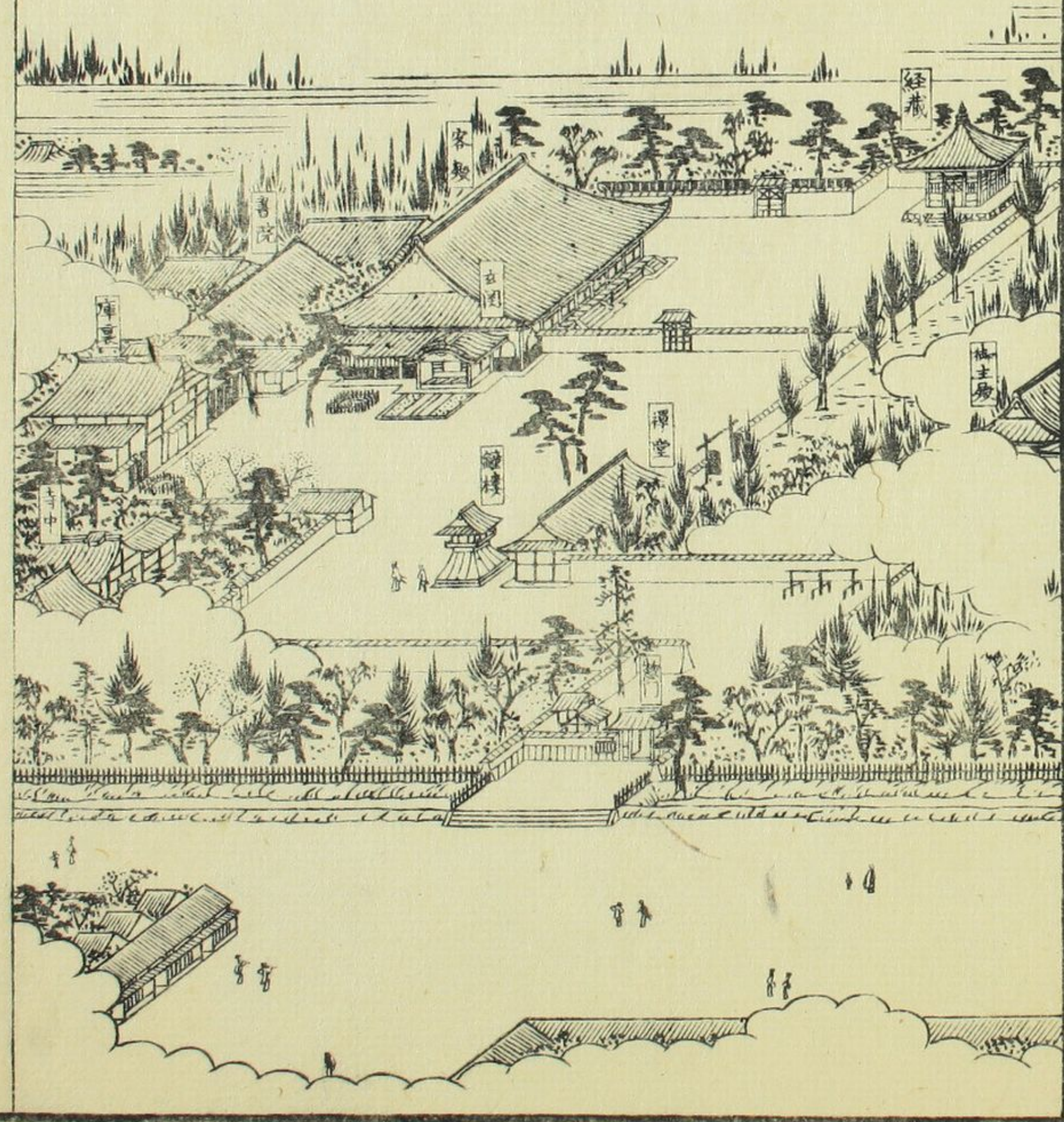
東郡津島より 郭龍和尚に賜り 本尊 阿弥陀佛定朝

地藏堂 其佛ありて世に夫 牧氏の墓 石塔

佛 元龜元年庚午 信徳院善行慧長大姉 天正五年丁丑 長清院ハ牧子三在院の尉原

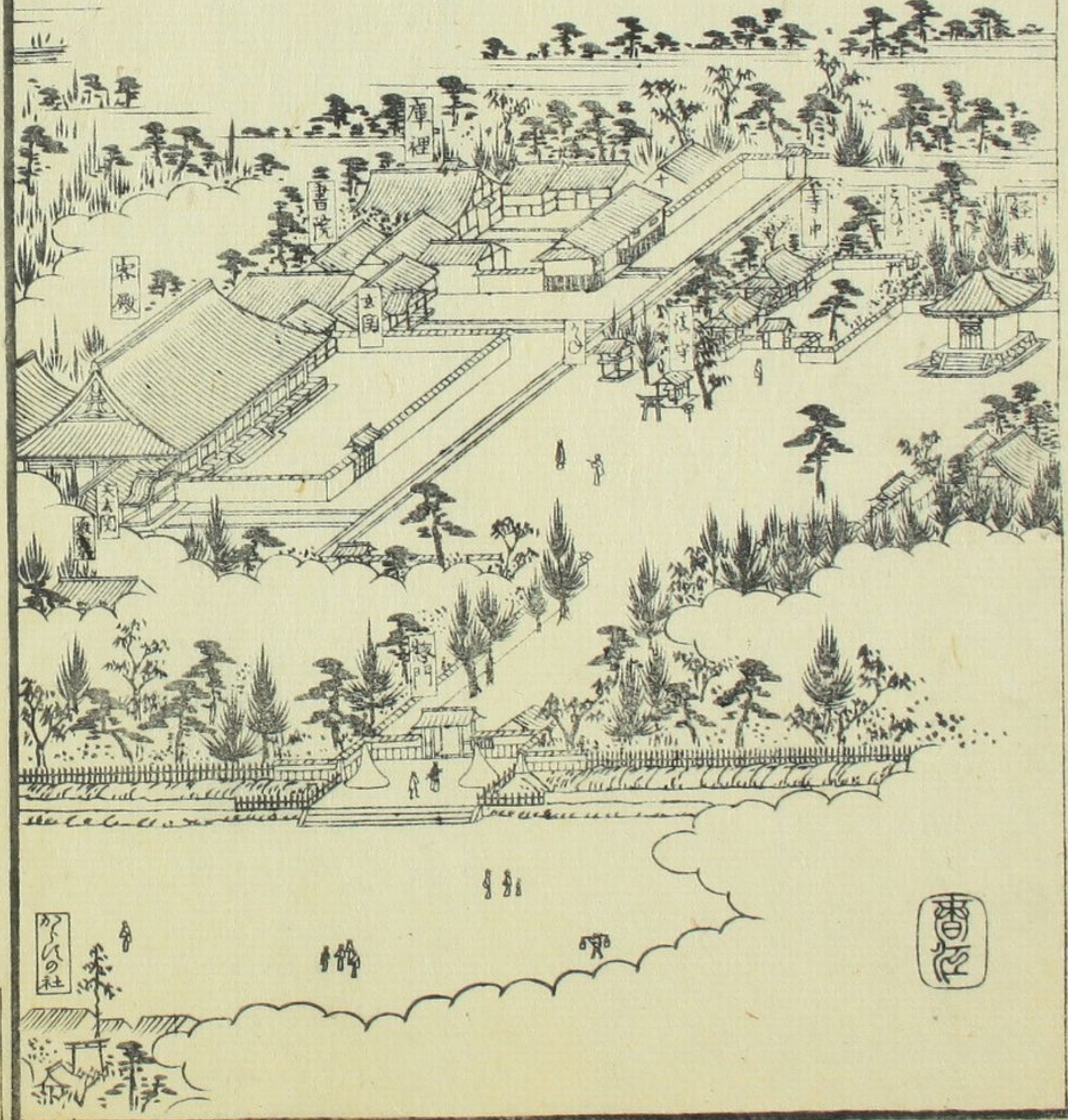
白林寺

龍屋
まのりみ
かまれ
ま
煙
白き林代
さの入お



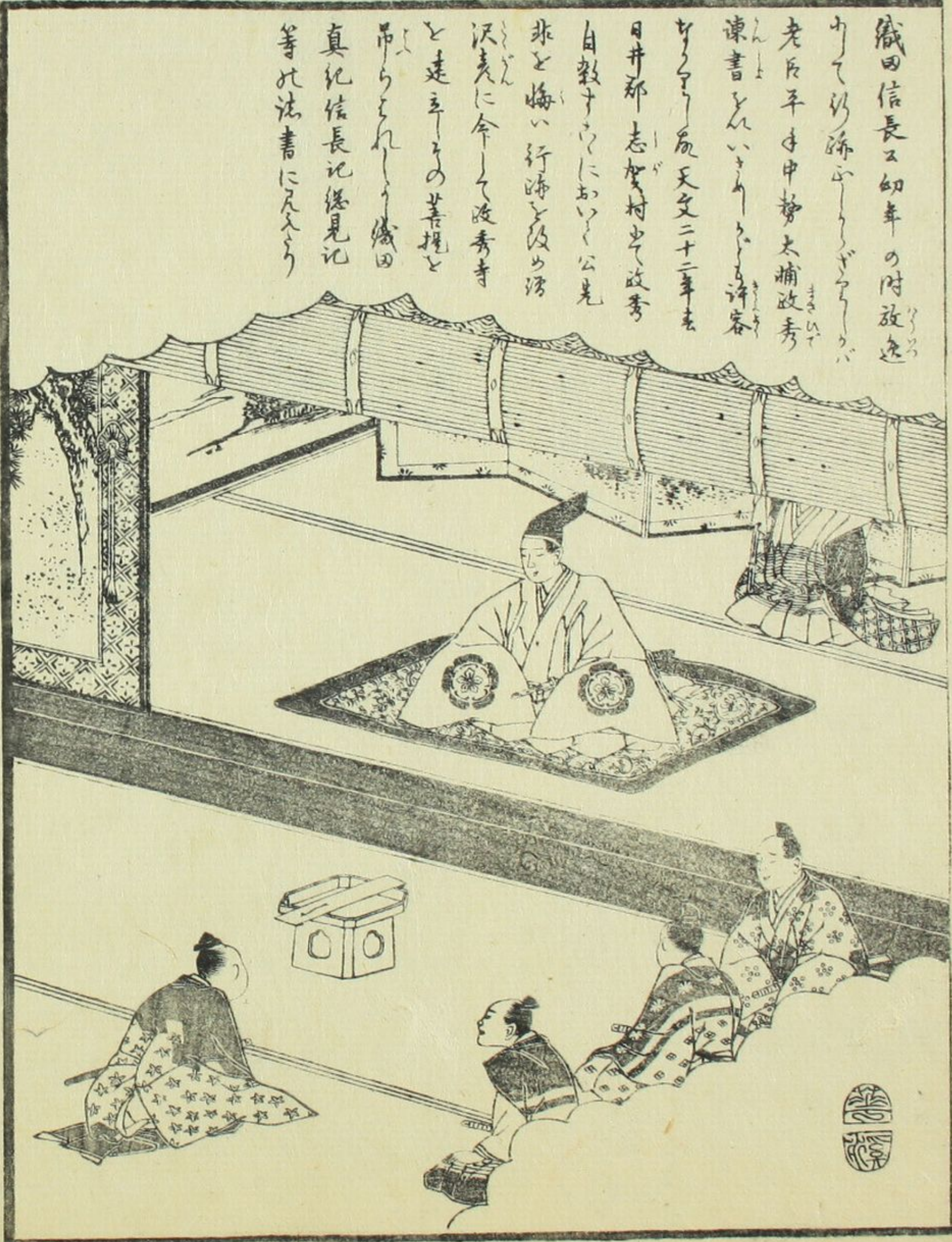
政秀寺

平子政秀の
仲敏
くちせぬ
ま
このふれ
うらと
か
あ



香印

織田信長は幼年の附放逐
 して以跡ふりて信雄の
 老臣平手申勢太補政秀
 諫書といふりて許容
 せりて天文二十二年未
 日井郡志賀村中政秀
 自殺すらにおい公先
 非と悔い行跡と改め活
 沢夫に令して改秀寺
 と建すその菩提と
 吊りてこれ織田
 真紀信長記保見記
 等此法書に足入り



長清信徳院は同人室信長これ始り信雄の徒士各限帳に小林
 殿ありは此婦人より長清は小林の古城よりいふは城内を旧地より

柳生兵庫居住地

清浄寺北内ありは人毎樹の連人少く少の産地此蓮とて
 兵法の奥儀とせりていふは難製のは浦並にすすは使
 藝のふる名ありていふは是れ書にのせりていふは人の好みくつらせり深基き
 いりて或用にきりて世に柳生つていふ名つけりて是とまた又茶道にも一茶とよ統茶入
 りて手製す其様ありて
 世人討し活せり

三輪明神社

清浄寺の南にあり牧氏の建主
 創祭八月十九日夜神祭と奉り

醫王山東泉院

前津三輪所の西側にあり
 晋洞宗古井村光正院末

本尊

某所出来行基の作りははる某此
 色に在りて附斐田の方より信濃

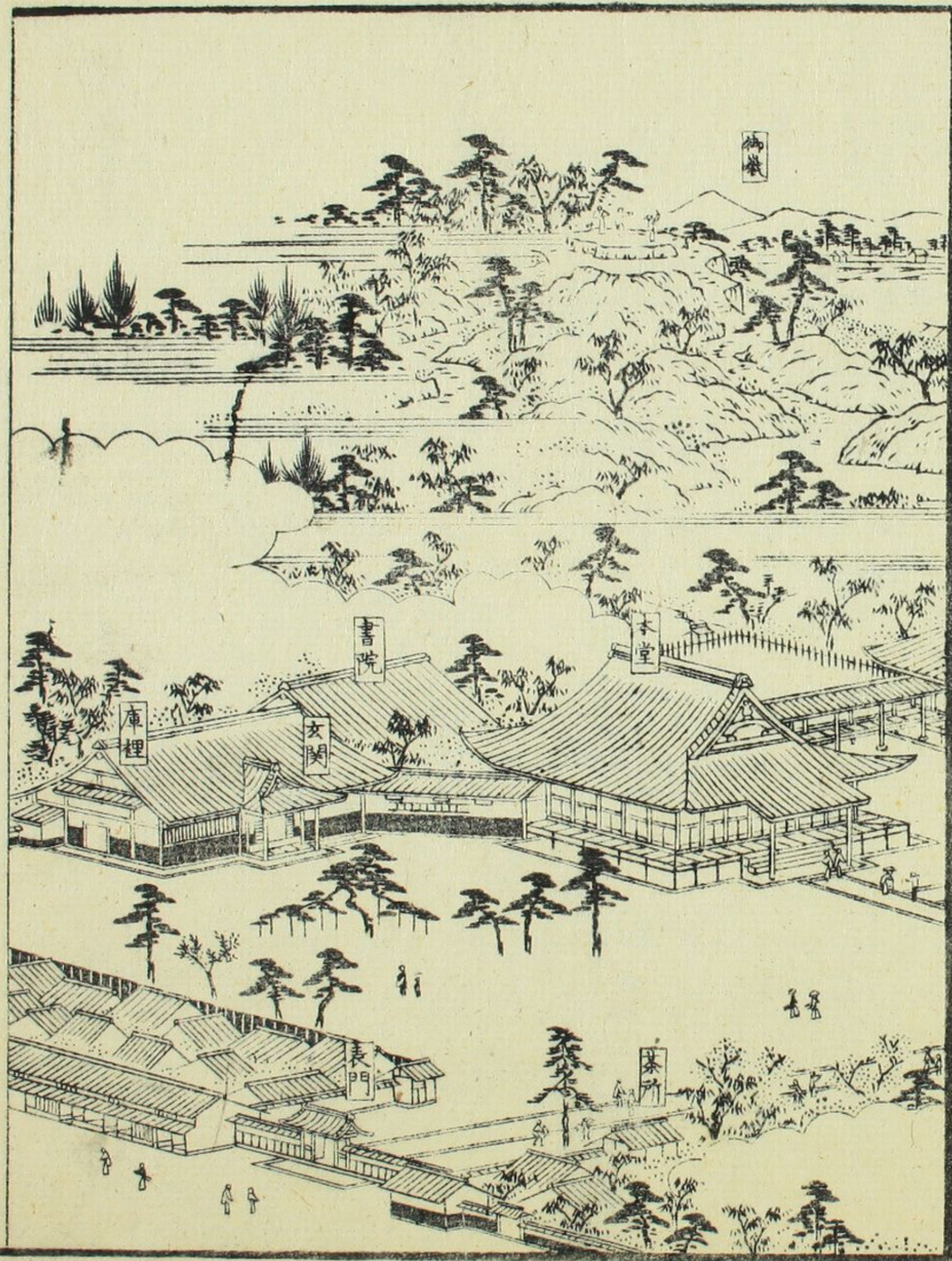
橋の寮

清浄寺東門の南にあり假山園池より幽趣ありて亭上此眺をもち
 某よりいふていふより富富鏡の人の別在多く其のい人より

富士見原

あはれ中の切の東北家つき東麓西の赤の方やまきまきしてこりて東の方と見渡
 せば猿掛山大州山の間に富士山かすりよるゆりかむむりてあはれと富士見原と名せり
 せり又いふは小のくも横井暮水翁別荘と接して自ら知雨亭と命とて掛は風光と題目
 せりていふは高松の法象廿八人より七勝の吟詠と求りていふは今日よりいふは内の人と左に
 知雨亭池及び暮水翁法文の七巻池水に足えたり

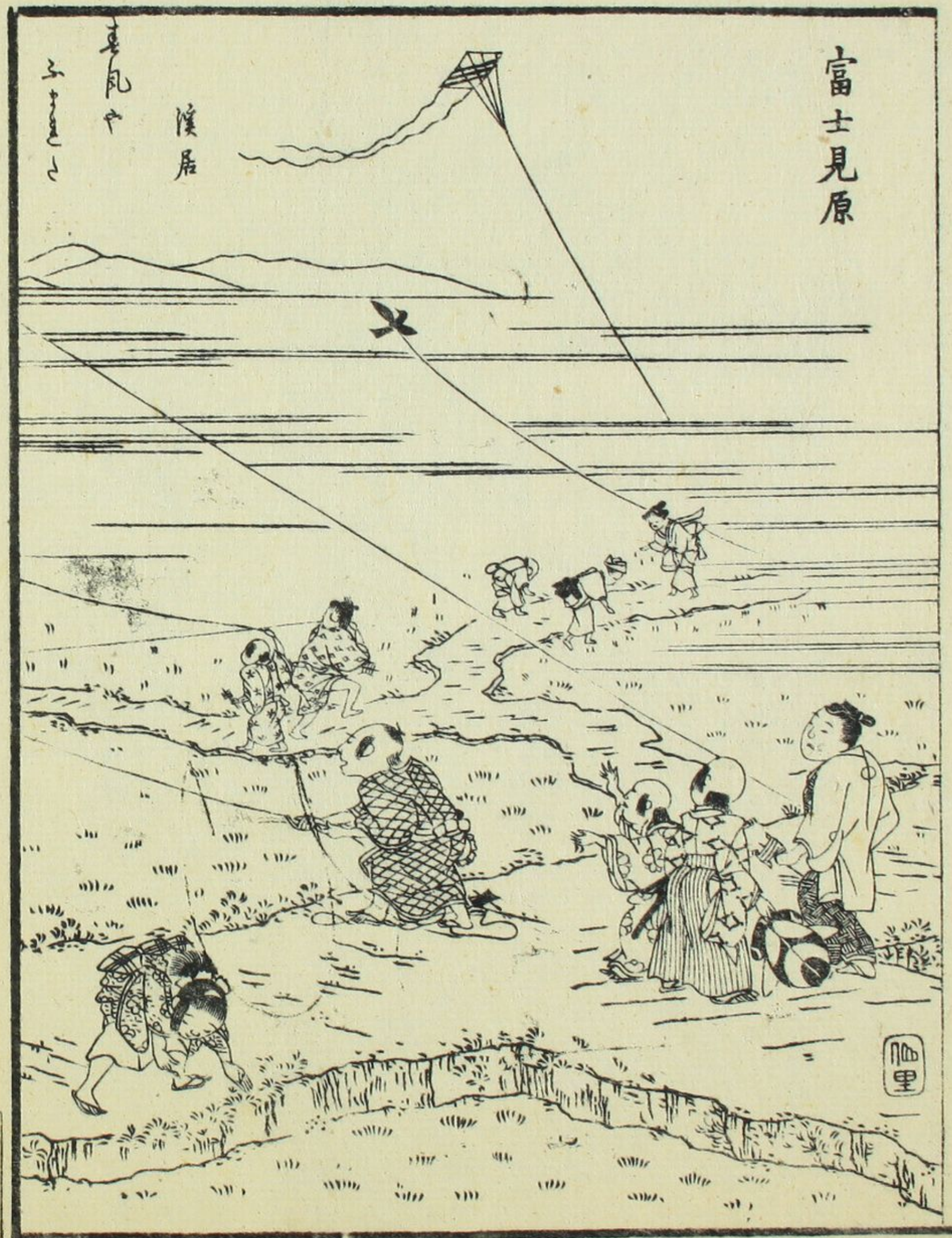
東嶺孤月
 千村伯濟
 猿狖嶺頭暮色收月華初吐大於釣須史布地金波
 通映出前津種と秋
 堀田方舊



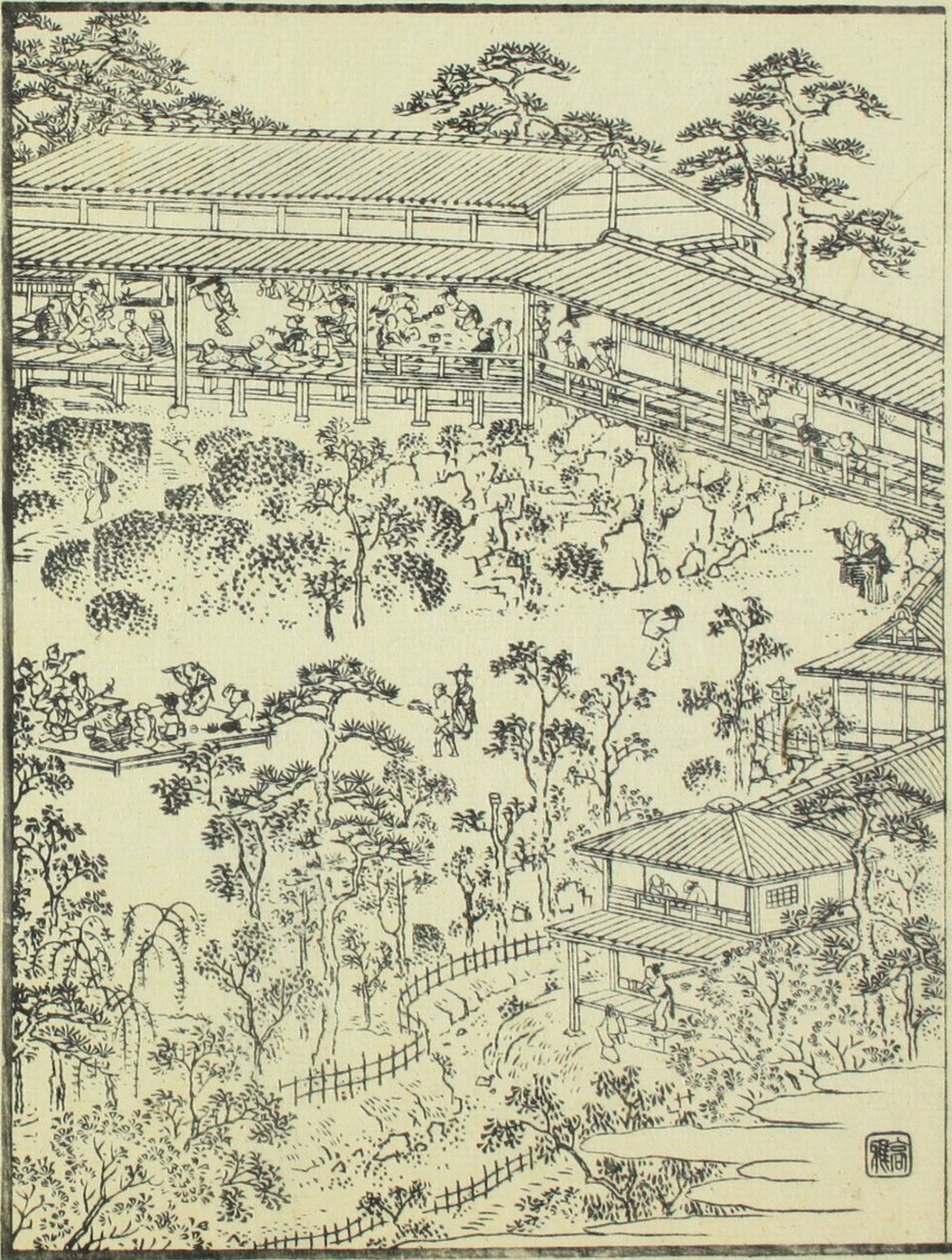
清浄寺

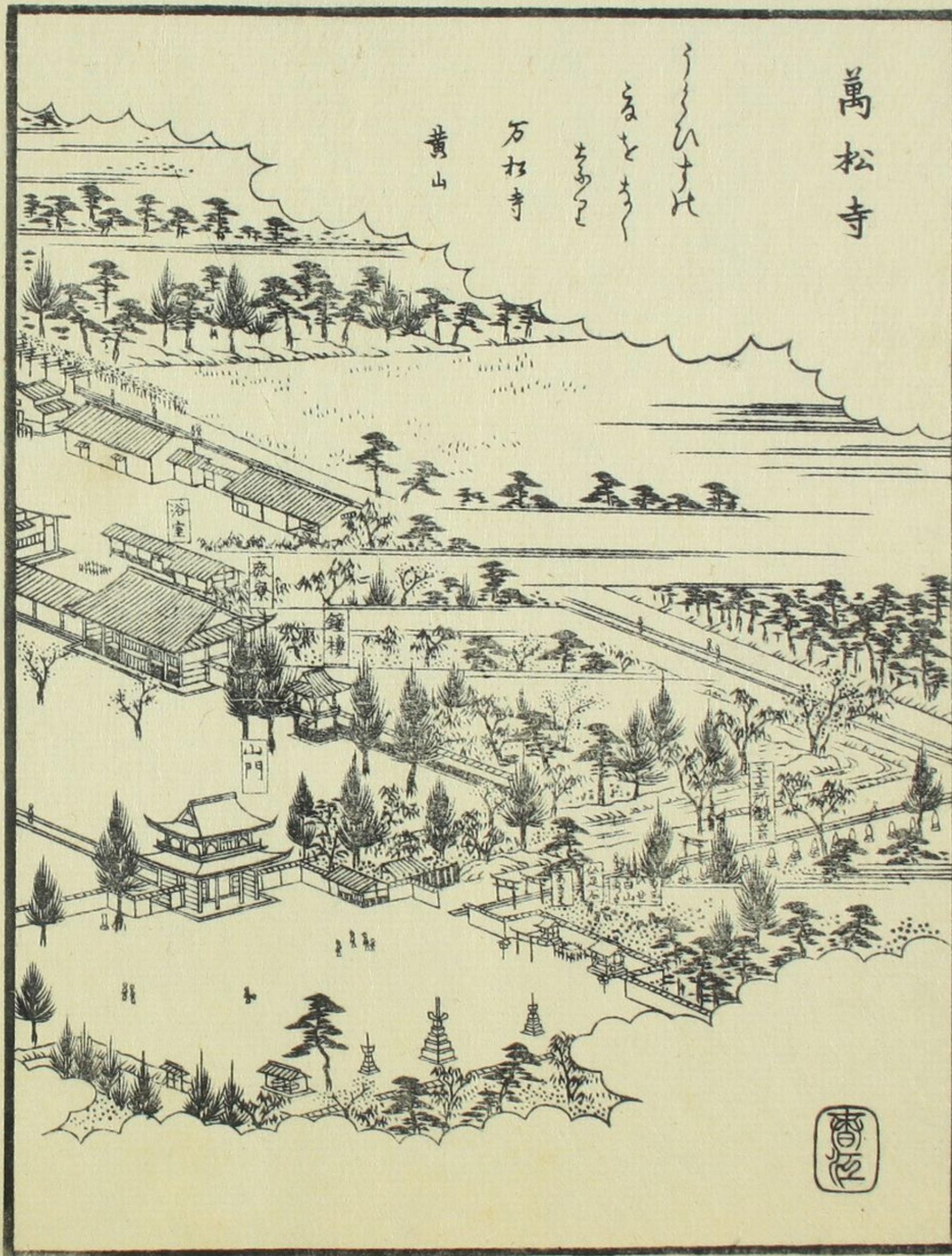
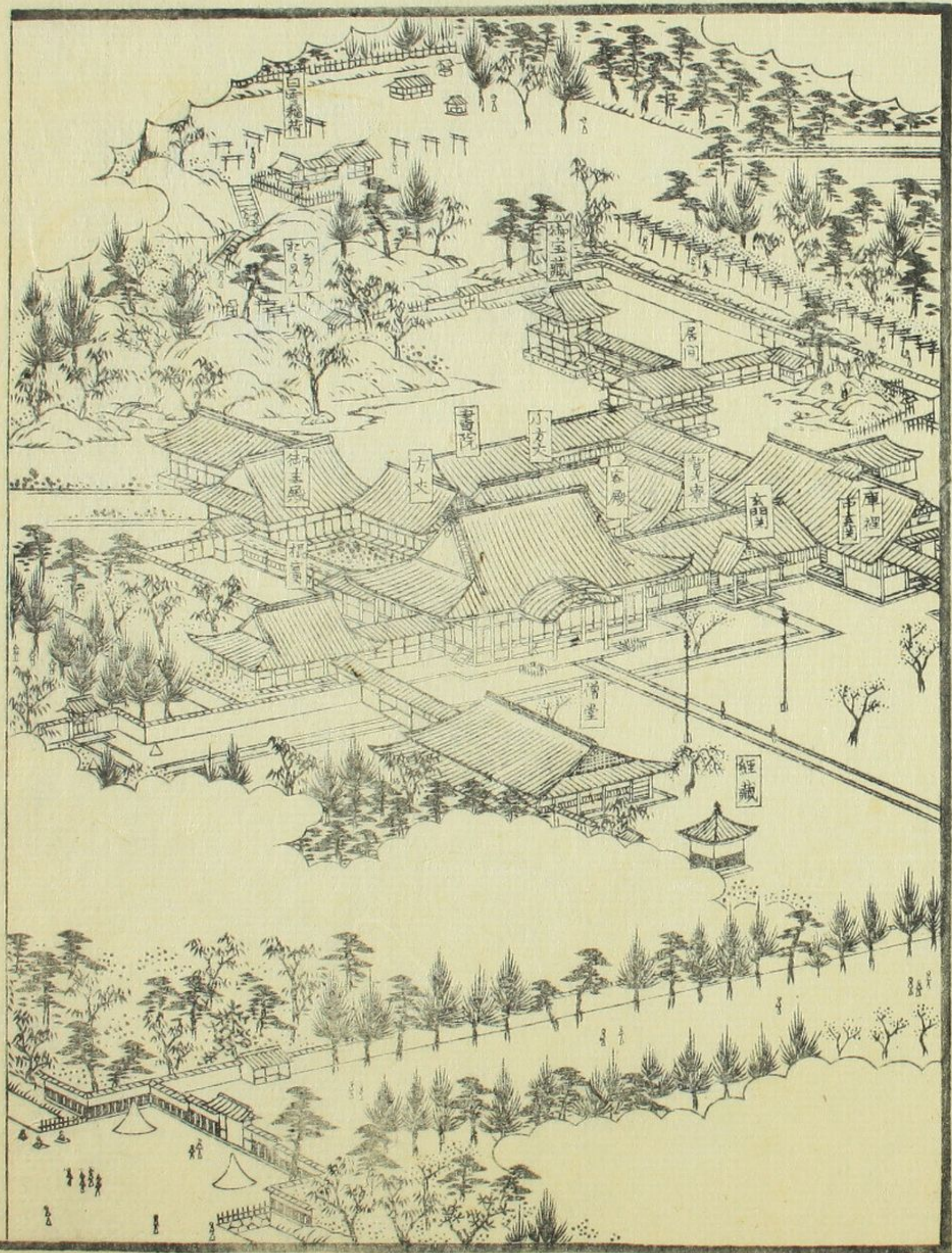
あり地蔵寺に
 冥佛にて世に
 矢場の地蔵と称
 十例年七月廿
 四日未だ
 一日ハ
 葡萄と
 おいた
 江戸北芝の村
 の生蓮と
 ひさけふいと





醉雪樓
遊宴
の圖

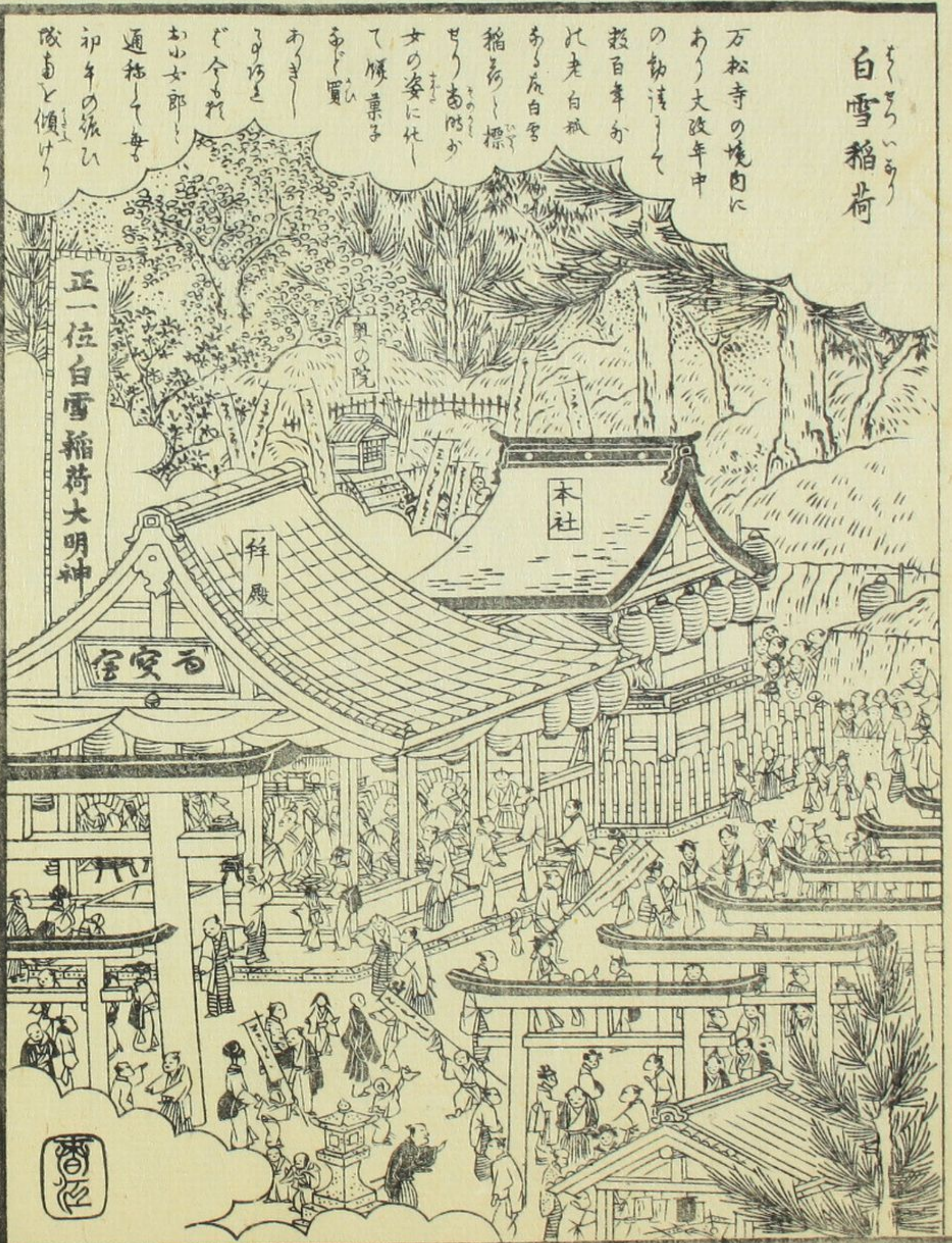




香印

白雪稻荷

万松寺の境内にあり大改年中の勅遣ありて救百年かれ老白狐ありて白雪稲荷と標せりあはれ女の姿に化して藤葉子と買ひあきふゆとぞ今もれおん女郎と通括く母初午の飯は改むと傾けり



龜岳山萬松寺

東門前所に在り曹洞宗松林寺國總持寺

天文九年古波城を織田信長が信秀

建主一火雲和尚と開山し二十二年二月三日信秀未森の城を

率て攻めしむに寺に葬り其法号萬松院桃巖道見とすを

とて寺号と改ま長十五年清城清造堂の後寺とす

其法号

今此十楊所

本尊

般若服土表財童子八歳龍女

禪堂

鐘樓

美濃國各務郡弓削田庄

佐良木郷長塚官推鐘檀那薄田源左衛門藤原祐貞慈能入道 藤原龜光 大工兵衛太

郎藤原友次結衆五十四人 文明七年乙未十月十八日 尾州春日井郡高田寺鐘比良佐々下

野守藤原貞則久地野伊泉入道 赤地新右衛門吉久 大永五年乙酉十二月廿日 筆者明真

。尾州那古野庄龜岳山萬松寺第四世住持比在大原播磨地寄附焉 天正戊辰丙戌仲春殊

如意日 高原院君御墓 國祖君の御分中茂野紀伊守幸長の御墓

野の琴 高麗君の御分中茂野紀伊守幸長の御墓

隱里 万松寺に東門の南とすをきくを豊八とす陶工の里とす酒茶に用る樂成此茶とす作

春日社 万松寺に東門の南とすをきくを豊八とす陶工の里とす酒茶に用る樂成此茶とす作

今に他の内より字のこま

例祭八月十八日神事あり



金剛山長榮寺

辰取町北東側に在り曹洞宗
春日井郡三洲村正眼寺末

信長公は伯母長榮寺槃室公

禪尼

春日井郡河村城之牧大和守長義
の室より侍存す信秀の妹なり

永禄年中清次に建立ありしと

安永七年中島府小川の邊に當寺に誕生佛ハ黄金にて洞作の西

龍口より水と土ききくぐ世に流るるに灌佛之〇本尊 教如の
在像

安永十年丑春三月九日内藤閑水の僅くして府下高齡の九老

け寺に集會して尚齒會とて各詩歌連俳と詠出す其人ハ都

筑高 字系克号千秋秋俗稱
道喜一百四歳 詩賦 清水成利 辨集本軒俗稱將作
九十三歳 和歌 松平秀雲 字

龍号君山俗稱太郎右 僧景照 東界寺前住字連仙
法門八十五歳 詩賦 号幸山八十四歳 和歌 僧惠胤 當寺隱居字定保
号明星菴八十三歳

詩 小鹿存 字良興号無孔笛八十
二歳 詩賦 狂歌 横井並明 字伯懷号半掃菴稱暮水
又也八十歳 和歌 水田

忠良 号鳥集軒俗稱古 僧覺融 天王坊前住字宏通号
仙八十歳 俳句 白雲居八十歳 和歌 其の外風雅人の書

画詩歌との世尚齒會記一卷官以て流布以きて明和六年

十二月也有翁生あけ寺に碑とて之を
何れも人の忌む

ひきりけのるよとてなきをててむとて
俳諧夢之遊 小見しり

性海山梅香院

梅川町にあり浄土宗末流を懸院末中流の末四村に在りしと貞享
元年ありしと 瑞龍院殿の淨室女梅香院殿の淨室提所と

本尊 阿彌陀
の在像

清涼山榮國寺

播磨東の志例に在りし浄土宗末流福林寺光の寺末末所とて
教如の地は志例に在りて耶蘇家門の内後一千余人漸次はりし

地なりしが寛文五年刑地とて春日井郡土器町一後より因六年志例に一室と建立
し中流塔地村兼師寺に文古に阿彌陀の像とて西光院の信可僧に隱居所

とて清涼庵とあらけしが貞享三年より藤田寺と稱し原福林寺に貞享和
尚と開山とせり因享和秋よりまゝ改号して今此山号寺号をてし

本尊 丈六の阿彌陀の
木像 千人塚 切支丹の旗と源
教ありしと

長嶋山崇寛寺

同町志例に在りし本願寺直末あり 岡山ハ濱州光龜の旗之
水谷左衛門の末可高後出家して安善坊と稱す天正年中移州石

山にて織田家合戦の時在りて難免の門徒とて幸て救度戦場に赴き後に戦死せ
し寺僧に在りしと新像今に在りしと本堂は安善坊の末子信の重成教

如上人の子に在りしと法名と教團と授けり又親聖人志を此名号 三授問の教像を
余種々のまゝ本を授けり今に在りしと勢州桑名郡志例の中川村にありしと

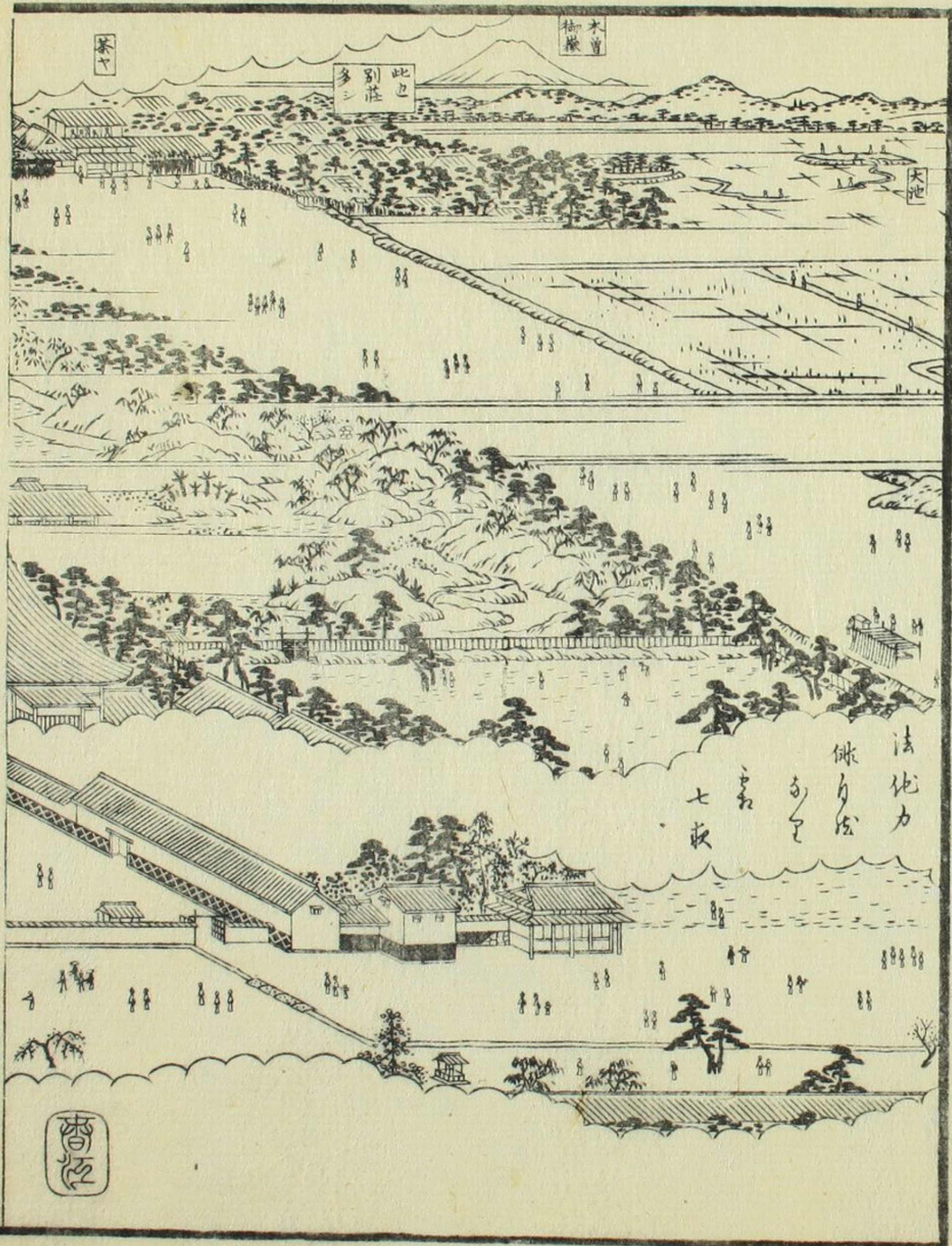
本尊 丈六の中
正徳年中又今の此より 本尊 石像
の在像

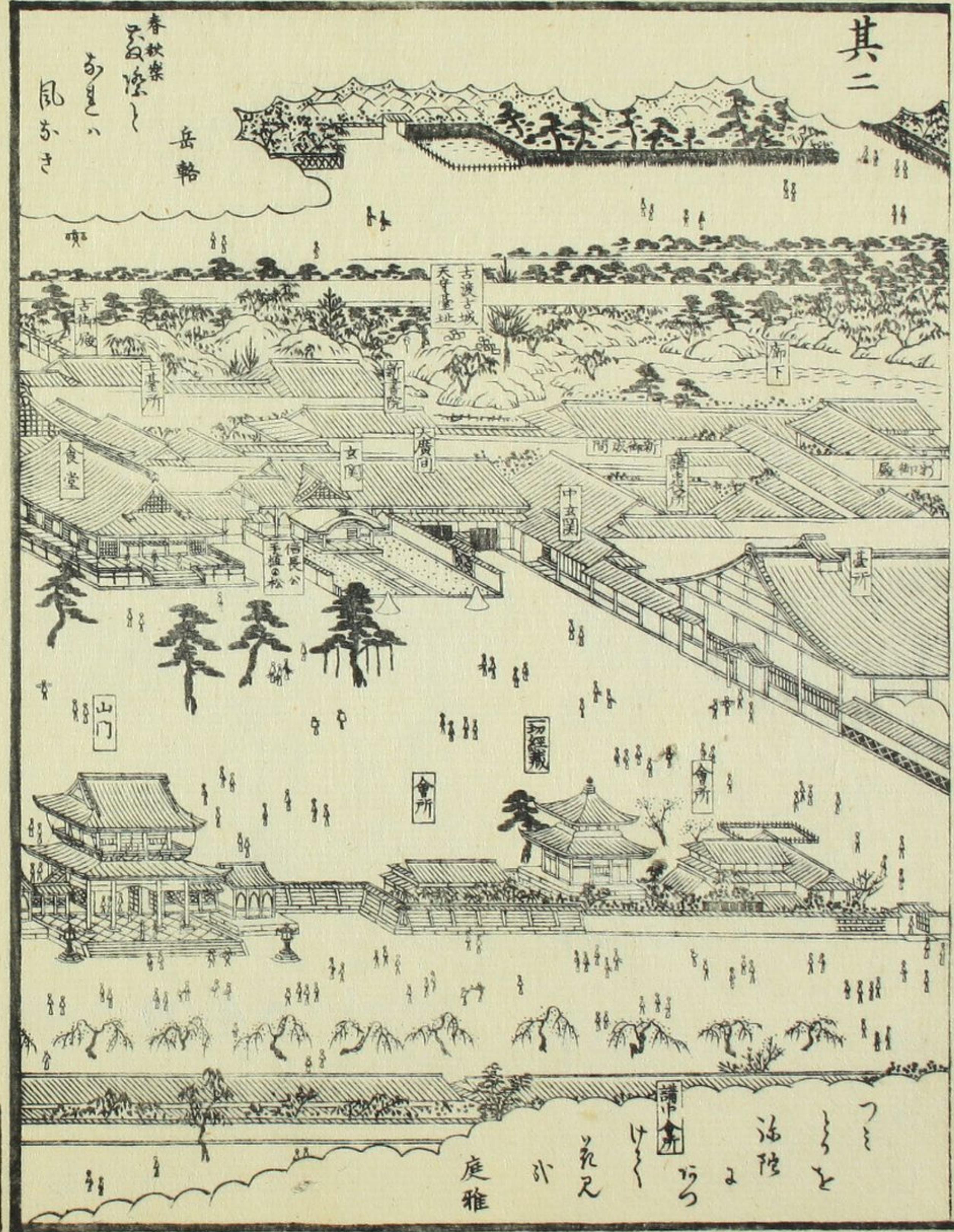
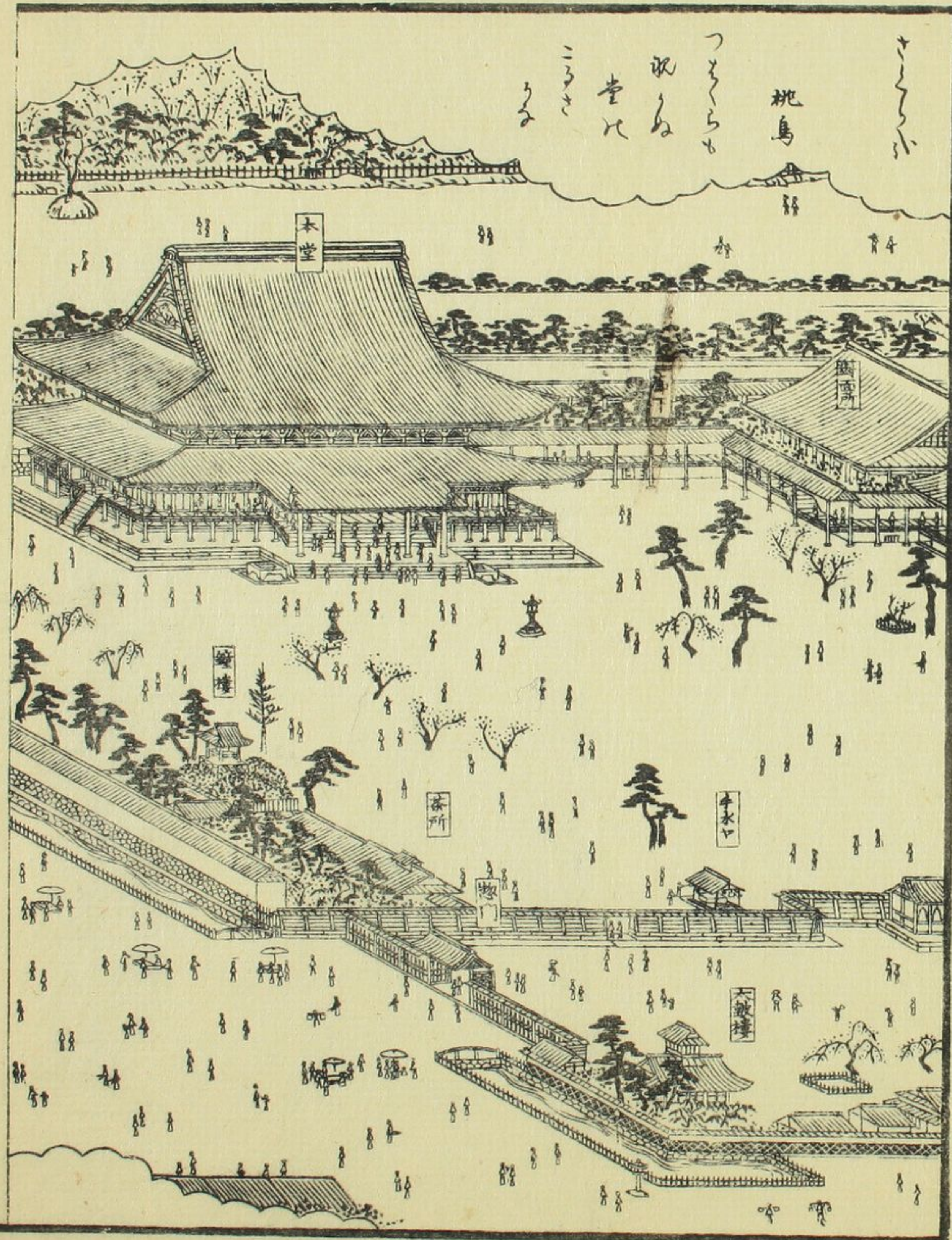
東本願寺掛所

播磨の志二 天正九年八月僧祐賢海東教壇仁村に

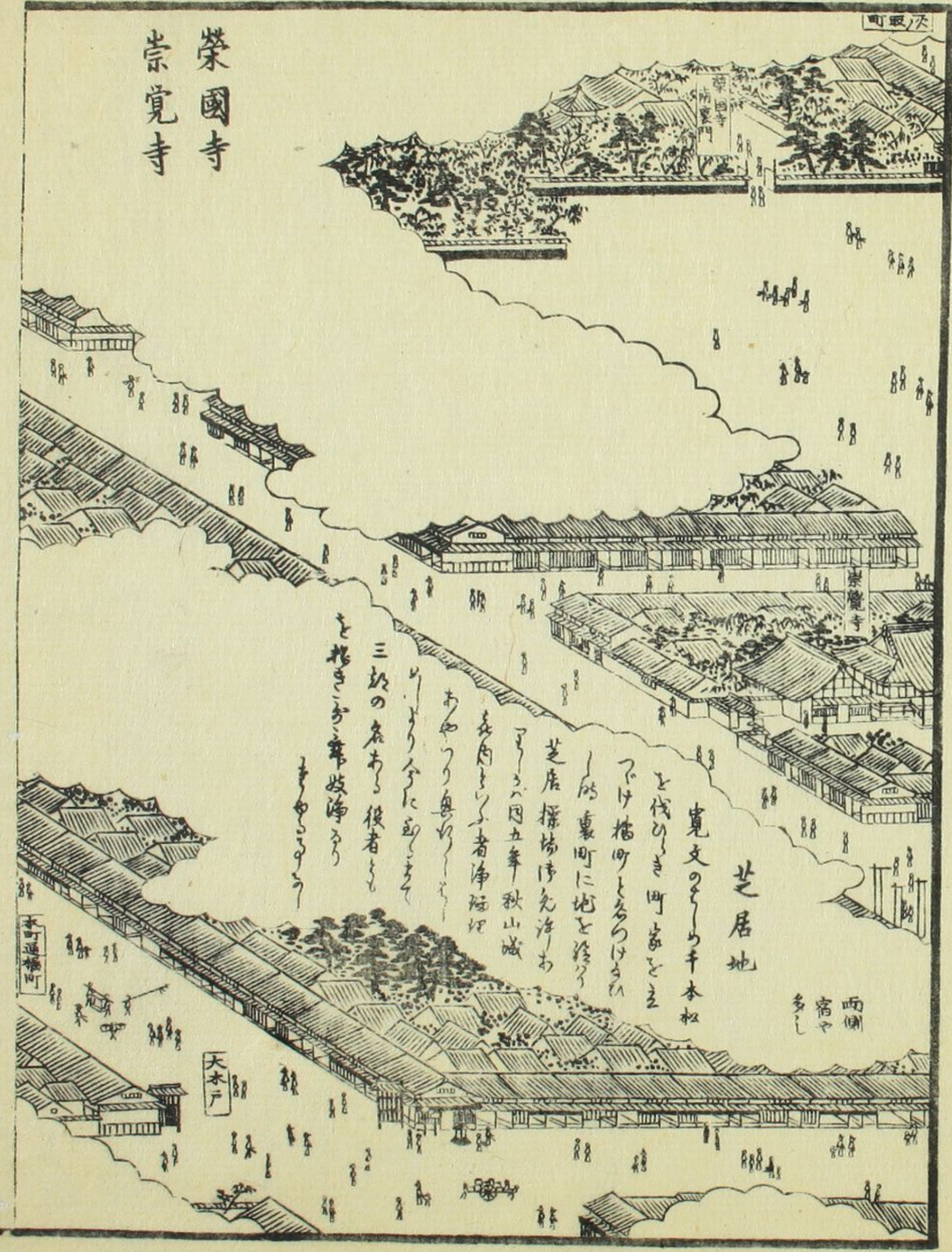
一寺と建立して泉龍寺とていと慶長十年那古野の地 府の
後袋へ遷せりしと後東本願寺十六世の門主一如大僧正名古庵に

所





榮國寺
崇寛寺



寛文のころ千本松
と伐ひき河原をま
つけ橋町と名のけら
の裏町に地を移す
芝居探場許免許あ
りて因五年秋山城
を内より者浄証に
あつり無り
りより今にあり
三坊の名あり後者
を移すか舞妓浄
まゆりやう

芝居地

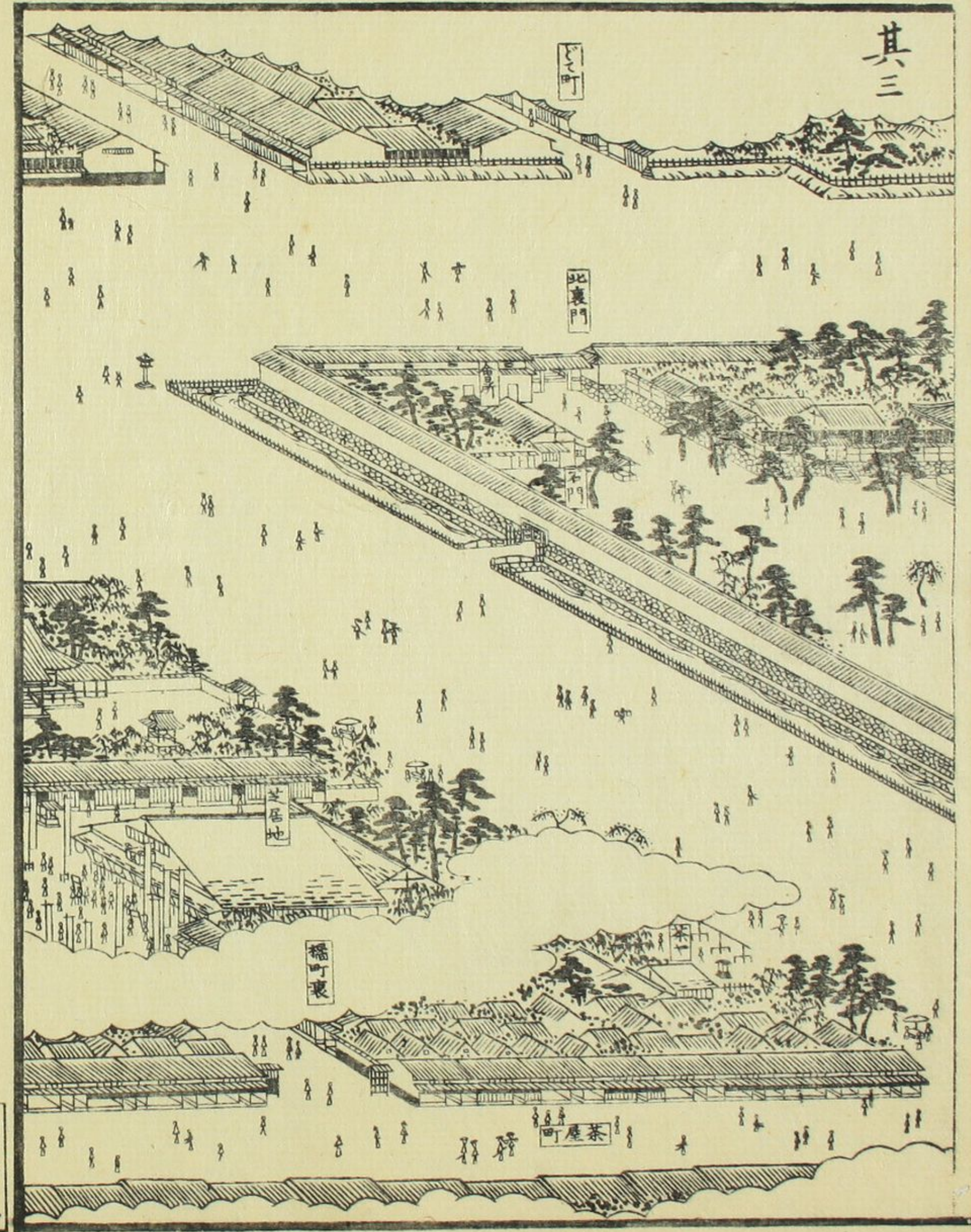
西側
宿多し

大木戸

本町通橋町

町取次

其三



町

北裏門

福町裏

茶屋町

掛所菅建の志終りて 御園ハ許免許と元禄三年七月
 了袋所泉龍寺と惣所ト云々同四年十月古谷村の内少
 境地法寺附ありて惣所と今の寺ハ同五年の夏迄
 舎と管みたり同十三年四月十二日一如上人末始本山中
 遷化せし其子真如大僧正の代同十五年十月廿八日
 経営事終一本堂をとり免法をたゞし
 一如上人と云 岡山と云 ○本尊 阿弥陀如来

子代までも終るもあはれの花の住してのんこもつて 石原正明

古渡古城

東掛所境内別主信秀那古野の城にありて天文三年晴男信
 長渡せり那古野の城ハ信長に渡りて自其ハ古渡又城を築きて後代せり幸
 玄の後廢城して田由ありしがその掛所の境内にありぬ信長は信長は信長と云
 則宗牧に 作と云ふまで 則宗牧が赤本紀行ハ 禁裡神修理の美と宗牧が赤國
 下る序あるべし 古ハ幾ふ此有さる思ひやうとぬ洋するりハ紀新小藩りてうに異し

尾張名所圖會卷之二終

